

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知 識 ・ 学 部 共 通 理 解 基 礎 科 目	経済学入門	本科目は、経済学の学修の出発点として、経済学とはいかなる学問であるのかについて全体的の眺望を与え、同時に学生各自の専攻プログラムの選択に資することを目的としている。まず、経済学の「論理」「概念」「実際」について包括的に講じる。そして、世界経済は、先進国における格差拡大で没落する中産階級が民主主義の経路を通じた反乱によって、行き過ぎたグローバリゼーションからの揺り戻しという大きな転換期に差し掛かっているなかで、格差・高齢化・共生などの実際に着目しつつ、経済学に基づいてどのように分析しうるか、その概略を講じる。 （オムニバス方式／全15回） （2 内藤 雅一／10回） 第一に、経済学の「論理」として、経済学の科学としての方法論を提示する。規範と実証(positive)、理論と実証(empirical)といった対立概念を軸に、数理モデルによる分析の妥当性や、数学、統計学などの使用の意義におよぶ。第二に、経済学の「概念」として、経済理論の根幹をなす諸概念の内容およびそれらの相互関係を要約的に論じる。とくに経済学において中心的である市場の概念とその価格メカニズムによる機構（需要と供給）の解明を軸に、その経済的厚生の評価、市場における情報の役割などに発展する。第三に、経済学の「実際」として、その歴史的な発生、発展をふまえ、学問分野としての見取り図を提示する。現代の経済学を構成する諸分野（ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、公共経済学など）とその守備範囲およびそれらの相互関係、さらには経営学などの近接分野との関係におよぶ。 （21 根岸 睦人／1回） 日本経済について、格差・高齢化・共生などの実際に着目しつつ、経済学に基づいてどのように分析しうるか、その概略を講じる。 （3 溝口 由己／1回） 中国経済について、格差・高齢化・共生などの実際に着目しつつ、経済学に基づいてどのように分析しうるか、その概略を講じる。 （13 石川 耕三／1回） 東南アジア経済について、格差・高齢化・共生などの実際に着目しつつ、経済学に基づいてどのように分析しうるか、その概略を講じる。 （24 藤田 憲／1回） EU経済について、格差・高齢化・共生などの実際に着目しつつ、経済学に基づいてどのように分析しうるか、その概略を講じる。 （25 道上 真有／1回） ロシア経済について、格差・高齢化・共生などの実際に着目しつつ、経済学に基づいてどのように分析しうるか、その概略を講じる。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解基礎科目	経営学入門	本講義は、主として株式会社に関する経営と会計の基礎的理解を習得することを目的とする。株式会社が一年間あるいは数年間経営するにあたり直面する問題に関して、経営学的な立場から企業外部の問題と内部の問題について理解する。また、所有と経営の問題に着目しながら、株式会社における会計の役割や税との関連について理解する。	
	日本経済入門	本講義では、経済成長、国民生活、金融システム、財政、国際経済の点から、日本経済の高度成長期、石油ショックと中成長経済への移行、バブル経済の発生と崩壊、失われた10年、リーマンショック後の世界経済危機、東日本大震災後の日本経済の現状について学ぶことを目的とする。	
	人文社会科学入門	経済科学部が開設する4つの学部共通基礎科目の1つとして、学生の視野を狭義の経済学・経営学から人文社会科学の隣接領域に広げるために、近・現代日本思想史・文化史・政治史からいくつかのトピックスをとりあげて解説し、人間の経済活動を文化と社会という広い文脈のなかで位置づける。 （オムニバス方式／全15回） （33 土屋 太祐／3回） 朱子学をはじめとして、現代日本を理解するために必要な近世の社会思想を解説する。 （32 左近 幸村／3回） 経済史におけるグローバル・ヒストリーの知見を文化史や思想史まで広げ、明治日本における洋楽導入の経緯を解説する。 （6 番場 俊／3回） 明治期の日本における小説ジャンルの成立過程に焦点を当て、文学と政治、言語、メディア、ジェンダーの関係を解説する。 （8 神田 豊隆／3回） 第二次世界大戦後の日本政治外交史を概観しつつ、戦後復興から高度経済成長、経済大国化、「失われた二十年」に至るまでの国内外の背景について考察を深める。 （7 石田 美紀／3回） 戦後の思想・文化・大衆社会を、アメリカ文化の影響と消費社会の変容という観点から整理し、解説する。	オムニバス方式
専門科目	入門ミクロ経済学	（近代）経済学の多くの科目の基盤をなすミクロ経済学の基礎を習得することがこの講義の目標である。ミクロ経済学を始めとする（近代）経済学の科目ではグラフと数式が多く登場する。ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ等の経済系専門科目を理解するためには、グラフと数式の“読み方”と“使い方”に習熟している必要がある。グラフと数式の“読み方”と“使い方”を学ぶこともこの講義の重要な目標である。またミクロ経済学の基礎理論を現実の社会経済の問題に応用する練習も行う予定である。学生の理解を促進するため適宜小テストを行う予定である。	
	入門マクロ経済学	マクロ経済学は、ミクロ経済学とともに近代経済学における最重要科目である。一国全体での経済活動はどのように行われているのか、あるいはある国においてどのような経済政策が望ましいのか、このような課題を考察するための概念・分析手法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	入門社会経済学	社会経済学（Political Economy）は、資本主義経済システム（市場経済）や社会経済システムの形成とその再生産に注目し、理論的・歴史的・社会的視点から資本主義のしくみを解明しようとする学問である。本講義では、まず歴史的視点から市場経済のしくみと時代的变化を押さえ、次いで、社会的視点から市場経済におけるさまざまな主体（アクター、個人・企業・政府など）の特質と役割を考える。	
	経済数学Ⅰ	大学学部レベルの経済学の学習に最低限必要な数学を学ぶ。中級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学などの学習にあたって数学が障害にならないための最低限の知識を習得することを目標に、集合、論理、微積分、最適化理論の初歩的事項を学ぶ。	
	経済数学Ⅱ	大学学部レベルの経済学の学習に習得が望ましい数学を学ぶ。「経済数学Ⅰ」での学習内容をふまえて、中級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学などの学習におけるさらなる数学の使用を想定し、最適化理論、線形代数の基礎的事項を学ぶ。	
	ゲーム理論	ゲーム理論について講義をする。ゲーム理論は合理的な意思決定の方法に関わる応用数学の一分野で、産業組織論、公共経済学、厚生経済学、国際経済学、マクロ経済学をはじめ経済学のあらゆる分野に応用されており、今や経済理論の必須事項であると言っても過言ではない。	
	ミクロ経済学Ⅰ	入門ミクロ経済学で学んだ基礎的なミクロ経済学より進んだ内容のミクロ経済学を解説する。入門ミクロ経済学で学んだ基礎的なミクロ経済学を簡潔に復習しながら、より進んだ内容のミクロ経済学を解説する。	
	ミクロ経済学Ⅱ	消費者の理論、生産者の理論、一般均衡理論について厳密に解説する。ミクロ経済学Ⅰで学んだミクロ経済理論の知識を前提としたより高度な内容のミクロ経済理論を解説する。	
	マクロ経済学Ⅰ	入門マクロ経済学で学んだ内容を発展させ、海外との財・サービスの移動や、資本移動がある場合におけるIS-LM分析を手始めに、入門では簡単な説明にとどめた消費・投資の決定理論や裁定条件から導出される株価の理論値などを学ぶことによりマクロ経済学の理解をより深めるのを目的とする。	
	マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学は一国全体の動きを研究の対象とする学問であり、それゆえに実感を伴いづらい難解な分野と見られることが多い。しかし、現実の経済問題や政策にも直接かわりをもつことも多く、それらを理解するのに不可欠な学問といえる。この講義では、基本科目である入門マクロ経済学やマクロ経済学Ⅰを履修した皆さんにより進んだマクロ経済学のトピックスを紹介し、よりマクロ経済に対する理解を深めていくことを目的とする。	
	統計入門	統計学の基本的な考え方や基本的な統計手法のうち、確率論と推測統計の部分を習得する。	
	計量経済学Ⅰ	この講義では、消費者や企業、政府などの経済活動に関するデータを統計学的に分析する手法として開発された計量経済学について学び、理論分析などから立てられた仮説について経済データを使ってそれらの真偽を検証するスキルを習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	計量経済学Ⅱ	この講義では、消費者や企業、政府などの経済活動に関するデータを統計学的に分析する手法として開発された計量経済学について学ぶ。理論分析などから立てられた仮説について経済データを使ってそれらの真偽を検証するスキルを習得する。	
	組織の経済学Ⅰ	組織の経済学では、主として企業組織に関する諸問題を経済分析の枠組を用いて検討する。現代の資本主義経済では、経済活動を遂行する上で企業組織の果たす役割は非常に大きい。企業組織の基本的性質を把握し、効率的な組織とは何かについて理解することを目的とした講義を行う。 内容は、企業組織に関する経済理論について講義を行う。企業組織の基本的性質、取引費用の経済学、情報とインセンティブ、契約に関する問題、所有権と不完備契約理論について取り上げる予定である。最適な組織を設計するにあたり、検討すべき諸概念を学ぶ。	
	組織の経済学Ⅱ	経営者は、企業を成功に導くため日々重要な経営上の決断を迫られる。企業組織を運営するに当たり、組織の経済主体の意思決定問題は非常に重要である。組織の経済学Ⅱでは、経済組織内部の意思決定に関する問題を、経済分析の枠組みの中で体系的に検討する。意思決定の基本的な問題を理解し、最適な意思決定をするための枠組みや、組織内部の経済主体間の戦略的意思決定について学ぶ。	
	市場と組織の理論	市場や組織に関する理論について考察する。理論体系の成り立ち、その仕組み、意義なども含めて授業でお話する予定である。海外の実例や社会的共通資本の視点も参照しながら授業を進める。それらを踏まえて社会における問題も考察したいと考えている。	
	応用ミクロ経済学	ミクロ経済学は、均衡分析と最適化分析とに分けることができる。これらの手法を使って、TPP、アメリカトランプ政権が発令した保護主義的貿易政策、直接税と間接税比率、医療保険制度などの実際に我々が直面している諸問題をミクロ経済学的アプローチでそれぞれのいくつかの結果をみていくことにする。	
	国際貿易論	伝統的な国際貿易理論をリカードモデル、ヘクシャー＝オリーンモデル、クルーグマンモデルを中心に講義を行う。数学モデルを展開するので、数学やミクロ経済学のモデル分析を容易に理解できることを前提とする。	
	環境経済システム論Ⅰ	環境経済学の基礎的な概念、方法論及び地球環境システムの理解を基礎に、経済活動によって引き起こされる環境汚染・破壊のメカニズムと、それを防ぎ、制御するための政策手段など、環境管理に関する政策的課題について考察する。とりわけ、基礎となる市場経済、社会的事象に関する理論の知識と、そこから派生する分析構造上の問題、また理論的アプローチと対比して環境問題に対する歴史的な政策の分析について取り上げ、考察を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	環境経済システム論Ⅱ	環境経済学の基礎的な概念、方法論及び地球環境システムの理解を基礎に、経済活動によって引き起こされる環境汚染・破壊のメカニズムと、それを防ぎ、制御するための政策手段など、環境管理に関する政策的課題について考察する。とりわけ、基礎となる市場経済、社会的事象に関する理論の知識と、そこから派生する分析構造上の問題、また理論的アプローチと対比して環境問題に対する歴史的な政策の分析について取り上げ、考察を行う。	
	金融論Ⅰ	本講義では、大学に入って初めて金融論を学ぶ学生や、金融の基礎を改めて学びたいと考えている学生を対象に、現代金融論の基礎理論について講義する。具体的には、金融の分野で別途講義科目がある「ファイナンス」関係以外の金融の基礎理論（貨幣論、金融市場論、金融機関論、金融システム論など）について講義する。	
	金融論Ⅱ	本講義では、金融論Ⅰで学んだ内容を基礎として、昨今ニュースでも大変話題となっている金融政策と中央銀行の役割について講義する。講義では、中央銀行、金融政策とは何かから始まり、最終的には、昨今の非伝統的な、異次元の金融緩和政策の効果と課題等についてまで講義する。	
	国際マクロ経済学Ⅰ	入門レベルの国際マクロ経済理論の基礎について講義することを主とする。また、国際マクロ経済に関する諸制度、実証研究にも触れる。さらに、中級レベルのマクロ経済学についても学ぶ。	
	国際マクロ経済学Ⅱ	国際マクロ経済理論について講義することを主とする。また、国際マクロ経済に関する諸制度、実証研究にも触れる。さらに、中級レベルのマクロ経済学についても学ぶ。	
	日本経済史	本科目では、16世紀の戦国時代から第2次大戦後の高度経済成長にいたる日本経済の流れを講義する。とくに、同時代における西洋の歩みとの対比を念頭に置きつつ、東アジア諸地域との関わりから日本の工業化を論じてゆく。	
	社会思想史	本講義では、重商主義、重農主義からアダム・スミス、リカード、マルサスなどの古典派経済学者、およびマルクスまでの西洋の経済学の流れをおさえながら、同時代における日本の経済思想について解説する。それぞれの時代の経済思想が、いかなる社会背景のもとに、どのような問題意識から生まれたかを理解する。過去の経済問題に対し、先人のエコノミストがそれぞれいかなる見解をとっていたかを学ぶことで、今日の類似した問題を考える足がかりを得る。	
	世界経済史Ⅰ	長い間、日本の学校で教える「世界史」は国という単位を重視し、諸外国史の集積として「世界史」を描いてきた。しかし近年の歴史研究とりわけ経済史では、国家の枠を超えた視点から世界を一体のものとして捉え、そこから現在のグローバル化の歴史的起源を探ろうとする試みが盛んである。中でも、16～18世紀の「近世」と呼ばれる時期の研究が盛んである。そこで本講義では、グローバルヒストリーを提唱して世界史の見直しを進めている秋田茂の本をテキストとし、イギリスがヨーロッパの辺境の小国から「世界システム」の中心になり、18世紀後半に産業革命を起こすまでを扱う予定である。イギリス中心の話になるが、世界経済のグローバルな流れを解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	世界経済史Ⅱ	19世紀、20世紀のアジア経済の発展とイギリス帝国のかかわりを中心に解説する。 かつて近現代のアジア経済は、その後進性や欧米列強による搾取が強調されていたが、近年は杉原薫が提唱したアジア間貿易論や、それを継承させた秋田茂らにより、植民地化が進む中でも、アジア経済が一定程度発展していたことを強調する動きがある。これらの研究は「帝国主義を正当化している」「アジアから考えると言いながら、アジア経済に対する理解が浅い」等々の批判を浴びつつも、西洋中心主義を見直すグローバルヒストリーの一翼を担う研究として、国際的にも注目を浴びている。そこで本講義では、秋田茂の著書をテキストにしながら、近現代アジア経済史をめぐる研究動向を紹介する。同時に、かつてのインド研究の代表例として、吉岡昭彦の研究（「参考文献」参照）にも言及する。	
	経済学史	本講義では、重商主義、重農主義からアダム・スミス、リカード、マルサスなどの古典派経済学者、およびマルクスまでの西洋の経済学の流れを中心に講義する。また、同時代における日本の経済思想についても、適宜説明する。	
	アメリカ経済論Ⅰ	現代の世界経済の支柱となっている現代アメリカ経済の特質がいったいどのように出来上がってきたのか。この問題意識のもとに、建国期から1960年代末までのアメリカ経済の構造の変遷を辿る。	
	アメリカ経済論Ⅱ	アメリカは極めて短い期間で世界の経済を席捲したが、衰えを示し、世界の内向きで不穏な情勢を導く主因となっている。このようなアメリカ経済の持つ特質と変移の流れを「米中経済関係」の揺れ動きを柱に、その複雑なメカニズムを追究する。	
	EU経済論	バルト三国の一つリトアニアが2015年1月からの欧州単一通貨ユーロ導入に踏み切り、ギリシャ財政債務危機を発端とする「ユーロ危機」下において、ユーロ圏は19カ国に拡大した。旧ソ連構成国でユーロを導入するのはエストニアとラトヴィアに次いで3カ国目である。ユーロの紙幣流通高がUSドルのそれを凌駕するなど、第2の基軸通貨たるユーロのプレゼンスは重大である。しかし、ユーロ圏周縁国のギリシャやアイルランドで財政が破綻し、ポルトガルやスペイン、イタリアでも信用不安がくすぶる。これら「PIIGS」諸国の財政債務問題が28カ国からなるEU経済全体を動揺させていることは明らかであり、東欧諸国がユーロの早期導入方針の見直しを発表するなど、国際金融史的成果としてのEU条約に基づく経済通貨同盟は、その存在意義を厳しく問われている。 本講義は、他地域に類を見ないリージョナル通貨統合を実現したEU28経済の特色について、19カ国からなるユーロ圏における為替変動リスク回避システムの形成という国際金融史的観点から論じつつ、「欧州通貨統合の現状と深層」に迫る。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	ロシア経済論	この科目は、1992年以降のロシアの市場経済化を中心に授業を行う。ロシアにおける計画経済から市場経済への移行過程は、人々に大きな混乱と痛みをもたらした。移行過程とは、市場経済を初めて人工的に導入するという社会実験の過程でもある。その実験は、市場経済に慣れ親しんでいる私たちにとっても新たな知見を与えている。私たちは1992年当時どのように市場移行戦略を考え、その後何が失敗し何が成功したのか。このような問いかけを通じて、ロシア経済についてより詳細に分析する。現在は体制転換から既に20年の年月がたち、ロシア経済は市場移行の転換ショックをほぼ終息させ、資源価格の高騰を背景に高度成長を達成しつつづけている。ロシア経済の目下の課題は、その経済成長をいかに持続的なものにするか、資源産業以外の国内製造業の育成等、国内経済基盤の強化にある。その矢先に2008年世界金融危機が発生し、ロシア経済は危機によって深刻な影響をうけた。直近のロシア経済はどのように危機を克服し、再び国内改革を実施し経済成長を達成しようとしているのか、ロシア経済の現状についての幅広い知識と分析力を養うことがこの授業の大きな目標である。関連科目の『比較経済体制論』の内容と比べて、この科目はより具体的なロシア経済情勢の内容が多くなる。	
	比較経済体制論	この科目は、かつて20世紀に存在した「大きな政府」の権化である社会主義経済体制の出現と失敗、その後の資本主義市場経済への体制転換について学ぶ。なぜ社会主義体制は20世紀初頭に人々を魅了して登場し、世界の3分の1を占めるまでに拡大したのか、そしてなぜ約70年にもわたり存続し20世紀末に崩壊したのか。そして改めて社会主義計画経済から資本主義市場経済へ移行することとはどのような政策が必要となったのか。その移行過程でどのような問題が生じ、人々の生活に影響を与えたのか。この講義ではこのような問いかけを通じて、経済体制（システム）をより多面的に理解し、現代のグローバル経済の長所と短所を理解することを目的としている。具体的にはロシアおよび東欧の移行経済を学習対象とする。関連科目の『ロシア経済論』の内容と比べてこの科目は、より歴史や思想、理論などの内容が多くなる。	
	アジア経済論Ⅰ	今日の世界の経済動向を知るうえで、中国経済への知識は欠かせない。本講義は、中国経済を体系的に理解することの一助となること、同時に、受講生の分析力を涵養することを目指している。	
	アジア経済論Ⅱ	本講義では、中国を除く東アジアを主な対象とする。後発工業国のモデルを日本にみながら、東アジア各国の従来の後発工業国としての発展戦略や市場と政府の関係を整理し、次に90年代以降に始まる新自由主義的变化を受けてどう変化したのかについて、労働市場面、産業面、金融面から検討する。また所得格差や貧困という視点で、アジアが抱える問題について考えていく。 なお、本科目は、研究所研究員の経験を有する教員が、それを活かして経済事象の分析方法等についても授業を行う。	
	開発途上国経済論	政府（公企業）、外国企業、国内企業を主要アクター（分析単位）と考える開発経済学に基づいて、開発途上国の現状および課題を理解する。アジア地域の開発途上国を取り上げ、経済発展（経済成長）過程における経済政策上の課題を分析する手法を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	国際開発論	開発経済学に基づき、国際開発の現状および課題を理解する。アジア地域の開発途上国を具体例として取り上げ、国際開発分野における経済政策上の課題を分析する手法を講義する。近年の開発経済学分野における重要課題、即ち、貧困削減、持続可能な開発目標（SDGs）、ジェンダーや障害／開発など、近年の国際開発・国際協力分野の最新トピックを説明する。 日本およびその比較対象としてアジア地域を取り上げ、国際開発における諸問題をこれら諸国はどう解決してきたのかを知ること、金融経済論・開発経済学（特に開発金融論）・マクロ経済学（国際マクロ経済学）・財政学など経済学の理論に基づいて、現実の経済問題を分析できるようになることを目指す。事前の「開発途上国経済論」の履修が推奨される。	
	行財政入門	憲法、政治学、行政学、地方自治などの国・地方自治体の存立の基盤となる仕組みについて概説するとともに、政府と国民の法律関係を規定する行政法について基本的な視点を解説する。 なお本科目は、政府や地方団体での行財政運営の経験を有する教員が、その実務経験を十分に活かして行う授業科目である。	
	財政学Ⅰ	今日の経済における財政の役割は大きくなる一方で、財政システムは財政赤字、負担の公平、社会保障制度の持続可能性といった面で多くの問題を抱えている。財政の諸問題を理解し、自ら考える力を身につけるため、本講義では財政の理解に重要な項目（予算、経費など）ごとに、その理論と制度を学習する。また現代財政の歴史的展開についても学習する。	
	財政学Ⅱ	今日の財政の役割は大きくなる一方で、財政システムは財政赤字、負担の公平、社会保障制度の持続可能性といった面で多くの問題を抱えている。財政の諸問題を理解し、自ら考える力を身につけるため、本講義では財政の理解に重要な項目（租税、公債、社会保障など）ごとに、その理論と制度を学習する。	
	公共経済学Ⅰ	民間部門の経済活動に対して政府などの公的部門が関与する必要性を、経済学に基づいて分析、評価するために必要な概念を説明する。	
	公共経済学Ⅱ	市場メカニズムを通じた資源配分が望ましくない結果をもたらす場合に、望ましい資源配分を実現するための仕組み（メカニズム）を経済学に基づいて明らかにしたうえで、その実現可能性と限界も考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	公共選択論	経済学では、「政府」を、不況や市場の失敗に対して、国民全体のために「適切に」行動してくれる「全知全能」の存在として、政府は「失敗しない」存在であると、位置づけてきた。しかし、実際の政府はどうなのだろうか。政府の政策は適切な方法で、適切なタイミングで本当に実行されているのだろうか。公共選択論とは、政府や、政治家、官僚機構、投票者（国民）、企業、利益団体など、政治的意志決定に関係する経済主体の行動を、経済学をベースに分析する学問領域である。公共選択論では、政府の「ありのまま」の姿を捉えて、政治家は本当は誰のために行動して、官僚機構は何を目的にして行動しているのか、また、国民はなぜ政治に無関心で選挙には行かないのか、それによって経済や社会、財政などにどんな弊害が生じているか、つまり、「政府の失敗」といったテーマを扱う。さらに、今日の公共部門改革の意義や、なぜ財政再建などの諸改革がうまくいかないのか、についても理解を深める。	
	NPO論	近年注目されるようになった、民間非営利組織（Non-Profit Organization=NPO）について取り上げる。 1995年の阪神・淡路大震災以降、日本においてもNPOが広く認知され、社会的セクターの一翼を担いつつある。しかし、日本のNPOは阪神・淡路大震災以前から存在したのであるし、世界的にも各国の経済に小さからぬ位置を占めるだけでなく、その姿も多様である。 本講義は、主として経済学的観点から見たNPOの位置、各種制度、存在理由、周辺領域について理解することを目的としている。	
	文化経済学	本授業は、「文化経済学」について講義を行う。 文化経済学とは、文化と経済の関係を、経済学に基礎を置いて、経済学の手法を拡充・改革して適用し、両者の関係を分析しようという学問である。現代は資本主義の社会であるが、その中でも、文化や芸術は人間生活にとって重要であり、いかに経済の中で育てていくかが課題であると同時に、文化は経済学的にどのように分析されるのかを紹介する。	
	地方財政制度論	地方財政制度論と地方財政運用論では、地方税、地方交付税、国庫支出金などを財源として地方自治体が行政を展開する地方財政について、その役割、経緯、実際、諸制度の仕組みなどを解説する。地方財政制度論では、地方財政全般の仕組み、地方税、地方交付税、地方債及び国庫支出金などの具体的な仕組みについて解説するとともに、地方分権を進めるために地方財政がいかにあるべきかについても考察することとする。 なお本科目は、政府や地方団体での行財政運営の経験を有する教員が、その実務経験を十分に活かして行う授業科目である。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	地方財政運用論	地方財政制度論及び地方財政運用論では、地方税、地方交付税、国庫支出金などを財源として地方自治体が行政を展開する地方財政について、その役割、経緯、実際、諸制度の仕組みなどを解説する。地方財政運用論では、その理解の前提となる国・地方を通じた財政に関する考え方、基礎知識、経緯、実際について概説するとともに、現在の地方財政が抱える課題についても考察することとする。 なお本科目は、政府や地方団体での行財政運営の経験を有する教員が、その実務経験を十分に活かして行う授業科目である。	
	経営学概論Ⅰ	経営学に初めて触れる学生の目線に立ち、この学問のベーシックな原理を鳥瞰することを目的とする。前半では、経営学の基礎的学史、企業経営の全体像とそのしくみを主として組織内部のマネジメントの問題として学習する。後半では経営資源の管理の要点、現代社会における開かれた存在としての企業の課題について、実務経験を通じて収集した事例等を踏まえながら学ぶことを基本構成とする。	
	経営学概論Ⅱ	経営学概論Ⅰと経営学概論Ⅱでは、企業経営分野の基礎科目として、経営学の各専門領域の基礎的な内容を講義する。経営学とは、企業を分析の対象として、その仕組みや動きを理解しようとする研究分野である。実際の企業はさまざまな側面を持ち合わせている。そのため、経営学では企業の仕組みや動きを分析するにあたり、さまざまな見方が用いられる傾向にある。 経営学が取り扱う論点やアプローチは多様であるものの、本講義ではそれらを網羅するという方法とはならず、むしろ経営学を理解するために知っておくべき代表的な切り口（基本分野）にのみ焦点を絞り、さらにはそれぞれの切り口の中で重要な論点をいくつか取り上げて、解説を行う。 経営学概論Ⅱでは、マーケティング論と経営戦略論の基礎的な内容について、とりわけそれらが交差する分野であるマーケティング戦略論を整理軸としながら、コンセプト（概念）とケース（事例）を用いて学習する。	
	会計学概論Ⅰ	簿記は、企業の日々の経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする技能である。本科目では、商店・中小企業で用いられる商業簿記を学ぶ。なお、これは、日商簿記検定試験3級の内容に該当する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	会計学概論Ⅱ	会計学概論Ⅱでは、会計学概論Ⅰで学んだ知識をさらに深める。会計学概論Ⅰでは、簿記3級程度の知識、つまり個人商店の貸借対照表と損益計算書を作成することを学んだ。会計学概論Ⅱでは簿記の知識で作成された決算書が、社会の中でどのように利用されているのか、またその決算書からどのようなことが読み取れるのかを学ぶ。 さらに、3級の簿記では、商品売買業の簿記について学んだが、この授業では製造業やサービス業の会計についても学ぶ。そのためには、サービスや製品の原価を集計し決める基準を理解する必要がある。 企業活動を理解するためには一定の思考枠組みが必要で、企業会計は企業活動を理解するための思考枠組みを提供する。企業会計を理解するには、簿記の運用能力が不可欠である。講義に出席するだけでなく、問題練習を行うことで、簿記の運用能力の養成をする。そうすることによって、企業活動を理解するための思考枠組みとしての企業会計の運用能力を高める。	
	経営組織論Ⅰ	同一の業種、規模であっても、存続・成長する組織がある一方で、衰退・撤退する組織がある。その重要な差異の一つに組織のマネジメントの違いが挙げられる。この講義は、ますます複雑化、複層化する現代の経営組織の諸問題に対処するうえで、いわば実体がよくみえる“メガネ”（理論や思考の枠組み）を身につけることを目的とする。そこで本講義では、主体を組織レベルに指定するマクロ的視点から、理論のみならず、実務家として蓄積してきた多様な事例を交えて組織全体および組織と環境のマネジメントの諸課題についてレクチャーする。	
	経営組織論Ⅱ	同一の業種、規模であっても、存続・成長する組織がある一方で、衰退・撤退する組織がある。その重要な差異の一つに組織のマネジメントの違いが挙げられる。この講義は、ますます複雑化、複層化する現代の経営組織の諸問題に対処するうえで、いわば実体がよくみえる“メガネ”（理論や思考の枠組み）を身につけることを目的とする。本講義では、主に組織のミクロ的観点から、理論のみならず、実務家として蓄積してきた事例を交え、主に組織と個人の関係に焦点を当て、マネジメントの諸課題についてみていく。	
	人的資源管理論Ⅰ	企業の重要な経営資源といわれる「ヒト・モノ・カネ・情報」の中でも、ヒトに関連する人的資源は、その担い手が感情や意思をもった人間そのものであるために、採用・選抜・配置の方法や人材育成・評価さらには給与や昇進などの処遇の仕方、それに、人間関係やコミュニケーションの在り方などが、従業員のやる気や動機づけに大きな影響を与えることになるために、他の経営資源とは決定的に異なる。 そこで、本講義ではその「人的資源」に焦点を当て、主として社員の選抜・採用、配置の問題、人材育成と評価、さらには給与や昇進、処遇の問題など、「人的資源管理」の基礎的な項目を一通り学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	人的資源管理論Ⅱ	私たちが生きる現代は、働き方の多様化した時代である。正社員として働く人もいれば、夢を追いかけながら非正規社員として働く人もいる。また、自営業や企業家として働く人もいる。本講義では、このような働き方が多様化した時代で、「人々はなぜ働くのか」という素朴な疑問から「働くことの意味」を問い、人生における「キャリア」とは何かを学習する。人の働き方にはどのようなものがあるのか、人が一生懸命に働けるようにするためには、「働き方」をどう考えればよいかといったことを学習しながら、この現代日本における「人生におけるキャリアの描き方」や「働くこと」の意味を考える。	
	経営戦略論Ⅰ	経営戦略論Ⅰでは、事業戦略および競争のダイナミクスについて講義する。多くの場合、競争は個々の事業レベルで生じる。そこでの戦略的意思決定は主に、コストをどう削減するかという意思決定と、差別化をどのようにして達成するかというものに分かれる。また、事業戦略ではいったん構築した競争上の優位性をどう持続させるか（競争のダイナミクス）についても考察する。さらには、戦略を立案し実行する際に陥りがちな意思決定上のバイアスについても学ぶ。	
	経営戦略論Ⅱ	経営戦略論Ⅱでは、企業戦略（または全社戦略）について講義する。多くの企業において、単一の事業だけを行いながら存続あるいは成長を図ることは難しい。なぜなら、事業にはそれぞれライフサイクル（一生涯）があるため、単一事業だけを行っていたのでは、事業のライフサイクルが企業のライフサイクルと一致してしまうからである。これを回避するために、企業は複数の事業を組み合わせることで展開することによって、企業全体の存続または成長を図る。これを追求するための企業戦略について、特に垂直統合、多角化、国際化、参入と撤退、および企業構造の再構築に焦点を当てながら学ぶ。	
	中小企業論	本講義では「中小企業」の基礎概念について学びながら、大企業との関係において規定されることの多い中小企業の特徴について講義を行うほか、外国企業や日本企業の具体的な事例を取り上げながらその違いについて説明する。また、世界における中小企業の史的変遷及び、海外の中小企業と日本の中小企業の類似点と相違点を議論する。その上で、経営資源に限りのある中小企業が、それを克服し存続・成長していくためのマネジメントについて講義する。	
	マーケティング論Ⅰ	本科目ではマーケティングの基本フレームワークであるマネジリアル・マーケティングを学び、企業活動に不可欠なマーケティングの役割を理解していく。初めてマーケティングを学ぶ学生を対象に、企業でのブランド・マネジメントやコンサルティングなどの経験を有する教員が、マーケティングの実務的視点を理論に照らしながら授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	マーケティング論Ⅱ	有形財の提供とサービスという無形資産は不可分の関係にある。また、市場が成熟した今、強いブランドは企業にとって競争力を持つ重要な無形資産となる。このような無形資産は顧客が認識してはじめて価値をもつ。本科目では、顧客に価値を伝え関係をつくるマーケティング・コミュニケーションについて学ぶ。なお本科目は、企業でのブランド・マネジメント、顧客関係管理及びコンサルティングの経験をもつ教員が実務的視点を織り交ぜ授業を行う。	
	経営情報論	近年、企業経営において経営情報をいかにマネジメントするかという点の重要性を増してきていると言われる。本講義では、経営情報についての基本的な知識を体系的に習得することを目的としている。講義内容は、企業内ネットワークの進展と経営組織へ与える影響についての理解・把握という内部の問題と、企業間ネットワークや企業消費者間ネットワークの変遷と現代的課題に関する基礎知識という外部の問題に分けて議論される。	
	財務会計論Ⅰ	財務会計の基礎について学習する。財務会計の役割を踏まえた上で、財務諸表の作成に関する基礎事項について解説する。さらに、財務諸表を用いた経営分析についても解説する。	
	財務会計論Ⅱ	「財務会計論Ⅰ」で学んだ基礎を前提に、より本格的な財務会計論を理解するための学習を行う。講義では、「財務会計論Ⅰ」で学んだ内容の復習を行いながら、個別財務諸表の作成に関するより詳細な項目について解説を行う。	
	検定商業簿記2級Ⅰ	検定商業簿記2級Ⅱと併せて、日本商工会議所主催簿記検定2級程度を（商業簿記）の内容について講義する。なお、「商業簿記」とは、購買活動や販売活動など、企業外部との取引を記録・計算する技能で、企業を取り巻く関係者（経営管理者・取引先・出資者等）に対し、適切、かつ正確な報告（決算書作成）を行うためのものである。	
	検定商業簿記2級Ⅱ	検定商業簿記2級Ⅱと併せて、日本商工会議所主催簿記検定2級程度を（商業簿記）の内容について講義する。なお、「商業簿記」とは、購買活動や販売活動など、企業外部との取引を記録・計算する技能で、企業を取り巻く関係者（経営管理者・取引先・出資者等）に対し、適切、かつ正確な報告（決算書作成）を行うためのものである。	
	検定工業簿記2級	製造業の会計を理解するためには計算技法と理論を体系的に理解することが必要となる。経済学部では工業簿記に関連する科目として工業簿記と原価計算論を開講している。工業簿記では日商簿記2級工業簿記の計算技法を最短の時間で習得を目指す。しかし、計算技法は理論の裏付けのもとで実務との関連を意識することが大切であり、同時期に開講する原価計算論やその他の会計科目の履修も強く望む。 なお、この科目は実務家である外部の公認会計士が授業を行う。公認会計士としての幅広い経験を踏まえ、単に簿記検定の合格に役立つ知識のみならず、実務に活かせる簿記を教える。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	原価計算論	製造企業では、さまざまな経営資源（原材料、労働力、機械・設備など）を生産活動に投入し、製品を製造する。ここで、生産活動を通じて消費される経済的資源の消費額のことを「原価」といい、原価計算とはこの原価を製品等の生産物に関わらせて把握する計算システムのことである。製品の原価を明らかにする原価計算は財務会計と管理会計の両方に不可欠なものであるが、伝統的な原価計算については管理会計上、その問題点も指摘されている。 本講義は、「原価計算論Ⅰ」と「原価計算論Ⅱ」の学習を通じて、原価計算に関する基礎理論を体系的に学習するとともに、コストマネジメントの考え方を理解する。 製造業の会計を理解するためには計算技法と理論を体系的に理解することが必要である。経済学部では工業簿記に関連する科目として工業簿記と原価計算論Ⅰ・Ⅱを開講している。原価計算論では、製造業の原価計算の理論や実務を学ぶ。一方、工業簿記では日商に2級の計算技法を最短の時間で習得を目指す。簿記などの計算技法は理論の裏付けのもとで実務との関連を意識することが大切であり、同時期に開講する工業簿記を同時に履修することを望む。	
	管理会計論Ⅰ	管理会計とは、経営者が経営活動の中で資源の利用とそれの会計責任を保証するため、会計情報を識別・測定・評価するプロセスである。このような管理会計のツールには、計画と統制を一つのシステムとして取り組む、意思決定会計、事業部制会計、短期利益計画・予算管理などがある。しかし、激しい企業環境変化により戦略性が重視され、従来の管理会計の内容に変革が求められている。したがって、本講義では、環境変化により変わりつつある管理会計の企業事例をテーマ別に取り上げ、理論と実務を結び付けながら進める。	
	管理会計論Ⅱ	管理会計とは、経営者が経営活動の中で資源の利用とそれの会計責任を保証するため、会計情報を識別・測定・評価するプロセスである。このような管理会計のツールには、計画と統制を一つのシステムとして取り組む、意思決定会計、事業部制会計、短期利益計画・予算管理などがある。しかし、激しい企業環境変化により戦略性が重視され、従来の管理会計の内容に変革が求められている。したがって、本講義では、環境変化により求められている戦略的意思決定の問題を財務的な視点で解決する管理会計的なアプローチを中心に、理論と実務を結び付けながら進める。	
	会計情報論	本講義では、財務諸表等の会計情報がどのように生成・表示・利用（活用）されるのか、について説明する。講師は現職の開業税理士で、会計事務所での実務経験はもとより、新興上場企業内部にて公表会計情報に関する株主総会想定問答の作成に関わった経験もあり、会計情報からみた上場企業と中小企業の違いについても実務家教員の視点から言及する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・科目 理解科目	国際会計論	日本、アメリカ、EU加盟諸国などの財務報告制度の概要を学習し、国際会計の学習に必要な制度に関する知識を学ぶ。その上で、国際会計についての大きな動向や学術研究成果を紹介する。 急速に財務報告基準の国際的統合化が進んでいるが、現在進められている基準の統合化が望ましい帰結を社会にもたらすかどうかは自明ではない。そこで、そもそもなぜ国や地域によって財務報告制度に相違がある（あった）のかを学習し、さまざまな国や地域の財務報告制度の分類研究を概観する。基準の統合化を巡る議論は冷静な議論を欠いていたり、国際会計基準関係の文献は単なる個々の基準や規定の紹介に終始するものが散見される。個々の基準の理解が実務において重要なことは当然のことだが、これでは木を見て森を見ていない。個々の基準や規定の技術的な面ではなく、そもそも基準の統合化がなぜ必要なのか、どのような統合化の方法が望ましいのかを考察する。 さらに、国際会計分野にとどまらない、より会計の本源に関連する話題も学習する。講義では次のような話題を取り上げる予定である。 IASBなどは公正価値に基づく包括利益こそが経済学的所得概念と整合し、取得原価に基づく当期純利益には正当性がないと主張している。しかし、経済学的所得概念をFisherはHicksの文献を紐解いて検討すると、経済学的所得概念と整合的なのは取得原価に基づく当期純利益であることがわかる。 サブプライムローン問題やリーマンショックといった言葉に代表される近年の金融不安を公正価値会計は助長したといわれる。しかし、会計基準そのものの問題というよりはBIS規制における会計数値の利用方法に大いに問題があるといえる。また、一部の金融資産のみに公正価値評価を行っていたことに問題あると考えることもできる。 財務会計の目的には、利害調整機能と情報提供機能があり、情報提供機能に資する会計基準は利害調整機能に資する会計基準であるといわれる。しかし、そのような包含関係が成り立たないというのが会計学者の共通認識である。連結財務諸表は情報提供のため、単体財務諸表は利害調整（課税申告を含む）のためといわれるが、連結と単体は相互に補完的な関係にある。 最適な会計基準を設定しようとしても、最適な会計基準というものそもそも存在しないかもしれないし、最適な会計基準が存在しても、最適な会計基準を発見する方法としても最も効率的な方法としてどのような方法が良いのかも自明ではない。 一見奇妙な主張であるが、投資家が合理的であろうとなかろうと、事後的な証券価格からどのような会計基準が望ましいのかを基準設定機関は学習できない。 会計に興味のある学生はもちろん、国際会計基準が企業経営や経済に与える影響に興味がある学生の履修を歓迎する。	
	租税理論Ⅰ	租税法を初めて学ぶ学生を対象として、租税の基礎知識・理論、我が国の基幹税である所得税、消費税及び法人税の概要と特徴、将来における各基幹税の負担の在り方について、実務の視点も踏まえながら講義をする。また、実務家（税理士、国税職員等）をゲストスピーカーとしてお招きし、特別講義を予定している。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	租税理論Ⅱ	租税について基礎的理解のある学生を対象として、税法解釈の基礎知識、争訟事例に基づく所得税法・消費税法の解釈・適用上の問題、租税回避の問題、税務行政・税務争訟制度の概要、相続税及び贈与税の基本的仕組みについて、実務の視点も踏まえながら講義をする。また、実務家（国税職員等）をゲストスピーカーとしてお招きし、特別講義を予定している。	
	経営税務論Ⅰ	経営税務論Ⅰは、法人の事業活動と税務との関わりを理解することを主眼として、法人税の基本的な仕組みを中心に講義を行う。法人税に関係する最近のトピックスを紹介したり、外部講師を呼び、講演を行う場合がある。 なお本科目は、国税庁・国税局等の経験を有する教員が、それを活かして課税実務に即した授業を行う。	
	経営税務論Ⅱ	経営税務論Ⅱは、経営税務論Ⅰを発展させる内容であり、法人税に関する基本的知識を有することを前提として、法人税に関する主要な論点について、より深く理解するための講義を行う。 なお本科目は、国税庁・国税局等の経験を有する教員が、それを活かして課税実務に即した授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	Introduction to Interdisciplinary Japanese Studies	日本の社会・文化を外の視点から相対化して捉え直し、日本に関する自らの考えを外に向けて発信するために必要な基礎的知識を修得することを目標とした英語によるオムニバス形式の入門講義である。 （オムニバス方式／全15回） （34 キム・ジュニアン／1回） Introduction to classroom English 授業英語入門 （6 番場 俊／6回） Some introductory remarks on modernization of Meiji Japan 明治日本の近代化の諸前提について Translation in the history of modern Japanese literature and criticism 近代の文学と批評の歴史における翻訳の意義 The birth of Intellectuals and their role in modern Japanese history 近代日本の歴史における知識人の誕生とその役割 （273 アンニャ・ホップ／2回） This session focuses on Japanese popular culture and “modernology” (kogengaku) of Wajiro Kon 日本の大衆文化と今和次郎の考現学 （34 キム・ジュニアン／3回） This session aims to consider the spectator’s viewing experience in relation to the animated character, media technology, television industry and postwar Japan, with focus on Tezuka Osamu’s Astro Boy. 本セッションは、手塚治虫の『鉄腕アトム』にフォーカスを当てながら、観覧者の視覚経験をアニメーションキャラクター、メディアテクノロジー、テレビジョン産業、さらに戦後日本社会との関連のなかで考察することを目標とする。 （7 石田 美紀／3回） This session discusses how the girl culture in the Japanese society was formed from the Meiji period to the 1970s, focusing on the girl magazines. 日本社会にはジェンダーと年齢による区分が、大衆娯楽のなかに根づいている。そのひとつである「少女」文化の形成を雑誌というメディアに注目し、明治期から1970年代まで概観する。	オムニバス方式
	文化社会論基礎	日本を含む東アジア社会の近代化は、すぐれて思想上の問題でもあった。思想や倫理観が社会のすがたを規定しているとすれば、近代化は東アジア社会を形作っていた思想が挑戦を受け、変容していく過程であったとも言える。日本の場合、思想や政治の問題が文学や文芸批評の形式で提起されることが多かったことも特徴的であった。本講義では、主に思想や文学の面から、東アジア社会の成立と近代におけるその変容を理解することを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	映像社会論基礎	絵画、写真、マンガ、映画、アニメーション等、現代日本の視覚メディアを構成する諸領域の社会的・政治的・歴史的経緯の基礎的知識を学び、現代文化における事象を理解し、判断する座標を得ることを目的とする。特に、日本社会と日本文化の形成において不可欠の影響を与えてきた東アジア、ヨーロッパ、北米との交渉に力点を置き、視覚メディアを通して日本を多角的に理解することを目指す。	
	経済社会論基礎	近代日本の経済思想の源流を探る。「経済学の父」と見なされているアダム・スミスは、生前は哲学者としての側面が強く、『国富論』と並んで『道徳感情論』という優れた哲学書も書いている。この授業では、スミスに至る哲学史や、背景となる18世紀のヨーロッパの状況についても解説しながら、スミスの人間観を通して経済学の原点を確認するとともに、それが近代日本の社会思想史に影響を与えていく過程を概観する。	
	政治社会論基礎	政治学および関連領域に関して、その分析方法の基礎を身につけるための講義である。特に、一国の国内政治過程を実証的に分析するための理論や、国際政治・対外政策研究に関する様々なパラダイムを理解することに主眼が置かれる。日本の国内政治過程や対外政策の具体的な事柄についても学習するが、本講義の第一の目的は、日本に限定しない一般的な観点から、国内・国際双方のレベルで、政治現象を観察するための基礎的な視座を獲得することにある。	
	文字文化史と表現	東洋文化圏・漢字文化圏における手書き文化を見つめ直すことを目的とする。漢字3000年の歴史を書体や書きぶりに着目し、分析する。先人の書き残した代表的古典を取り上げ、その鑑賞を行う。その価値観を味わった上で筆を用いて古典に基づいた制作を体験する。絵画から始まった古代文字、それが実用と美的観点の2面から進化を遂げ、今日の普遍的な機能美を有する文字が出来上がった。これらの流れを意識しながら、優れた筆跡を点描していく。また、その文字文化が育まれた国の土壌や気質を考察する。	
	Introduction to the History of Japanese Studies	This course will focus on the history of academic Japanology and Japanese studies overseas, which is often counted as one of the area studies, belonging to the so-called Asian studies. Here we will examine the different aspects of the field in different eras and locations outside of Japan, starting from the 16th century up to the highly diversified discipline as it appears today. We will look at the most important scholars, their academic approaches, theories and their impact on the ever-changing image of Japan overseas. しばしば、いわゆる東洋学に属する地域研究の一つとされる、海外における「日本学・日本研究」(Japanology, Japanese studies)の歴史に迫る。16世紀からはじめて、さまざまな時代と地域におけるこの分野の諸相を検討し、きわめて多様化した姿をみせているこの学問分野の今日の姿までをたどる。重要な日本学者たちを取りあげ、その学問的方法や理論が、つねに変化する海外の日本イメージに与えてきた影響を検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	表象文化論	「日本」とそこに生きる「私」の姿をどのように思いえがき、提示するかという問題は、「西洋」や「アジア」に生きる「他者」の姿をどのように思いえがき、提示するかという問題と組み合わされて、今日に至る日本の文化史における中心的な問題の一つだった。この講義では、「表象・代表」（representation）という概念を手がかりに、「西洋」ないし「アジア」との対比における「日本」、「民衆」や「大衆」との対比における「知識人」、「男性」との対比における「女性」といった問題について、文学作品や批評を多く例に挙げながら検討する。	
	比較宗教論	日本の伝統宗教である仏教を通して、日本文化への理解を深める。そのうちでも特に日本の精神と結び付けられることが多く、「ZEN」の名でしばしば話題に上る禅宗に焦点を当て、その歴史と思想内容をやや踏み込んで解説する。禅の思想を理解するため、まずインドにおける仏教の登場とその基本思想、インドにおける仏教の発展と大乘仏教の登場、中国への伝来と展開を概観する。これらの知識は日本の宗教文化を理解するうえでも大前提となる。その上で中国における禅宗の登場とその思想・法系の展開、日本への伝播を解説する。	
	視覚社会論	写真、マンガ、映画、アニメーションなど、表現として、娯楽として、商品として流通する視覚的諸媒体を対象とし、ジェンダーとセクシュアリティの観点からその社会的・政治的・歴史的・文化的意義を考察する。ジェンダーとセクシュアリティという、私的領域にあると思われがちであったために、公的な場で語るにはふさわしくないと抑圧されてきた問題系から、視覚的媒体と社会の間に存在する多義的な関係を再考しながら、人間存在の多様性を考察する。	
	Anime History	Focused on the history of Japanese animation conventionally and internationally called “anime” today, this course aims to understand how it has developed going so far as to engender the problematic term, anime, in relation to the context of international animation and film. In this aim, the students will be asked to problematize two conventions; one is the nativist reduction of Japanese animation to the discourse of “made-in-Japan” and the other the techno-Orientalist gaze at the Japanese popular/contemporary culture. Only English references will be used in this course. 今日国際的に、なおかつ慣習的に「アニメ」といわれている日本アニメーションの歴史に焦点を当てる本授業では、アニメーションおよび映画と国際的文脈との関連のなかで、アニメという問題のタームの台頭に至るまで展開してきたのかについての理解を目標とする。本授業では英語のみのテキストが使われる予定である。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	日本政治外交史	幕末から日中戦争期までの約80年間を対象に、国際社会のなかで近代日本国家がどのような動機や意図のもとに行動し、それがどのような結果をもたらしたのかに着目し、国際社会と日本との相互関係を中心に、日本近代外交史を講義する。近代日本は、西洋の大国のように国際政治のなかで主導権を握っていたわけでもなく、また他のアジア諸国のように植民地化・半植民地化されたわけでもなく、周囲を取り巻く国際環境のなかで、主体的な判断のもとに対外的な働きかけを行う立場と能力を得た、近代東アジア世界のなかでは特異な存在であった。かかる特異性をもった近代日本外交は、国内外の様々な制約のなかで国家間の公的関係が処理され、またその結果が国内外の状況へ影響を及ぼすという「外交」の性質を理解する上で、有用なケースである。本講義のねらいは、近代日本外交の検討を通じて「外交」の性質及びその可能性を理解し、現代日本外交のあり方を考える上での有用な視座を獲得することにある。	
	Politics in Contemporary Japan, Basic	This course provides students with understanding of the history of postwar Japanese politics and diplomacy, from 1945 to present, as well as insights of contemporary political issues that Japan is currently facing. This course does not only deal with political issues in a narrow sense, but also covers broader fields on the basis of interdisciplinary approaches. For example, in addition to such issues as party politics, politicians' personality, Japan-US Security Treaty System, Asia diplomacy and historical questions, it discusses economic and fiscal policy, questions of natural resources and energy, labor-management relations, demography and aging society, and education. 1945年から現在までの時期を対象として、戦後日本政治・外交の歴史的展開を理解するとともに、今日の日本政治が直面する諸課題について考察を深める。本講義では、狭義の政治的イシューのみを取り上げるのではなく、やや学際的な視点から、日本政治に関連する様々な領域も対象とする。例えば、政党政治と指導者の人物像、日米安保体制、アジア外交と歴史問題、といったテーマはもちろん、経済財政政策、資源エネルギー問題、労使関係、人口政策と少子高齢化、教育などの主題も取り扱われる。	
	伝統文化論	東アジアにおける日本、日本における日本海側、日本海側における新潟県、新潟県における各地の文化、以上の視点で我が国の伝統的価値観の分析を試みる。当方の専門分野である文字及び書表現に関する教養を主としたものである。特に書芸術は、世界において東アジア文化圏のみ存在する。逆に言えば、東アジア文化圏を語る上で不可欠な要素を学ぶ機会として受講者は捉えていただきたい。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	アートマネジメント	アートマネジメントとは、音楽会や展覧会等の事業を企画運営するだけでなく、これらの事業を継続的に実施する組織、すなわち楽団や劇団、ホールや劇場、美術館等の運営のことも指す。本講義では、文化の創り手と享受者をつなぐというアートマネジメントの基本的な課題を考察するとともに、地域社会のニーズの汲み上げ方や国・自治体・民間の芸術文化支援の仕組みについて講義する。 アートマネジメントの理論を理解することができ、それに基づいて芸術文化活動の企画・運営の実際について知ることが本講の目的である。	
	Introduction to Japanese Politics and Diplomacy, Basic	This course will cover Japan-China relations from the 19th century to the present, analyzing the relationship from the perspectives of both Japanese and Chinese diplomacy. We will also, of course, reflect on the impact of Japanese and Chinese domestic politics on the bilateral relationship. As we study this diplomatic history, we will also discuss current issues in international relations. 19世紀から今日までの日中関係について、日本外交、中国外交それぞれの視点から分析を行う。もちろん、当時の日中それぞれの内政についても検討する。あわせて、当時の国際関係についても議論することとする。	
	East Asian Studies, Basic	This course will cover comparative analysis of Japan and Korea Republic, which has similar political regime in East Asia. We will also, of course, refer to Germany sometimes, which has similarity with both Japan and South Korea. We will also discuss current issues in East Asia. 東アジアにおいて、比較的類似した政治体制をとって日本と韓国を中心に、ドイツも参照しつつ、東アジアについて考察することを目的とする。	
	家族社会学	現代日本の家族の現状についてさまざまなデータを通して理解する。そのために前近代家族・近代家族についての知識を獲得し、それらの家族との比較を通して現代家族の問題を考える。	
	ジェンダー論	本講義は、男女共同参画はもとより、ダイバーシティ（多様性）の推進をめざす現代社会において、社会的・文化的性差を示す用語としての「ジェンダー」とは何かについて、まず基本的な知識を得ながら理解を深め、ジェンダーや広義の「性」に関するさまざまなトピックを扱いながら、特にジェンダーの視点から何ができるのか・問題となるのか・ならないのかについて一人ひとりが考えることを目的とする科目である。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	性の科学	この科目は、性差医療と保健学の観点から、セックスとセクシュアリティ、性的健康と権利について学習する。ここでは、特に保健、医療専門職者に必要な基礎知識としての人間の性行動を左右する因子や機序、性の健康、一生を通じたセクシュアリティの発達等について学び、生物学的、人間関係的、心理社会的、文化的な関わり合いのなかにある多次的現象としてのヒューマンセクシュアリティを理解する。 なお本科目は様々な保健医療機関で看護の経験を有する教員が、それを活かして性の科学について授業を行う。 （オムニバス方式／全16回） （86 有森 直子／5回） イントロダクション、多様な性のあり方、性と社会①、性と社会②、医療サービスにおける性の問題 （448 石田真由美／4回） 生殖器の解剖と生理、性機能障害、性差/尊医療、ライフサイクルと性、性の健康教育 （88 目黒 玲子／1回） 人体発生のメカニズム （267 関島香代子／1回） 性と社会③ （86 有森 直子・448 石田真由美／5回）（共同） 全体討論（ディベート）準備①、全体討論（ディベート）準備②、全体討論（ディベート）①、全体討論（ディベート）②、まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
	暮らしと書文化（ビジネス書文化）	慌ただしく複雑な現代社会にあって、「書く」行為も場面や用途に応じて様々な書く能力が要求される。本講義では、社会に役立つ機能的な書き方について①整った文字の表現、②正しいまとめ方・書式、の2点を主な観点として演習を含めた講義を展開する。漢字と平仮名、カタカナとの関係、文字に関する一般教養、崩さない公式書体である楷書と早書きを目的として考案された行書の書き方、手紙の書き方、熨斗紙、のし袋の書き方等義務教育の中でとかくおざなりにされがちである一方、日常生活に不可欠の事柄を学びの中心として捉える。	
	新潟地域文化論	企業が立地する土壌を見つめなおす。郷土史や地域文化を通して、「新潟とは」「新潟らしさ」を理解することを学習の目標に掲げる。具体的には、広い県内を上、中、下越に区分し、各地の風土や観光面を含めた特色を見出す。合わせて、本県を代表する各地で活躍した政財界・教育者・芸術家、その他幅広い人々の略歴と書画を取りあげ、新潟県人に共通する文化の味わいを見出すことに努める。	
	心理学概論A	心理学の基本的な考え方と研究方法、および現代の心理学に至るまでの歴史的歩みについて概観した後、幅広い心理学の研究分野のうちで、特に感覚と知覚、認知、記憶や学習に関する諸問題を解説する。	
	心理学概論B	現代心理学の諸領域における基礎知識について解説する。個人差や動機づけの心理学、社会心理学に焦点を当てる。心理学概論Aと合わせて心理学の代表的領域をカバーできる構成である。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	心理学研究法	研究を行う際の理論的、方法的、倫理的問題を解説する。特に実験法、観察法、調査法、面接法のような手法の基礎を学ぶ。またいくつかの分野について実際の研究例をみながら、そこで用いられている手法やデータ処理の基礎も解説する。	
	心理学統計法	科学としての心理学は、客観的なデータによる実証に基づかなければならない。この講義では、実験によって人間の行動を調べるための基本的な考え方と、実験データを適切に扱い分析・解釈するための基礎知識を解説する。	
	人間学研究法 A	人間学専攻プログラムで学ぶ上で必要となるアカデミック・スキルを磨くための授業である。具体的には、哲学・倫理学・宗教学・科学思想・言語学をこれから専門に研究していく際に最低限必要となる、〈基本文献を読む〉〈概要をまとめ、伝える〉といった能力を涵養する。この授業はカリキュラム上講義系となっているが、中身としては参加者にアクティブに参加してもらう演習形式で、基本概念の分析、文献読解、論文作法、プレゼンの練習をしていく。	
	人間学研究法 B	心理・人間学プログラムのうち、人間学分野——哲学・西洋哲学史、倫理学、科学思想史、宗教思想史、言語学などの専門分野——の古典的な基本文献を読み解き、パワーポイントの使用にもとづいて口頭発表し、さらに質疑応答・討議を重ねることによって理解と表現力を高める。	
	哲学概説	題目「近現代哲学の基本概念——認識の哲学から存在の思想へ」 20世紀以降の哲学・思想の諸潮流は、複雑多岐に入り組んでいるが、ヨーロッパ哲学の伝統のもとでの大きな軸として、認識論に発し、現象学（フッサール）を経て実存主義（ニーチェ、キルケゴール、ハイデガー）にいたる存在論的潮流がある。本講義では、プラトンからデカルト、カントにいたる哲学の基礎を踏まえたうえで、関連する思想的な経緯や動向をも概観することを通じて、近現代哲学の基本的な考え方を整理し、受講者とともに検討を試みてみたい。	
	人間学概説	本科目では、人間にまつわる代表的な哲学的問題を、時間の許すかぎり幅広く紹介する。教員はそれらの問題と基本的な議論を解説するだけである。受講者は各問題について自ら先行研究を探して調べ、それを踏まえた議論を展開し、その成果を形式的な文章で報告せねばならない。	
	西洋哲学史概説	西洋哲学の基本概念をいくつか取り上げて講義をする。全体を通じてのテーマは「概念史」である。ドイツの『哲学概念史事典』をベースに、「理性」「寛容」「共通感覚」「啓蒙」「無」「ニヒリズム」「弁証法」「教養形成」「ヒューマニズム」などの哲学的概念の歴史を概観する。講義内容は哲学史をたどる構成をとるが、歴史研究にはとどまらず、どんな時代にも通じる普遍的な哲学的テーマとして掘り下げていく。〈哲学者の思考を吟味すること〉・〈自分自身で考えること〉という二つのアプローチを通じて、論理的・批判的思考力を養うとともに洞察力や解釈力を鍛え、個別性と普遍性とに豊かに開かれた精神を形成してゆくことをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	宗教学概説	現代における国際情勢、異文化理解、宗教間対話といった諸問題を考えるとき、宗教と政治の関係および原理主義運動に関する知識は必要不可欠である。この講義では、近現代におけるセム的一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教）と政治との結びつきについて解説する。とくに、中東のイスラーム原理主義（イスラーム主義）、およびアメリカのキリスト教原理主義を扱う。関連するさまざまな映像も適宜鑑賞予定である。 なおレポート（または試験）では、宗教と政治に関して興味のあるテーマを自分で決め、参考文献を読み、調べて明らかになったことに対して自分の見解を書いてもらう予定である。	
	芸術学概説A	本講義では西洋と日本の事例を中心に、19世紀後半から現代に至るまでの美術の展開を概観する。20世紀の美術には「キュビズム」や「シュルレアリスム」といった様々な動向が次々と登場し、それらについての知識がないことには、作品で何が表現されているのかわからないことも多い。美術史の初学者が受講することを念頭に、本講義では具体的な作品を取り上げながら、西洋と日本における20世紀美術の100年間の流れを解説する。美術作品に限らず、様々なイメージを批判的に分析できる力を身につけることを目標とした。	
	芸術学概説B	本講義では、古代から近代までの西洋美術の流れを概説する。近代以前は「時代 様式」が顕著である。そこで本講義では、第一に、具体的な作例を通じて、これら時代様式の特徴をつかむことを目標とする。加えて、これらの様式が、いずれも民族、歴史、地政学的な環境を含む「社会」との関連の中で形成されたことに着目し、芸術と社会との関係について論じる。受講生には、社会における芸術の役割についての考察とともに、3、4千年に及ぶ美術の歴史を通観することを通じて、世界観そのものの多様性についての理解を促したい。	
	史学概説	歴史を認識するとはどのような営為か。またその営為を前提に成立する歴史学とはどのような学問か。さらに歴史学は、その成立以降現在に至るまでどのように展開しているのか。本講義では以上のような問題を、抽象と具体を往還しながら考えてみたい。	
	日本史概説	日本列島において原始・古代から近現代まで歴史的に展開してきた事象の要点について、歴史学の方法に基づき考察する観点を学ぶ。それを通して、日本史を専門的に学んでいく上での手がかりを得ると共に、広い視野から社会的な問題を考え得る力を養うことをめざす。	
	アジア史概説	古代から現代に至る人類の歴史をアジア史を中心に概観する。講義形式で進めるが、関連史資料をできるだけ多く取りあげ、歴史的な事象を史資料にもとづき多面的に考察する力を養う。また、アジア史を専門的に学んでいく上での手がかりを得ると共に、広い視野から社会的な問題を考え得る力を養うことをめざす。	
	西洋史概説	古代から現代に至る人類の歴史をヨーロッパ史・アメリカ史を中心に概観する。講義形式で進めるが、関連史資料をできるだけ多く取りあげ、歴史的な事象を史資料にもとづき多面的に考察する力を養う。また、西洋史を専門的に学んでいく上での手がかりを得ると共に、広い視野から社会的な問題を考え得る力を養うことをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	文化人類学概説	人類学の基本的概念と人類学学説史上の重要な理論を知ってもらうために、文化人類学の歴史のなかで重要な役割を果たしてきた、進化主義、機能主義、文化唯物論、構造主義、象徴論、「伝統の創造」論などの理論や方法論を取り上げ、それぞれの特徴や意義、提起された批判などについて論じる。	
	民俗学概説	生活文化を研究対象とする日本の民俗学の基本的な内容を概説する。これまで蓄積されてきた民俗学の研究成果を踏まえながら、民俗学の現代的意義について考える。 民俗学の基本的な研究視点を理解し、基礎的概念を修得する。さまざまな地域における生活事象を民俗学的に解説することによって、民俗学の考え方を学ぶ。さまざまな地域における民俗事象から人々の心意を考察する方法を学ぶ。その上で、自らの地域文化や生活文化について民俗学的に省察する視点を獲得する。	
	地誌学概説	グローバル化する国際社会に生きる有為な人材として求められる地理学的な見方・考え方を涵養する。 ・諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域をいくつかのまとまりに区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解する。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域について、諸地域に見られる地域的特色や課題を理解する。 ・現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、テーマを設定し、地域的特色や課題などを多面的・多角的に考察する視角を涵養する。	
	地理学概説	グローバル化する国際社会に生きる有為な人材として求められる地理学的な見方・考え方を涵養する。 ・人間と自然環境の関係性に注意して、課題を追究・解決するための能力を涵養する。 ・事象に対して、空間的視点から接近し、多角的・多面的に考察する能力を涵養する。 ・自分の生活と関連付けて、地理学的な課題を発見し、考察を深め、議論を行う力を養う。 ・高等学校学習指導要領に示されている指導内容を理解する。	
	考古学概説	考古学の研究対象とは何か、研究の方法とはどのようなものか、研究の目的は何か、その意義はどのようなものかを正しく理解できることを目指す。その際、単に過去のロマンを追い求める学問というステレオタイプの理解を改め、持続可能社会の創出に貢献もできる現代的存在意義を有した学問であることも知ってもらいたい。	
	芸能論概説	日本の芸能は、在来の芸能に大陸文化が流入することによって形成し、発展してきた。それらは雅楽や能狂言、あるいは歌舞伎、文楽として、現在もさまざまな機会に上演され続けている。しかし、文学や絵画、彫刻などとは異なり、過去の音楽・舞などの芸能は形に一切残らない。そのため、過去の芸能を具体的に把握するためには、現在の芸能の実演を鑑賞することはもちろん、各種の資料を駆使することが必要である。この講義では、文字資料、絵画資料、映像資料などを活用しつつ、特に古代から中世にかけての芸能について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	社会学概説	私たちが生きる社会は常に何らかの解決が必要な課題を有している。その領域にしても平和問題、環境問題、人権問題、教育問題、医療・福祉問題等々と多様であるし、またそのレベルも個人から家族、地域社会、国そして世界レベルまでとその広がりも様々である。本講義では、このような多様な課題を認識するとともに、その課題発生メカニズムの解決策を社会学の諸概念によって検討することを通じて、問題解決の学としての社会学の意義を理解することを目指す。	
	社会調査概説	本講義では社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項として社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関して概説する。	
	メディア社会文化論概説A	本講義は「現代日本文化とメディア」と題して、これに関連する論点を幅広くとりあげていく。 現代のメディア文化の状況では、確固とした体系が必ずしも確立されているわけではないため、本講義では、できるかぎり幅広く対象を広げ、興味深いと思われる論点を、原則的に1回に1テーマずつモザイク的に扱っていく予定である。今日の日常生活において身近なものとなった各種メディアに対して、たんなる表層的な理解にとどまらず、その深層にあるものを捉える態度・姿勢を身につけることを目標とする。	
	メディア社会文化論概説B	本講義は「暮らしのなかの写真メディア」と題して、身近な視覚情報メディアのひとつである写真が、人々の暮らしのなかでどのように用いられ、いかなる役割を果たしてきたのかを、写真・新聞・錦絵等の様々な資料の検討と、自らの体験を批判的に振り返ることをつうじて考察する。写真メディアを例として、メディアと社会の関係について考察するとともに、写真をはじめとした非言語資料を読み解き、活用する上で必要な基本的な姿勢と力を身につける。	
	メディア論実習A	コンピュータおよびネットワークの運用能力、セキュリティ・倫理面に関する基礎知識を習得し、メディア論の学修を進めていくために必要なメディア・リテラシーを身につける。 具体的には、下記の通り： ①コンピュータやネットワークの仕組みに対する基本的な知識を習得する。 ②ワードプロセッサ、表計算ソフトなど、基本的なアプリケーションソフトの使い方を身につける。 ③ネットワークを利用する上で必要なセキュリティ、倫理面での基礎知識を身につける。 ④簡単なコンピュータ・プログラムを作成することを通して、プログラミングの基礎を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	メディア論実習B	本実習では、地元の地上波放送局の番組制作実務の経験者が講師になり、映像制作の実践を行う。制作にあたっては、制作意図、取材アポイントメント、インタビュー、カメラ、ナレーション、編集等、番組制作にかかわる事柄を実践する。 映像制作の実習により送り手の立場を経験することで、映像表現の特徴について理解を深める。映像制作を通じて、放送メディアを批判的に捉える。社会的コミュニケーション手段としての放送の役割を理解ができるようにする。	
	メディア論実習C	デジタルカメラの撮影と修整を学び、デジタル映像作品の作成を行う。人物撮影については、基本の構図を踏まえた上で、均整な仕上がりになるような撮影方法を学ぶ。光を操作して、対象を彩る方法を理解する。画像ソフトを使いこなして、目標とする映像作品を作成する。デジタル作品作成を通して、セッティング、撮影、修整、編集などの一連の作業を学ぶと共に、観察眼を養うことを狙いとする。見栄えの良さは自然に発生するものではなく、撮影者、あるいは編集、修整者の技術、努力、観察眼によって、実現していることを、自らの実践を通して理解する。	
	メディア論実習D	この授業では、普段、何気なく使っている映像で物事を説明したり考えたりすることを、実際に5分程度の動画を製作することで、映像を使って人に物事を伝えるためには何が必要なのかを実践的に学ぶ。動画に加え、静止画である複数の写真と文字、さらに、ナレーション、音などを使って、より複雑な映像を構成するしかたを学ぶ。また、各自あるいは各グループで、製作の企画をたて、実際に、社会に取材し、撮影、編集して、製作をおこなう。	
	博物館概論	博物館の理念と目的、および博物館が有する機能と活動分野を見極め、日本の博物館の過去と現状をとらえる。さらに生涯学習推進機関としての博物館の果たすべき役割などについて講義する。授業のほかに、各自博物館等の見学を行い、テーマを設定しレポートにまとめる。なお本科目は、国立民族学博物館での勤務経験を有する教員が、それを活かして博物館の現状について授業を行う。	
	博物館教育論	現在の博物館において展開されている教育普及活動を紹介するとともに、博物館が社会で果たしている役割や、その実践に必要な知識や方法を講義し、博物館に関する認識を深める。なお本科目は、美術館において学芸員や館長の経験を有する教員が、それをいかして博物館教育について授業を行う。	
	博物館情報・メディア論	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。座学のほかに、各自博物館を見学して情報・メディアを活用した展示手法の意義について検討してまとめる。なお、本科目は博物館学芸員の経験を有する教員が、博物館情報・メディアについて授業を行う。	
	言語学概説A	言語は物ではない。言語活動とは、客観的に捉えにくい「意味」を、発した瞬間に消えてしまう「音声」により伝えるものである。このような一種つかみどころのない言語というものを研究対象としてきたのが言語学である。本講義では世界の諸言語を分析するための基本的な概念を整理しながら言語学の概要を述べる。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	言語学概説B	言語は私たちにとって身近で当たり前の存在だが、言語の性質や言語活動を説明することは簡単ではない。言語学とは、こうした言語を研究対象とする学問分野であり、本講義では、言語研究に必要な基本的な概念を整理しながら言語学の概要を説明する。	
	古典語A	J. S. バッハ（1685-1750）以前の音楽は、一般的に良く知られているわけではない。しかしながらルネサンス期と呼ばれる15～16世紀にも、多彩な音楽家たちが活躍し完成度の高い楽曲を作っていた。その中心は無伴奏多声のいわゆる教会音楽であり、ラテン語で歌われた。本講義では、ルネサンス期教会音楽の歌詞を題材としてラテン語を学ぶ。	
	日本語学概説A	現代日本語の運用の仕組みについて、音声・音韻、文字・表記・語彙の観点から捉える。取り扱う日本語学的な問題については、歴史的・社会的・文化的な観点と関わらせて論ずることとする。	
	日本語学概説B	現代日本語の運用の仕組みについて、敬語、方言、文章・文体の観点から捉える。取り扱う日本語学的な問題については、歴史的・社会的・文化的な観点と関わらせて論ずることとする。	
	英米言語概説A	英語の具体的言語事実を取り上げ、英語学の学問領域における統語論の基礎的概念を概説する。具体的には、句の構造、句内部の要素と意味役割、節の構造（句構造分析の拡張）、格の概念、受動構文、受動構文分析の拡張などを、概説する。	
	英米言語概説B	英語の具体的言語事実を取り上げ、英語学の学問領域における音韻論・敬体論の基礎的概念を概説する。具体的には、聴音音声学の基礎、音節の仕組み、音素、同化現象、接辞の種類、2種類の接辞、複合語、動詞由来複合語の規則性、複合語と句の強勢などを、概説する。	
	日本文学概説A	平安時代の古典文学について、概説する。現存する作品のうち、いくつかの作品を原文でとりあげ、実際に読むことを通して、個々の作品の特徴の一端を知るとともに、文学史における位置づけを理解する。	
	日本文学概説B	日本近世文学史を概観するため、主要作品の一部を読み、作者を紹介していく。本格古典である中世までの文学と近代文学に挟まれて、いまだ文学的評価が定まらない分野も多い近世文学の特徴を考察する。文学と出版文化との深い関わりや、俳諧の発想法などにも触れながら、まとめてみたい。	
	日本文学概説C	明治期以降に発展した、日本近代文学の内容と表現の特徴を、モラルをキーワードとして、小説を中心に論じる。	共同
	アジア言語文化概説A	中国語で書かれたエッセイについて、これまでに学んだ知識を駆使して正確に読解をすすめる。身近なトピックを多様に取り上げ、語彙力を養いながら、文体に応じた訳し方について理解を深める。中国語エッセイを精読することで、中国語における表現の幅を理解し、文体に応じた訳し方ができるようにする。また、文構造をよく理解し、過不足なく、適切に翻訳するトレーニングをする。	
	アジア言語文化概説B	中国語で書かれた様々なジャンルの文章について、正確に読解する。身近なトピックを多様に取り上げ、語彙力を養いながら、文体に応じた訳し方について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	アジア言語文化概説C	中国古典文学の中でも、特に詩歌文学に焦点を絞り、時代やジャンルごとに重要事項について学習する。また、代表的な作品を実際に読み、内容を理解するとともに、その作品の従来解釈について検討する。	
	アジア言語文化研究法A	現代「朝鮮」（大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国）を理解するための基本的な文献を読み、映像資料も参考に、「朝鮮」人の日本観、「在日日本」人の「朝鮮」観を批判的に検討する。また、そのためのアンケート調査などを実施する。	
	アジア言語文化研究法B	現代中国語の文法について、これまでに学んだ文法項目を復習しながら、さらに理解を深める。文法解説ではとくに文構造についての解説に時間を割き、多くの練習問題を通じて中国語の表現方法について理解を深める。	
	中国語オプショナルA	中国語の学修に意欲がある学生が、学部、専門、学年を問わず第三、第四の外国語として履修できる中国語の入門コースである。発音、声調、ピンインや基本的な文法など、中国語を話す上で必要な基礎的な要素を学んでいく。特に、中国語の発音練習はくりかえし行う。また、中国語の学習を通して、中国文化に対する興味・理解を深める。	
	朝鮮語オプショナルB	本講義は、朝鮮語の文字と発音、発音の規則、あいさつ、決まり文句を覚えるものである。朝鮮半島の言葉は、日本人にとって、学習が最も容易な外国語と言われている。朝鮮語の学習を通じて、隣国の社会と文化を体験する。	
	西洋言語概説	This course of 15 lectures surveys the history of the English language. Because the history of the English spans approximately 1,500 years only some of the major features of development will be considered, starting from its early roots in Germanic languages, to the state of contemporary American speech. 15回の講義では、英語の歴史について学ぶ。英語の歴史は約1500年に及ぶため、ドイツ語の初期の起源から現代アメリカの口語の現状に至る主要な項目を扱う。	
	西洋文化概説	西欧文明の特徴を、古代ギリシア・ローマ文化、原始キリスト教文化など多様な文化的形成と、中世、ルネサンス、および近世から近代にかけての時間的・空間的転位と、再解釈プロセスなどの諸相に焦点をあてて通史的に講義する。近代以後の多様な国民的文化構築において多岐化したその差異ばかりではなく、その内部における多様性を見渡し、同時に西欧(Occident, Western Europe などその記述の対象そのものにも重なりとずれがある) 統一性の軸となるものが何か再検討することを目標とする。	
	英米文化概説A	本講では英米の文化全般について、映画を題材に合計30のトピックに焦点を絞って学習していく。文化事象全般についての解説となると、抽象的になりがちだが、本講では概念や思想に関する説明をふまえた後、最近20年ぐらいに公開されたイギリスとアメリカの映画を題材に、それらがどのように具体的に表象されているか確認していきたい。	
	英米文化概説B	和文テキストを講読することにより、植民地時代から20世紀前半までのアメリカ文学の流れを概観・把握する一方で、代表的作家の著作（原文）の抜粋を味読しつつ、アメリカ文学の特徴について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・専門科目 理解科目	ドイツ言語文化概説A	ドイツ語の歴史を短く概観したあと、18世紀～20世紀の近代ドイツに焦点を当て、文学、思想、芸術、生活文化などの多様な分野から主要な作品や事例を挙げつつ、様々な角度から、ドイツ文化の発展をたどる。	
	ドイツ言語文化概説B	ドイツ語学の概論として、現代ドイツ語の音声、文法（形態論・統語論）、語彙、意味、用法などの基礎的な概念を論じるとともに、ドイツ語の歴史の変遷を学習し、中期のドイツ語のテキストを読む。また、現代ドイツ語を教授する方法論も扱う。	
	フランス言語文化概説A	フランス語を書く能力の習得を通じ、フランス言語文化学の基礎的な知識とフランス語の応用的運用能力を身につける。第5セメスター以後にフランス言語文化を専攻する学生は、できるかぎり履修することが望ましい。	
	フランス言語文化概説B	フランス語をさまざまな視点から考察する。言語一般の性質について考える。ときに日本語や英語などと対照しながら、フランスの言語文化の特徴を考える。内容については多少変動することがある。	
	ロシア言語文化概説A	ロシア・東欧の「子ども」文化について考える。ヨーロッパにおいていかに「子ども」は発見され、その「教育」のために絵本や児童文学はつくられていったのだろうか？ コメニウスの『世界図絵』から始まったヨーロッパの絵本の歴史は、20世紀のロシア・東欧においてさらに独自の発展をとげた。1910-30年代のロシア・アヴァンギャルドの芸術家たちによる絵本、社会主義ソ連時代の絵本やアニメーション、チェコやポーランドの絵本など、作品を実際に読解することで、ロシア・東欧における「子ども」観や芸術表現についての理解を深めていきたい。	
	ロシア言語文化概説B	ロシア語で書かれた中級ロシア語教科書をテキストとして読む。語彙を増やし、ロシア語特有の表現や中級文法を習得する。ロシア語そのものへの関心を深め、ロシア言語学への入門へとつながるような授業を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・科目 理解科目	人文社会科学入門（法学）	本科目は、これから主として法学を学ぼうとする学生を対象に、転換・導入教育の一環として、今後の専門的な学習にとって必要となる基礎的事項を説明するとともに、具体的な事案の分析を通じて、法律学の基本的な思考枠組みを学んでいくことによって、いわゆるリーガル・マインドの涵養を図るものである。まず初回講義では、オリエンテーションとして本科目全体の構成を説明したうえで、交通事故等の人身損害の事例をもとに、法律学的思考の特質について考えてもらう。第2回から第5回では、法の基本構造（ルールの中の法の特徴・法の分類・法源論等）や法の解釈等のいわゆる「法学入門」に属する事項を取り扱う。第6回と第7回では、裁判における法の適用に関する問題を取り扱う。具体的には、裁判のしくみ、裁判所の種類、法曹三者の役割等の「裁判制度」の基本構造を説明するほか、民事裁判と刑事裁判のそれぞれの特徴について解説する。第8回から第15回では、社会における法の役割について、具体的な事例を取り上げながら詳細な解説をおこない、法学、とりわけ法解釈学の基本的な思考枠組みを習得させるとともに、主として憲法・民法・刑法の基本三法に関する基礎知識の定着を図る。ただし、本年度については、市民社会の基本法と称される民法が実定法学の思考枠組みの原型ないし基本形としての意義をもつことから、主に民法に関する領域から具体的な考察事例の題材を選ぶ予定である。このため、後半は民法入門としての位置づけも持つ。	
	リーガル・システム	本科目では、憲法・刑法・行政法の入門的説明を行う。本科目は、法学部においては、転換教育科目である人文社会科学入門（法学）の履修後、1年次後期より開始される開始される法学部専門教育を受けるための導入教育科目として位置づけられるものである。	
	憲法Ⅰ	日本国憲法の人権保障について概観する。本講義では、具体的事例を挙げながら、人権保障の内容とシステムについて考えてゆくことにしたい。憲法学に関する基本的事項について概説する。	
	民法Ⅰ	本講義では、民法典第1編「民法総則」に規定された諸制度の基礎や重要裁判例について詳細な説明をおこなう。併せて、民法科目全体（特に財産法領域）に対する導入的な概説を行う。	
	民法Ⅱ	本講座では、民法典にある諸制度のうち、事務管理制度（697条以下）、不当利得制度（703条以下）、そして不法行為制度（709条以下）を扱う。各制度が民法典の中でどのような位置づけになっているのか、その制度が用意されている意義、などの総論的なことから、具体的な事例において争点となっている各論的な知識などについて説明していく。	
	民法Ⅲ	所有権をその典型とする物権は、財貨帰属のための法的基礎を支えるものであり、今日の資本主義体制にとって重要な権利として観念されている。本講義では、所有権を主に念頭に置きつつ、その発生・変更・消滅というプロセス（いわゆる物権変動）の内容と理論構成を中心に概説及び検討を行う。具体的には、所有権移転と第三者への対抗問題を柱としつつ、その前提としての所有権・占有権の概念、また、用益物権の概要を説明する。なお、物権の一内容を構成する担保物権については、他の講義で取り扱われることが予定されているため、本講義の対象ではない。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	刑法Ⅰ	本科目は、講学上「刑法総論」と呼ばれる学問領域の前半部分を対象とする。「刑法総論」とは、犯罪と刑罰に関する一般原則及び犯罪に共通する成立要件を明かにすることを目的としているが、本科目では、そのうち、刑罰論、刑法の基本原則、構成要件該当性、違法性を主な対象とする。なお、「刑法総論」の後半部分は、「刑法Ⅱ（刑法総論2）」or「刑法Ⅱ（刑法総論Ⅱ）」or「特殊講義（刑法総論発展）」において扱われる。	
教養・教育に関する科目	健康スポーツ科学実習Ⅰ	身体を動かすことの意義を再確認し、健康・体力づくりのための知識や方法を学習する。スポーツ種目としては安全なタッチラグビーを中心に行う。（雨天時には体育館でバレーボールなどを行う）スポーツ技能の習得とあわせ、スポーツの楽しさの再確認ができることを目的とする。また、心拍数と運動強度の関係についての視点から、身体運動と健康維持・増進との関連を学習する。また、自己の体力水準を把握するとともに、タッチラグビーのルールと個人戦術・グループ戦術を習得する。体力的にも技術的にも、それぞれ個人のレベルに応じて少しでも向上することを目指す。	
	健康スポーツ科学実習Ⅰa	身体を動かすことの意義を再確認し、健康・体力づくりのための知識や方法を学習する。スポーツ種目としては安全なタッチラグビーを中心に行う。（雨天時には体育館でバレーボールなどを行う）スポーツ技能の習得とあわせ、スポーツの楽しさの再確認ができることを目的とする。また、心拍数と運動強度の関係についての視点から、身体運動と健康維持・増進との関連を学習する。また、自己の体力水準を把握するとともに、タッチラグビーのルールと個人戦術・グループ戦術を習得する。体力的にも技術的にも、それぞれ個人のレベルに応じて少しでも向上することを目指す。原則として「健康スポーツ科学実習Ⅰb」と合わせて、履修する。	
	健康スポーツ科学実習Ⅰb	身体を動かすことの意義を再確認し、健康・体力づくりのための知識や方法を学習する。スポーツ種目としては安全なタッチラグビーを中心に行う。（雨天時には体育館でバレーボールなどを行う）スポーツ技能の習得とあわせ、スポーツの楽しさの再確認ができることを目的とする。また、心拍数と運動強度の関係についての視点から、身体運動と健康維持・増進との関連を学習する。また、自己の体力水準を把握するとともに、タッチラグビーのルールと個人戦術・グループ戦術を習得する。体力的にも技術的にも、それぞれ個人のレベルに応じて少しでも向上することを目指す。原則として「健康スポーツ科学実習Ⅰa」と合わせて、履修する。	
	健康スポーツ科学講義	受講者は、健康スポーツ・体育に関して、原理論・健康科学・生涯スポーツ等の観点から、現代社会の課題を理解し、健康・余暇の充実・自己実現等に関連する教育・文化活動のあり方について学習する。	
	健康スポーツ科学講義a	受講者は、健康スポーツ・体育に関して、原理論・健康科学・生涯スポーツ等の観点から、現代社会の課題を理解し、健康・余暇の充実・自己実現等に関連する教育・文化活動のあり方について学習する。原則として「健康スポーツ科学実習Ⅰb」と合わせて、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解に 関する科目	健康スポーツ科学講義 b	受講者は、健康スポーツ・体育に関して、原理論・健康科学・生涯スポーツ等の観点から、現代社会の課題を理解し、健康・余暇の充実・自己実現等に関連する教育・文化活動のあり方について学習する。原則として「健康スポーツ科学実習 Ia」と合わせて、履修する。	
	健康スポーツ科学実習Ⅱ（ゴルフ）	個人の生涯スポーツとなり得るスポーツの一つとしてゴルフがあげられ、この授業を通じて、スポーツの楽しさ、体力の維持増進、好ましい社会的態度の涵養、自然環境に触れることの爽快感、そしてセルフマネジメント等を学ぶことを目的とする。現在大学体育において、実際のゴルフコースにおいてゴルフのプレーをするまで授業を進めているところは少ない。本授業はその数少ない一つであり、実際のゴルフコースでプレーするところまで展開する。	共同
	健康スポーツ科学実習Ⅱ（スキー I）	雪上スポーツであるスキー技術を習得することにより、冬期間でも野外で身体運動を行う楽しさを学ぶことを目的とする。また、冬山での自然の美しさや厳しさなど体験することを通して自然環境への理解を深める機会とする。3泊4日の日程で妙高池の平温泉スキー場（新潟県）で行う。初心者から上級者まで技術に応じた指導を受けることができる。	共同
	健康スポーツ科学実習Ⅱ（スキー II）	雪上スポーツであるスキー技術を習得することにより、冬期間でも野外で身体運動を行う楽しさを学ぶことを目的とする。また、冬山での自然の美しさや厳しさなど体験することを通して自然環境への理解を深める機会とする。3泊4日の日程で妙高池の平温泉スキー場（新潟県）で行う。初心者から上級者まで技術に応じた指導を受けることができる。	共同
	健康スポーツ科学実習Ⅱ（ソフトボール）	男女問わずあらゆる年齢層に親しまれている「ソフトボール」の競技特性を理解するとともに、実践を通してより楽しく、より安全にゲームを行うための方法を学習する。また、仲間と協力して主体的にスポーツに取り組む態度、コミュニケーション能力を養う。到達目標は次のとおり。 1 仲間と協力的に、楽しく安全にソフトボールを実施できる。 2 ソフトボールのルール・マナーを説明できるとともに、実践者の技術レベルに応じた特別ルールを考案できる。 3 基本技術（投げる・捕る・打つ・走る）を安定して行える。	
	健康スポーツ科学実習Ⅱ（トレーニング）	有酸素的トレーニング及び無酸素的トレーニングを通じて、体力トレーニングの理論及び実践について学習する。 ① 体重を維持しながら体脂肪率を減らす。 ② 体脂肪率を減らしながら体重も減らす。 ③ 競技スポーツを実践するに当たって、種目別体力向上等を目標に現在の身体組成や体力を基に、個人及びスポーツ種目に応じたトレーニング方法を習得する。 ※毎時間理論を2割、実技を8割の構成で進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解・科目	健康スポーツ科学実習Ⅱ（バドミントン）	教養として、スポーツへの知的な関わり方を学ぶ。生涯スポーツに向かう態度、スポーツの学習方法、トレーニングの基礎などを、バドミントンを主な教材として、学習する。あわせてバドミントン競技を楽しめるように学習をすすめながらプレーヤーとしての資質だけでなく、スペクテーター、コーディネーターとしての資質についても学習する。与えられた課題に取り組み、自らの身体、感覚、感情などに現れる変化を感じ取るとともに、他者の身体、身体運動の変化を観察する。そして、次なる課題は何か、その課題を達成するには何が必要かを考え、実行してみる。実行の結果を反省し、次の課題設定につなげる。これら一連のPDCAサイクルを作り上げること、表現方法を学ぶことなどがねらいである。	
	健康スポーツ科学実習Ⅱ（卓球Ⅰ）	生涯スポーツとして卓球に親しみ、楽しむことが出来ることを目的として、そのための知識、技術を習得する。ゲームを中心として試合の進行方法や審判法を学ぶ。試合はシングルス、ダブルス、団体戦等を行い、それぞれのルール、ゲームの行い方、総当たりのリーグ戦やトーナメント形式など、大会運営等の方法を学ぶ。 各自準備するものは運動のできる服装と卓球ができるシューズ、これら以外の用具は大学で用意するが、自分のラケットを持つことが望ましい。その際にラバーの劣化に注意し、古いものは張り替えること。	
	健康スポーツ科学実習Ⅱ（野外活動）	健康で質の高い生活を営むために、スポーツを生活に取り入れ、生涯にわたるスポーツの実践の方法を学ぶ。具体的には、夏休みに津南トレッキング(2泊3日)を行う。野外活動に必要な基礎技術の習得、集団生活を通して共同的協調的資質を養い、自然体験活動により環境教育およびマナーやルールを学び、生涯スポーツの一つとして生かせるようにする。野外活動に必要な基礎技術の習得、集団生活におけるマナーやルールの定着を最終目標とする。	
	UNIXリテラシー演習	UNIXリテラシー演習は、Linux/Xウィンドウシステムを便利な道具として使ってみようと考えている人のための科目。 Windowsは利用しない。次の4つを到達目標とする。 1 Linuxのエディタ操作を習得し、自在に使えるようになる。 2 Linuxの基本操作を習得し、自在に使えるようになる。 3 Linuxの簡単なシェルスクリプトを習得し、自在に使えるようになる。 4 LaTeXの文章作成を習得し、自在に使えるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目 授 業 科 目	情報セキュリティ入門	コンピュータによる情報通信は、現代社会には欠かせない生活基盤となってきた。しかし、多くの人がコンピュータネットワークにアクセスする機会が増えるとともに、それらを悪用する危険性も高まっている。近年、コンピュータセキュリティの重要性が認識されはじめ、技術的にも社会的にも体制が整いつつある。この講義では、前段にコンピュータセキュリティの概略と新潟大学の情報セキュリティの現状を説明し、中段および後段では、PC等の具体的なセキュリティ対策を取り上げ、コンピュータセキュリティの技術的側面を中心に学習する。 （オムニバス方式／全15回） （560 渡邊 正敬／2回）コンピュータセキュリティの基礎的な総論について説明する。 （232 青山 茂義／3回）コンピュータウイルス パソコンからの情報漏えいについて説明する。 （233 三河 賢治／5回）スマートフォン・タブレット端末のセキュリティ対策及びWindowsでの対策ツールについて説明する。 （419 宮北 和之／5回）危険なネットワーク通信 インターネットサーバの仕組みを説明する。	オムニバス方式
	データサイエンス総論Ⅱ	実社会におけるデータ利用法を学び、データサイエンスの応用範囲を学習、理解する。またデータサイエンスには、データサイエンス力、データエンジニアリング、ビジネス力を適切に用いて様々な課題解決が求められていることを理解する。	
	ネットワークリテラシー	本授業では、まず、ネットワークセキュリティ、ネットワーク倫理について講義し、その後、TCP/IP ネットワーキングモデルについて、講義と、自分のノートパソコンを用いた演習を通して、その動作を学ぶ。	共同
	情報リテラシー	パーソナルコンピュータを情報化時代における「文房具」の一つとして活用するための基本的な操作法を習得する。そのためのポイントの一つはキーボード操作能力であり、正しいタッチ・タイピング（ブラインド・タッチ）の習得が重要である。それを基にして様々な情報の活用方法を学び、コンピュータを日常的に効率よく利用できる能力を身につける。パーソナルコンピュータの操作そのものは容易であり、だれもがすぐに「一応使える」ようになる。本講義では、それよりも一つ上を目指していく。コンピュータをより確実に、効率的に「使いこなせる」ようになり、携帯電話などと同様に日常的な器具（学習ツール）として扱えるレベルに達することが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	情報リテラシー概論	ネットワーク時代に即した広範囲な「情報リテラシー」。学内システムの操作、コンピュータ技術、ネットワーク利用法、法律や情報検索などをそれぞれの専門家が講義するオムニバス形式の授業である。コンピュータやネットワークは、その使い方を間違えると自らが被害者として様々なトラブルに巻き込まれるばかりでなく、ともすれば加害者や犯罪者にもなりかねない。本講義ではそのようなことにならないように、情報に関する様々な知識を得、それを実践できるようになることが目標である。 (オムニバス方式／全15回) (234 五島 譲司／5回) ネットワークの概論について説明する。 (420 須川 賢洋／4回) ネットワークの法律について説明する。 (561 佐藤 敬／3回) コンピュータ・Web・メール・携帯電話の仕組みを説明する。 (562 一戸 信哉／3回) SNSと情報メディアについて説明する。	オムニバス方式
	情報機器操作入門	コンピュータの基本的な操作方法を習得し、実用的な操作ができるようにする。ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなど、大学での学習に不可欠なソフトの利用法を学習する。インターネットの安全な利用法を身につける。	共同
	情報教育論	大学における学習者の情報リテラシー・情報コミュニケーション技術（ICT）活用能力を充実・向上させる観点から授業を展開する。はじめに、情報ネットワークとそのセキュリティ対策の基本を修得し、日常的に情報ネットワークを自由かつ「安全」に活用できるようにすることを目指す。 (オムニバス方式／全15回) (44 佐藤 亮一／6回) インターネットと情報モラル及び教育実習での情報セキュリティ。 (235 中村 和吉／3回) ワープロの操作方法について。 (293 田中 咲子／2回) 表計算ソフトの利用について。 (233 三河 賢治／2回) プレゼンテーションについて。 (419 宮北 和之／2回) 学校現場における情報セキュリティポリシーと情報セキュリティについて。	オムニバス方式
新潟大学個性化科目	インターンシップ実習	「働く」現場を体験することで、自らのキャリア形成に関する幅広い視野を持ち、将来の職業に対する高い意識を育成するとともに、今後の専門分野の学習の意義について確認する。	
	キャリアデザイン	この講義は、大学生活の早期に、キャリアに関する意識を高め、自分の能力を発揮し、自分らしく生きるにはどうしたらよいかを考究させることを目指すもので、キャリアについて考えるための手がかりを与え、社会と自己、企業と社会、組織と個人、働くとはどういうことか等々の問題を入門的に解説し、進学を含めた幅広い角度からキャリアデザイン、キャリア設計の重要性を説く授業である。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 潟 大 学 個 性 化 科 目 キャリア形成	この講義は、いかにキャリアを設計するのか、いかにキャリアを形成してきたか、人生におけるキャリアとは何か、現在のキャリア環境はどのようなものか、それぞれの職場では今後どのような変化があるか等々、解説し、検討していく。キャリアを形成する環境の多様性を理解し、自分の適性を活かしたキャリアについて考究する。キャリアを具体的に選択するヒントを得ながら、社会へ出て行く心構えをもち、キャリアを形成する環境の多様性を説明できる、また現実的かつ積極的に自らのキャリアの選択肢を絞ることができるようになることが到達目標である。	共同
	コミュニティインターンシップ入門	「にいがた」の地域やテーマを題材として、現場で活躍する方々や関係のある人々の知見に触れ、「実際に現場に出て考える」ことを通じて、受講生が新潟の文化（食・自然・歴史等）の魅力に気づき、活性化につながるプランを提案するためのフィールドワーク入門科目である。この科目を通じて、地域創生、まちづくりに向けた課題発見や関連する学修への動機づけを高めることを目的とする。	共同
	技術者としてのキャリア形成入門演習	学部で実施するインターンシップを履修するにあたり、学外実習を円滑に進めるための社会人としての基本的な姿勢を学ぶ。本科目は小グループに分かれての学生自らの主体的演習を中心として構成され、個別企業等の情報のみならず、技術者が社会で求められるリーダーシップやコミュニケーションのあり方を、実践を通して理解、修得する。 なお本科目は、企業等における生産活動や研究開発、組織マネジメントなどの実務経験を有する教員が、その経験を活かして企業実務の実践を教授する。	共同
	近世越後諸地域の歴史と社会	地域で暮らしていく上で重要な、地域社会に関する歴史的な認識のしかたを、近世越後の諸地域を例に学ぶ。最新かつ身近なトピックから地域の歴史を考えていく。新潟県の地域社会の歴史的前提となる、近世（安土桃山～江戸時代）の越後における社会の諸相を具体的に学び、歴史的に地域をとらえる観点を養うもの。 自分の関わる諸地域が歴史的にどのような形成され、それが現在の地域をどのように規定しているのか考えることができるようになることを到達目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (47 原 直史／3回) 履修受付とガイダンス、近世越後の諸藩と地域社会 (585 長谷川 伸／3回) 戦国・近世初期の港と地域 (588 花岡 公貴／3回) 近世越後の諸藩と政治 (587 安宅 俊介／3回) 近世越後の港と社会 (586 渡部 浩二／3回) 近世越後の名所と地域	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新潟大学個性化科目 食と健康の科学	食品科学を初めて学ぶ学生の入門科目として、身近な問題である食品の成分、機能、健康との関係、調理・加工、災害対策、消費者行動等を取り上げ、現代生活における食品の役割について概説する。食と健康について科学的に解説を行う。 （オムニバス方式／全15回） （49 城 斗志夫／1回）ガイダンス、食品の機能 （48 藤村 忍／5回）食肉のおいしさ：呈味と香気、食品工学、災害食：災害を乗り切る食の備 米タンパク質由来ペプチドの多彩な健康機能 （245 元永 佳孝／1回）食品の色：ル レクチエの追熟と美味しさ （52 井上 誠／1回）食えることと飲み込むことの不思議なメカニズムとその病気 （244 原 崇／1回）食品アレルギーと抗アレルギー食品 （243 中井 博之／1回）オリゴ糖の健康機能 （423 伊藤 亮司／1回）清酒づくりと現状 （50 西海 理之／1回）高圧食品加工 （246 山口 智子／1回）調理科学 （51 清野 誠喜／1回）消費者行動と食品マーケティングを知る （457 筒浦 さとみ／1回）食と健康の科学	オムニバス方式
	新潟から考える雪の科学と文化	千差万別の雪の美しい姿形に魅せられた人々が、雪結晶をスケッチし、顕微鏡写真に撮り、実験室で人工雪を作成し、雪国の暮らしを書物に著して、雪の科学や文化を築いてきた。また、冬に山地に積もった莫大な雪は、春から夏にかけていろいろな残雪模様を描きながら融け出し、貴重な水資源として役立っている。さらに雪は、地球の環境や気候とも密接に関係している。このようにわれわれにとって大変身近な存在であり、人々の生活や自然界全体の循環や生態に重大な関わりを持つ雪を、新潟地域を中心として、地球科学的な面に文化的な面を関係づけながら多角的に解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目 科目	新潟の農林業	この科目では、農学部食品科学、生物資源科学、流域環境学およびフィールド科学人材育成の各プログラムを主担当とする教員が参加し、「新潟の農林業」の特徴や課題を多面的に解説する。稲作、園芸、畜産、林業そして農村・中間山地のカテゴリーの下、最新のトピックもふまえた様々な知識にふれることで、今後の学びのきっかけをひろく得ることができる。講義形式（オムニバス）の授業である。 （オムニバス方式／全15回） （247 村上 拓彦／6回）ガイダンス、酒と酒米、新潟の園芸、新潟の発酵食品、新潟の畜産、日本の林業と新潟の林業、県の家畜生産とその特徴 （250 吉川 夏樹／1回）新潟平野における水との戦い （248 韓 東生／1回）新潟の野菜生産 （424 大谷 真広／1回）新潟の園芸作物の過去・現在・未来 （425 吉田 智佳子／1回）新潟の農業における「耕畜連携」の現状 （48 藤村 忍／1回）おいしさで高品質化を図る新潟の食肉開発 （249 森口 喜成／1回）林木の育種、新潟県の取り組み （423 伊藤 亮司／1回）農政の展開方向と新潟県農業の課題 （252 本間 航介／1回）新潟の里山林の現状と再生 （251 坂田 寧代／1回）中山間地域の生活環境の整備	オムニバス方式
	新潟産業フィールドワーク	ほぼ2週間にわたり、新潟県内の企業やNPOを訪問体験するほか、新潟県議会を傍聴して新潟県の抱える課題を知る。5人程度を1グループとし、さらに企業等の訪問は小グループに分かれて行動する。訪問した企業から課された課題や、県議会での議題等について、グループワークで取り組む。	共同
	土と水	この科目では、農学部の応用生命科学、生物資源科学、流域環境学およびフィールド科学人材育成の各プログラムを主担当とする教員が参加し、「土」と「水」を多面的に解説する。前半（第1～8回）では農業を行う上での土と水の働きと管理、制御などについて、後半（第9～15回）では土と水の自然現象や環境における役割について学ぶ。講義形式（オムニバス）の授業である。 （オムニバス方式／全15回） （53 原田 直樹／2回）ガイダンス・資源としての土壌、土壌と水の汚染 （254 大竹 憲邦／1回）植物と土壌 （427 粟生田 忠雄／2回）水田土壌の生産性、水田土壌の多機能性 （255 長谷川 英夫／1回）土を耕す （250 吉川 夏樹／1回）水の制御と農業用水 （57 鈴木 哲也／2回）土と水の資源化～農業水利施設の役割 （54 中田 誠／1回）森林内での降水の動きと性質変化 （56 権田 豊／1回）水と土と森 （428 稲葉 一成／1回）動く土 （256 ウィタカアンドリュー／1回）気候変動と水資源 （55 関島 恒夫／1回）水田生態系 （251 坂田 寧代／1回）農村環境と水	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新潟大学個性化科目 日本酒学 A-1	新潟県は、言わずと知れた日本酒の銘醸地である。日本で最も多くの酒蔵があり、多様な日本酒が造られている。本講義では、日本酒に関わる文化的・科学的な幅広い分野を網羅する日本酒学を開講する。日本酒学 A-1 では、日本酒の基礎的な事項について解説する。	共同
	日本酒学 A-2	新潟県は、言わずと知れた日本酒の銘醸地である。日本で最も多くの酒蔵があり、多様な日本酒が造られている。本講義では、日本酒に関わる文化的・科学的な幅広い分野を網羅する日本酒学を開講する。日本酒学 A-2 では、日本酒の発展的な事項について解説する。	共同
	日本酒学 B	新潟県は、言わずと知れた日本酒の銘醸地である。日本で最も多くの酒蔵があり、多様な日本酒が造られている。本講義では、日本酒に関わる文化的・科学的な幅広い分野を網羅する日本酒学を開講する。日本酒学 B は、日本酒の理解を深める実践的な講義とする。	共同
	コミュニティーインターンシップ実践	本授業では、地域関連に入門科目（2018 年度「地元学入門」等）における最終提案資料を起点として、学生がプロジェクトを企画し、実行する。プロジェクトを企画・調整・実践する過程での「失敗」を課題分析し、実践を通じて「企画力」「調整力」「実行力」の育成を目的とする挑戦的な取組である。	共同
	コミュニティ開発論Ⅰ	コミュニティ活性化の現実と理論を学ぶとともに、授業の補助業務を実践することで、コミュニティを支える人材について考える講義である。具体的には、「ボランティア開発論Ⅰ」を受講した経験を活かしながら、同授業を受講している学生の支援活動を行い、どのような考えで授業が運営されているかを知る。また、スタディ・ツアーやワークショップの適地選定、講師折衝などを通じて、実践力を高めると共に、コミュニティマネジメントについても学ぶ。	共同
	コミュニティ開発論Ⅱ	コミュニティ活性化の現実と理論を学ぶとともに、授業の補助業務を実践することで、コミュニティ活性化を進める人材育成について考える講義である。具体的には、「ボランティア開発論Ⅱ」を受講した経験を活かしながら、同授業を受講している学生の支援活動を行い、どのような考えで授業が運営されているかを知る。また、スタディ・ツアーの適地選定、講師折衝などを通じて実践力を高めると共に、コミュニティマネジメントの基本である小規模多機能自治推進の具体的な手法についても学ぶ。	共同
	ダブルホーム活動演習	ダブルホーム制とは、専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して専門分野の枠を越えて集まった学生たちが教職員とともに「第二のホーム」をつくり、地域活動に取り組むプログラムである。本科目は、ダブルホーム制の活動地域である阿賀町をフィールドとして2泊3日の現地フィールドワークを含む演習を行う。深く地域に関心を持ち、地域とかわる学生を育むことを目的とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新潟大学個性化科目 ダブルホーム活動入門Ⅰ	本科目は、新潟大学独自のプログラムであるダブルホーム制に参加し、積極的に自分・仲間・地域のために活動したいと望む学生のために開講している。ダブルホーム制とは、専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して専門分野の枠を越えて集まった学生たちが教職員とともに「第二のホーム」をつくり、地域活動に取り組むプログラムである。ダブルホーム活動は、卒業時まで参加できるプログラムであり、本授業は、その導入に当たる。授業では、ダブルホーム活動への動機づけを行い、チームで地域活動に取り組むための心構えを身につけることも目的としている。地域の中で人々の暮らしや歴史に触れ、地域が持つ魅力や課題を発見し、解決方法を考え、その活動を振り返るといった過程を体験し、自己の成長を図る科目である。 授業では、ダブルホーム活動への動機づけを行い、チームで地域活動に取り組むための心構えを身につけることを目的としている。地域が持つ魅力や課題を発見し、自分たちにできることを考えるための基礎知識を習得する。	共同
	ダブルホーム活動入門Ⅱ	本科目は、新潟大学独自のプログラムであるダブルホーム制に参加し、積極的に自分・仲間・地域のために活動したいと望む学生のために開講している。ダブルホーム制とは、専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して専門分野の枠を越えて集まった学生たちが教職員とともに「第二のホーム」をつくり、地域活動に取り組むプログラムである。ダブルホーム活動は、卒業時まで参加できるプログラムであり、本授業は、その導入に当たる。授業では、ダブルホーム活動への動機づけを行い、チームで地域活動に取り組むための心構えを身につけることも目的としている。地域の中で人々の暮らしや歴史に触れ、地域が持つ魅力や課題を発見し、解決方法を考え、その活動を振り返るといった過程を体験し、自己の成長を図る科目である。 授業では、ダブルホーム活動への動機づけを行い、チームで地域活動に取り組むための心構えを身につけることを目的としている。地域の中で人々の暮らしや歴史に触れ、地域が持つ魅力や課題を発見し、解決方法を考え、その活動を振り返るといった過程を体験し、自己の成長を図る科目である。	共同
	ボランティア開発論Ⅰ	ボランティアの現実と理論を学ぶ講義である。具体的には、過去の災害時にどのような災害ボランティアが展開され、その成果と課題がどのような点にあるのかといった知識、災害ボランティア・コーディネーターに必要なスキルとしての、コミュニケーション術、話し合いを進める技術（ファシリテーショングラフィックなど）を身につける。スタディ・ツアーにおいては、地域におけるボランティア活動からコミュニティの自立へつなげた方々と話すことによって、ボランティアの可能性について考えることができるようになる。また、コミュニティ活動の活発な地域との継続的な関係作りの一助とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 新 潟 大 学 に 個 性 化 科 目 と す る 科 目	ボランティア開発論Ⅱ	ボランティアの現実と理論を学ぶ講義である。具体的には、前期のボランティア開発論Ⅰで学んだスキルを活用し、複数名の協働活動によりプロジェクトを策定、可能ならば実施する。スタディ・ツアーにおいては、災地の現状を知り、災害被害の実状について学ぶとともに、災害ボランティアのあり方を考えられるようになる。また、今後の被災地との継続的な関係作りの一助とする。	共同
	学校支援フィールドワーク A (高等学校)	本科目は、学校を取り巻く環境の理解についてフィールドワークを中心にした実践的学修科目である。 将来教員を目指す意欲のある学生を対象に、低学年次の早い段階からフィールドワークによる教育現場関係者との協働的おコミュニケーションを通じて、学校を取り巻く環境（学校と密接に関連する地域を含む）を理解することにより、自己を省察する能力や他者との協調性を 函養するための授業科目として位置付ける。	共同
	学校支援フィールドワーク B (高等学校)	本科目は、新潟市内の学校と学校を取り巻く環境の理解についてフィールドワークを中心にした実践的学修科目である。 将来教員を目指す意欲のある学生を対象に、低学年次の早い段階からフィールドワークによる教育現場関係者との協働的おコミュニケーションを通じて、学校を取り巻く環境（学校と密接に関連する地域を含む）を理解することにより、自己を省察する能力や他者との協調性を 函養するための授業科目として位置付ける。	共同
	現場訪問とデータから読み解く 新潟の今—新潟地域産業の可能性を探る—	新潟の地域産業が抱える特定の課題やその改善・解決に向けたタイムリーな動きについて、座学で表面的な知識だけを知るのではなく、現場での当事者目線のヒアリングおよび既存のデータ等も活用し、異なる立場による意見の違いをふまえながら、理解を深めることをねらいとする。	共同
	新潟での企業理念と経営戦略	本授業では、新潟県で事業を展開しておいでの方々の社長の方々をお招きして、企業理念と経営戦略をうかがうことを通して、事業や実社会の魅力を知るとともに、現場実習を通して産業界、経済界の実態を把握することを通して、新潟の魅力を再認識することを目的とする。	共同
	新潟地域研究	日本は「資源に乏しい国」だろうか。近年、新潟沖などでも採取されるメタンハイドレート（以下 MH）という純国産資源は、この状況を一変させる可能性を秘めていると言われる。「MH のバスが新潟を走れば、BBC が、CNN が大々的に取り上げ、日本のイメージは大きく変わるだろう」と指摘されている。MH の開発には、新潟大学、新潟県も積極的に取り組んでいる。この授業では、MH 開発に関わる実務家・専門家を多数お招きし、研究開発の最前線について学ぶ。	
	新潟中小企業魅力発信演習	新潟には様々な魅力がある。本科目では、経済という観点から、新潟の魅力を発信することを目指す。とくに、新潟には魅力的な中小企業が多いことで知られている。参加学生でチームを組み、中小企業の経営者などへのインタビューを行う。その内容を簡単な新聞にまとめ、県内県外あるいは国外に向けて新潟の魅力の一端を発信していく。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	生涯学習社会とメディア	フェイクニュースという言葉聞く機会が増えた。私達を取り巻くメディア環境は、図書やテレビ、新聞、Web、SNSなど多様化している。そうしたメディアから情報を、その真偽を判断しながら受容し、主体的に他者と交流したり議論したりする資質・能力をメディア・リテラシーと呼ぶ。本講義では、具体的なメディア報道、SNSのコミュニケーションを事例について、生涯学習社会に役立つメディア・リテラシーの育成を目指す。	
	地域から文化を考える	地域に根ざした文化をめぐって、様々の角度から考える。 既成の知の体系を学習するという態度ではなく、自ら考え行動するなかで体得できる知のあり方を模索する。地域の視点に立って問題設定し、みずから解決することを目指す。 この方面の第一線で活躍されている4人の学外講師に講義をお願いし、また実際に現場を調査するなかで、私たちの現在と将来にとって必要不可欠な地域に根ざした文化とは何かについて思いをめぐらしたい。 なお本科目は、博物館学芸員や高校教員、自治体職員等の経験を有する教員が、それぞれの現場での経験を生かして地域から考える文化について授業をおこなうものである。 （オムニバス方式／全15回） （257 中村 元／4回）ガイダンス、現地実習、新潟発の文化の創造と発信、政令指定都市新潟のまちづくりの拠点 （595 浅井 勝利／3回）古代地域史研究の方法、古代越後佐渡の特質 （593 竹田 和夫／5回）越後佐渡の棚田文化、佐渡の文化、地域の民俗文化の課題と可能性、文化財から持続可能な社会を考えることについて （594 田中 洋史／3回）災害から文化遺産を守るー長岡市山古志地域を中心にー	オムニバス方式
	文化財と歴史で探る地域の社会と文化 I	歴史的な社会や文化を地域の視点から探求することが、本授業の目的である。わたしたちが暮らす新潟地域を対象として、その歴史的ななりたちを学ぶことで地域の理解を進め、さらに他の地域と比較することにより視野を広げていく。また地域社会を歴史的に理解する上で、文化財の果たす役割にも着目し、博物館において実際に学ぶ機会も設ける。 （オムニバス方式／全15回） （47 原 直史／1回）本授業のテーマと計画の解説、および各回の事前学習の具体的指示 （593 竹田 和夫／4回）文化財と伝統文化 （586 渡部 浩二／4回）越後地域の近世像 （596 前嶋 敏／3回）越後地域の中世像 （597 西田 泰民／3回）県立歴史博物館と新潟地域	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
知識・理解・科目	教養教育に個性化する科目	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	企業での実習と大学での学修支援を組み合わせた、本格的な長期インターンシップ・プログラムである。「Ⅱ」では夏期休業期間中に3-5週間程度の企業実習を行う（他大学の学生と一緒に実習を行う場合あり）。「Ⅰ」では「Ⅱ」の実習に参加することを前提として、企業研究・各自の目標設定と振り返り・汎用的能力養成等を大学で行う（企業訪問を行う場合あり）。「Ⅱ」の実習は就業体験にとどまらず、実際の業務や課題の調査・提案等を行う。実習後には成果報告会を実施する。なお企業実習の受入先は、新潟県内企業および主に首都圏の経済同友会会員所属企業があり、実習の一部は有償（もしくは交通費等の実費のみ支給）で行われる。 なお本科目は、民間企業での実務経験およびインターンシップの豊富なコーディネート実績を有する教員が、その経験を活かし、指導および実習内容の調整を行う。	共同
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	企業での実習と大学での学修支援を組み合わせた、本格的な長期インターンシップ・プログラムである。「Ⅱ」では夏期休業期間中に3-5週間程度の企業実習を行う（他大学の学生と一緒に実習を行う場合あり）。「Ⅰ」では「Ⅱ」の実習に参加することを前提として、企業研究・各自の目標設定と振り返り・汎用的能力養成等を大学で行う（企業訪問を行う場合あり）。「Ⅱ」の実習は就業体験にとどまらず、実際の業務や課題の調査・提案等を行う。実習後には成果報告会を実施する。なお企業実習の受入先は、新潟県内企業および主に首都圏の経済同友会会員所属企業があり、実習の一部は有償（もしくは交通費等の実費のみ支給）で行われる。 なお本科目は、民間企業での実務経験およびインターンシップの豊富なコーディネート実績を有する教員が、その経験を活かし、指導および実習内容の調整を行う。	共同
		Chinese Politics and Diplomacy	This course aims to investigate Chinese diplomacy and international behaviors from various perspectives including international system, ideology, nationalism, perception leadership, public opinion. Empirically, China-Japan-US trilateral relations would be used as a core case study to deepen students' understanding on Chinese politics and diplomacy. 本授業は中国の外交及び対外行動を国際システム、イデオロギー、ナショナリズム、リーダーシップに対する認識、世論など様々な観点から調べることを目的とする。これまでの経験から、中国の政治及び外交に関する受講者の理解を深めるため、日米中の3カ国間関係を主要なケーススタディとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新潟大学個性化科目 International Relations in the Asia-Pacific	This course is to introduce and analyze the dynamic international relations in the Asia-Pacific. The Asia-Pacific has emerged as a region of global significance. It houses the world's three biggest economies, the world's largest military power and the world's most populous nation. The Cold War legacies such as the Korean Peninsula issue and the Taiwan problem remind us that the perpetual peace in the region remains to be an open question. At the same time, the interdependence of member countries in the region is increasingly deepening. The Asia-Pacific is such a fluid and dynamic region that it demands continual reappraisal and reconsideration. 本授業はアジア太平洋地域のダイナミックな国際関係を紹介及び分析することを目的とする。アジア太平洋地域は、世界的に重要な地域として台頭してきた。この地域は、世界三大経済大国、世界最大の軍事力及び世界で最も人口の多い国を擁する。朝鮮半島問題や台湾問題など冷戦の遺産が、この地域の「永遠の平和」には疑問の余地が残ることを思い起こさせる。同時に、アジア太平洋諸国の相互依存は益々深まっている。アジア太平洋地域は、継続的な再評価と再検討が必要な、流動的かつダイナミックな地域である。	
	Japanese Experiences from Various Perspectives	This one-week summer course is aimed to immerse the participating students with knowledge and experience of Japan in a multidimensional learning environment from different angles in English, such as environmental issues, international relations, economic management, Japanese culture and experience. The international students will be given an opportunity to learn Japan and Niigata both in classrooms and our hand-picked on-spot visits and dialogue sessions. The students are expected to familiarize themselves with Japan and the education at the Niigata University with our well-designed lectures and activities by our professor and staff. Some Japanese students of Niigata University may register this course, which will facilitate creative and mutually-stimulating learning. This short but intensive course could serve as a valuable gate-way for students to study in Japan and will be helpful for all students who want to be inter-culturally and globally competent. 本夏季授業は多元的な学習環境で、環境問題、国際関係、経済運営、日本の文化及び日本での経験など様々な角度から、1週間集中的に英語で日本についての知識を得て、日本を体験することを目的とする。留学生は、教室のみならず、厳選された現場の見学及びダイアログセッションで、日本と新潟、両方について学ぶ機会を得ることができる。教員やスタッフによる効果的な講義と活動で、日本及び新潟大学の教育に親しむことを目標とする。本授業は、創造的かつ互いに刺激し合う学習を促進するため、新潟大学の日本人学生も登録できる。短期間での集中的な本授業は、留学生の日本での勉学の貴重な入口となり得るほか、異文化間能力を発揮し、グローバルに活躍したいと考える全学生にとって有益なものとなる。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
知 識 ・ 理 解 科 目	教 養 教 育 に 関 する 科 目	新 潟 大 学 個 性 化 科 目	P.F.ドラッカー理論とそこから 学ぶキャリアデザイン	この講義は、企業人事・研修部門でのマネジメント経験がある教育・学生支援機構キャリアセンター担当教員による全学部を対象に開講するキャリア意識形成科目である。ドラッカー学会会員、読書会新潟主宰、（株）W I T代表取締役 瀬賀孝子氏に全体コーディネートをお願いし、現役の経営者やビジネスパーソンの「ドラッカー理論に基づいた働き方・生き方」の講話を中心としたオムニバス形式でおこなう。ビジネス社会の実情を感じ取ると同時に、聴いた内容の中から自己の課題を見つけ、受講生どうしでのグループワークを通じて「主体的に考え、これからの自らの指針を定め、キャリアデザインに活かす」こともテーマにする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 教 養 教 育 に 関 する 科 目 Regionalism in the Asia-Pacific Region	The aim of this course is to analyze international relations of East Asia through the two main perspectives of regional cooperation and major power interactions. After the Cold War, East Asia which is regarded as one of the most diverse region and weak in regionalism has accelerated its regional integration process especially after the economic crisis of 1997-98. A number of regional initiatives such as ASEAN Regional Forum (ARF), Chiang Mai Initiative (CMI), ASEAN plus Three (APT), Free Trade Agreement (FTA), and East Asia Summit (EAS) symbolize the region's efforts for strengthening regional ties in the political security, economic, financial and cultural fields. On the other hand, East Asia embraces the world's three biggest economies (The combined GDP of the U.S., Japan and China accounts for near 50% of the global GDP.), the world's largest military power and the world's most populous nation. The Cold War legacies such as the Korean Peninsula issue and the Taiwan problem remind us that the perpetual peace in the region remains to be an open question. However, the current regional institutions are widely regarded too soft to deal with these hard problems. East Asia has been the engine of the global growth while its future remains uncertain. But its future will largely depend on the two major threads: multilateral regional integration and major power interactions (China-Japan-U.S. relations in particular) The course aims to analyze the dynamism of East Asia international relations by tracing the historical and undergoing development of the above mentioned two threads. 本授業は地域協力と大国の相互関係の二つを主要な観点として、東アジアの国際関係を分析することを目的とする。冷戦が終わり、最も多様性に富む地域の一つであり、リージョナリズム的色彩が薄いとされる東アジアは、1997年～98年の経済危機以降特に、地域統合のプロセスを加速させてきた。ASEAN 地域フォーラム（ARF）、チェンマイ・イニシアチブ（CMI）、ASEAN+3（APT）、自由貿易協定（FTA）、東アジア首脳会議（EAS）など数々の地域イニシアチブは、政治的安全保障、経済、金融、文化の各分野における地域のつながりを強化する同地域の取り組みの象徴である。他方、東アジアは世界三大経済大国（米国、日本、中国の3カ国を合わせたGDPが世界全体に占める割合は50%近く）、世界最大の軍事力及び世界で最も人口の多い国を擁する。朝鮮半島問題や台湾問題など冷戦の遺産が、この地域の「永遠の平和」には疑問の余地が残ることを思い起こさせる。だが、現行の地域制度は軟弱すぎて、このような難問に対処できないとの見方が強い。東アジアは世界の成長のエンジン役を果たしてきたが、その将来は不透明なままである。一方、その将来は多国間地域統合と（日米中の3カ国間関係を中心とする）大国の相互関係といった二つの主要な要素に大きく左右される。本授業は上記の二つの要素の歴史的経緯と現在の動向を辿ることで、東アジアの国際関係のダイナミズムを分析することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 教 養 教 育 に 関 する 科 目 The China-Japan-US Trilateral Relations	This course is to introduce and analyze the dynamic relations among China, Japan and the United States. The China-Japan-US trilateral relations are increasingly to have a profound impactors' relationship is far from solid. To some extent, without understanding the trilateral dynamics of the China-Japan-US relations, you might misread the global trend of the future world. 本授業は日米中3カ国間のダイナミックな関係を紹介及び分析することを目的とする。この3カ国間関係が及ぼす影響は益々大きくなっているが、その関係は安定からほど遠い。日米中関係の3カ国間のダイナミクスをある程度把握しなければ、今後の世界のグローバルな傾向を読み違える恐れもある。	
	アクティブラーニング A	In this course Japanese students and Foreign students work together observing, discussing, debating about and appreciate Japan, the kingdom of unique cultures. In particular, Japanese and foreign students will share opinions and assess the Japanese sub-cultures receiving high evaluation overseas. 本授業は日本人学生と留学生が共同で、独自の文化の宝庫である日本を観察し、日本について議論及びディベートをし、日本の評価をすることを目的とする。特に、海外で高い評価を受けている日本のサブカルチャーを評価し、意見を交換する。	
	アクティブラーニング B	ものづくり大国としての日本のすがたを追う。 日本は、これまで何を「売り」にしてきたのか。 日本は、このさき何を「売り」にしていけるのか。 これらについて、おもに映像を通して学び、グループ活動を通して、技術立国日本についてさらに深く知る。	
	オックスフォード大学英語研修	本研修は、スピーキングを中心とした英語によるコミュニケーション能力を育成するもので、世界的な名門大学であるオックスフォード大学のハートフォード・カレッジとの連携により開催される。英語教育の経験豊かな講師から実践的な英語と英国の文化・社会について学び、プレゼンテーション・スキルの向上を目指す。日常生活や課外活動（オックスフォード近郊での実地研修等）に関しては、オックスフォード大学の現役学生が、参加者を全面的にサポートする。 研修先のハートフォード・カレッジは、オックスフォード大学を構成する38のカレッジのうち、1282年に創立された最古のカレッジのひとつである。歴史的なオックスフォード市の中心に位置し、「ため息の橋」とも呼ばれる美しい渡り廊下でも知られている。	
	カナダ・サマーセミナー I	新潟大学の協定校であるアルバータ大学で、40年以上の実績を持つエクステンション学部が実施する English Language & Cultural Seminar を受講する、4週間のコースである。英語研修が中心となるが、カナダの社会や文化について学ぶ内容も含まれている。また、州議会等への見学活動も用意されている。	
	カナダ・サマーセミナー II	新潟大学の協定校であるアルバータ大学で、40年以上の実績を持つエクステンション学部が実施する English Language & Cultural Seminar を受講する、4週間のコースである。英語研修が中心となるが、カナダの社会や文化について学ぶ内容も含まれている。また、州議会等への見学活動も用意されている。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 教 養 教 育 関 連 科 目 キャリアを共に考える-自己理解・他者理解	この講義は、教育・学生支援機構キャリアセンターが全学部を対象に開講するキャリア意識形成科目である。キャリアとは、単に仕事や職務のことではなく、一生を通して仕事や社会といかに向き合い、いかにかわっていくのかという仕事や人生の生き方すべてを包括する。大学は社会に出る前のひとつの大きな節目であるが、「大学生活に何をしたいかわからない」「やりたいことが見つからない」「将来にはっきりとした希望が持てない」といった初年次学生を対象とし、キャリア意識形成について学生が自ら「気づき」を得ることができるようにグループワークを交えながら、自分らしいキャリアとは何かを一緒に考えていく。	
	キャリア意識形成と自己成長	この講義は、教育・学生支援機構キャリアセンターが全学部を対象に開講するキャリア意識形成科目である。各学部の枠を越えた全学的な視点で低学年次からのキャリア意識の醸成を図り、大学生活のモチベーションを高め、目標設定を明確にする。本学OB・OGを中心としたオムニバス形式でおこなうが、話を一方的に聞くだけでなく、聞いた内容の中から課題を絞り、受講生どうしでのグループワークも組み入れ、「主体的に考える」こともテーマにする。また、他のキャリア関連科目とは違った特色として、キャリアセンターからの情報提供などを組み合わせて講義を行う。	
	キャリア形成と法制度	本科目は、厚生労働省新潟労働局による寄付講義である。 働き方にかかわる法制度、社会保険制度及び労働行政の実際等について、オムニバス形式の講義を受講することにより、学習する。 これらの学習を通して、学生生活のアルバイトにおけるトラブルを防止し、またトラブルが発生した際の対処方法などを習得する。また、卒業後のキャリア形成や働き方を考えるための基礎的な知識を習得するとともに、自身の進路選択の参考とできるようにする。	
	グローバルコミュニケーションA	ボーダーレス社会、グローバル社会、国際化社会で生きるこれからの人間にとって必要とされる、基礎的なコミュニケーション力を養成することがねらいである。基礎的なコミュニケーション力には、発信・受信双方向の力が求められる。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	教養・教育に関する科目	新	シンガポール・スプリングセミナー	アジアは急速に新興している。ASEAN プラス中国、日本、韓国の名目 GDP は世界全体に占める比率は 21.1% となり、IMF の見通しで 2010 年はユーロ圏を初めて上回り、2014 年は米国の経済規模に接近する。尚、東アジアの域内貿易率が 5 割を超え、日本の輸出の半分以上がアジアへの輸出である。また、APEC、ASEAN+3、東アジアサミットを代表とする地域協力枠組みがこの新興の波を後押ししている。このダイナミックな地域を知らないとい今後の世界の潮流を見失うと言っても過言ではないだろう。この科目は発展するアジアの先端に立ち、東洋と西洋の結合点にいるシンガポールと ASEAN に焦点を当て、英語力を磨きながら新しいアジアそしてこれからの世界の動きを探ることを目的とする。プログラムは以下の内容で構成される。(1) シンガポール国立大学 Extension での集中英語トレーニング；(2) 多国籍企業への訪問、第一線の国際経営者との交流を通じシンガポール・ASEAN、アジア地域の経済連携状況の理解、(3) 国際機関、研究所、文化施設への見学・訪問、(4) 英語でシンガポールの大学生と交流。	
			シンガポール・スプリングセミナー準備講座	「シンガポール・スプリングセミナー準備講座」はシンガポール国立大学と連携して行うシンガポールでの集中講義「シンガポール・スプリングセミナー」科目をいっそう実りの多いものとするための準備講座である。担当教員は英語と日本語でバイリンガルの環境でシンガポール、東南アジア、そして ASEAN 歴史、現状、国際関係などの基礎的な知識を提供し、適宜にテーマごとにグループ・ディスカッションを英語と日本語でさせている。さらに、実際の短期体験留学の交流場面を模擬する。	
			トキをシンボルとした自然再生	佐渡市で取り組まれているトキの野生復帰を軸とした一連の自然再生事例の学習から、自然再生には分野横断的アプローチが重要であることを、新潟大学研究推進機構、朱鷺・自然再生学研究センターの研究活動を含めて、解説する。 (オムニバス方式／全 15 回) (58 永田 尚志／4 回) オリエンテーション (トキから学ぶ自然共生科学)、トキとは一絶滅から復活へ、トキを遺伝的に探る、トキの目で環境を観る (55 関島 恒夫／1 回) 自然再生をめざす佐渡市の取組 (252 本間 航介／1 回) トキも生息できる環境を創出する (59 杉山 稔恵／1 回) 鳥は恐竜か (60 箕口 秀夫／3 回) トキをシンボルとした自然再生一これから、トキの野生復帰、自然再生を支える研究・取組 (54 中田 誠／1 回) 貴重な生き物の宝庫を探る (258 満尾 世志人／1 回) トキと水田・水辺環境 (259 岸本 圭子／1 回) トキと生物間相互作用 (260 豊田 光世／2 回) トキをめぐる価値判断と意思決定、トキを文化的に科学する	オムニバス方式
			パフォーマンスの外国語	英語の正確な発音を英語の歌のパフォーマンスを通して学ぶ。英語の正確な発音や語句のニュアンスを学び、感じることで、英語の歌を歌うことを通じて、自分らしいパフォーマンスの可能性を広げ、深めて楽しむ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目 新 潟 大 学 に 個 性 化 科 目	ピアサポート入門	ピアサポートとはピア（同輩、仲間）の持っている援助的性質を活用し、自然な支援プロセスを促進するシステムのことである。仲間同士で互いに助け合う援助について、体験学習や実習を通して学ぶ。	共同
	フィリピン ALLC 英語研修	この研修では、フィリピン・ケソン市にある私学の名門、アテネオ大学の語学センター(Ateneo Language Learning Center)で集中的に英語の4技能向上を図る。本研修は、初めて海外で英語を使って生活してみたい方や、比較的安価で充実した授業を受けたい方のために設けられている。フィリピンの公用語は英語であるため、これまで日本で学んできた英語の実践力を試すことに加え、授業では正確な英語の運用能力を伸ばすことが可能である。また、日常生活や課外での体験を通してフィリピンの社会や文化、歴史などを学ぶだけでなく、世界やアジアからみた日本についても見つめなおす良い機会となるだろう。語学センターでは、様々な国籍や文化的背景をもった人々と接することになるので、多様な価値観を知り、グローバルな視野が身につくだろう。 ケソン市ならびに大学周辺の地域は治安もよく、キャンパス近くにある宿舎の環境もとても快適である。宿舎周辺も暮らしやすい環境となっており、安心して英語の勉強に集中できる。	
	フランス言語文化海外研修	新潟大学と学生交換交流協定のあるナント大学附属フランス語学院（I-FLE）のフランス言語文化講座に編入して、フランス語レベルアップを目指す。またフランス人家庭を訪問して、言葉だけでなく文化や生活習慣も体験的に学ぶ。	
	ユーザのための数学Ⅱ	高度に情報化した現代社会においては数学的な素養が一層必要とされてきている一方で、「数学離れ」と呼ばれる、中学・高等学校段階における数学の学びからの逃避ともいえるべき現象が指摘されてから久しい。そこで、この授業では、問題分析、哲学、データ解析、数学的モデル化といった様々な観点からの講義や演習を通して、自身の数学に対する見方・考え方を今一度見直す機会を設けることで、数学の学習者から数学のユーザへのスタンスの転換を図ることを目指す。問題（事象）の数学的な属性を分析して、本質や構造を理解する力を養うものである。	
	リーダーシップ演習Ⅰ	本授業では、学生たちが学生の視点からダブルホームの運営にかかわること、そしてダブルホーム内の様々なプロジェクトを企画・運営することをとおしてリーダーシップを発揮できるようになることを目指す。リーダーシップ発揮に必要な知識やスキルを学び、多様な学年・学部、学生たちによるチームで取り組む実践の中で「企画力」「マネジメント能力」「ファシリテーション力」を身につけていく。	共同
	リーダーシップ演習Ⅱ	本授業では、学生たちが学生の視点からダブルホームの運営にかかわること、そしてダブルホーム内の様々なプロジェクトを企画・運営することをとおしてリーダーシップを発揮できるようになることを目指す。リーダーシップ発揮に必要な知識やスキルを学び、多様な学年・学部、学生たちによるチームで取り組む実践の中で「企画力」「マネジメント能力」「ファシリテーション力」を身につけていく。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解・科目	新 潟 大 学 個 性 化 科 目 リーダーシップ演習Ⅲ	本授業では、学生たちが学生の視点からダブルホームの運営にかかわること、そしてダブルホーム内の様々なプロジェクトを企画・運営することをとおしてリーダーシップを発揮できるようになることを目指す。リーダーシップ発揮に必要な知識やスキルを学び、多様な学年・学部の学生たちによるチームで取り組む実践の中で「企画力」「マネジメント能力」「ファシリテーション力」を身につけていく。	共同
	異文化と技術	学生が外国の大学に滞在し、その国の言語、文化、科学、技術、生活等を特に自然科学系の研究室や工場の見学を通じて学ぶと共に、現地の学生との交流を体験することを目的としている。日本人学生がマグデブルグ大学でドイツの科学技術について学ぶと共に、ドイツ人学生と交流しながらドイツの文化や科学技術を外国人の視点から見ることによって新たな観点を獲得する。	共同
	開発・環境と平和	授業では、現代世界の平和に関する諸問題について、その背景にある「開発」という概念に焦点を当てて考える。 数々のテロリズム、イラク戦争や北朝鮮問題、中国との領有権問題などはなぜ起こるのだろうか。この授業では開発という視点から、その疑問を解くことを試みる。開発によって世界を豊かにする、それを可能だとする開発主義は、近代世界システムという不平等な世界の構造とともに、多くの問題の主因である。平和学から見て、どのような矛盾がそこにあるのだろうか。授業では平和学の概念や分析方法を紹介しながら問題の構造を読み解いていく。	
	学生がデザインする大学の未来	この科目では、大学を身近な素材として取り上げ「シナリオ・プランニング」について経験的に学ぶ。シナリオ・プランニングとは、多様な未来をシナリオ（物語）として描き、変化する社会の中で個人や組織が主体的に目標を決めて進む方法であり、その基礎を身につける。授業では、学生が大学の「10年後の未来像」を議論しながら自由に描き、現在から将来への対応の在り方を考えていく。授業は以下の3ステップで構成する。 ステップ1:グローバル化や知識社会、第4次産業革命など、激しい社会変動との関わりから今日の大学に求められている課題について政府レポート等を踏まえて理解する。 ステップ2:ステップ1を踏まえ2030年の環境変化と大学のあり方に強く影響する要因を明らかにし、特に地方国立大学を待ち受ける状況と課題についての複数の「未来シナリオ」を策定する。 ステップ3:複数の未来シナリオに対応した、地方国立大学の未来ビジョン・実行策について自由に構想し、大学経営者への提言を想定し発表する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目 科目	韓国サマースクールⅠ	大学間交流協定校である仁荷（イナ）大学校、漢陽（ハニャン）大学校（大韓民国では4年制大学を「大学校」と称する）で実施される韓国語文化研修（サマースクール）に参加するものがある。イナ大学のプログラムは、日本のみならず、中国、マレーシア、イタリア、フランスなど全世界の交流協定校学生向けに開設されており、世界各国の学生たちと同じ教室で一緒に学ぶ体験ができる。共通言語は英語と韓国語なので、韓国語を学びながら英語もブラッシュアップも可能である。ハニャン大学のプログラムは日本の交流協定校向けで、日本国内の他大学の学生と同じクラスで学ぶ。グループごとに1人、ハニャン大学の学生がチューターになる。	
	韓国サマースクールⅡ	大学間交流協定校である仁荷（イナ）大学校、漢陽（ハニャン）大学校（大韓民国では4年制大学を「大学校」と称する）で実施される韓国語文化研修（サマースクール）に参加する。イナ大学のプログラムは、日本のみならず、中国、マレーシア、イタリア、フランスなど全世界の交流協定校学生向けに開設されており、世界各国の学生たちと同じ教室で一緒に学ぶ体験ができる。共通言語は英語と韓国語なので、韓国語を学びながら英語もブラッシュアップが可能。ハニャン大学のプログラムは日本の交流協定校向けで、日本国内の他大学の学生と同じクラスで学ぶ。グループごとに1人、ハニャン大学の学生がチューターになる。	
	韓国サマースクールⅢ	大学間交流協定校である仁荷（イナ）大学校、漢陽（ハニャン）大学校（大韓民国では4年制大学を「大学校」と称する）で実施される韓国語文化研修（サマースクール）に参加する。イナ大学のプログラムは、日本のみならず、中国、マレーシア、イタリア、フランスなど全世界の交流協定校学生向けに開設されており、世界各国の学生たちと同じ教室で一緒に学ぶ体験ができる。共通言語は英語と韓国語なので、韓国語を学びながら英語もブラッシュアップが可能。ハニャン大学のプログラムは日本の交流協定校向けで、日本国内の他大学の学生と同じクラスで学ぶ。グループごとに1人、ハニャン大学の学生がチューターになる。	
	研究者の仕事と生活	本科目では、研究者の仕事と生活の現状に触れ、研究職キャリアの形成に向けて、学生の進路選択の一助となることをねらいとする。研究職キャリアの形成過程の特徴を学ぶと同等に、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動について、自らが希望するバランスで展開する「ワーク・ライフ・バランス」の実現についての知識を身に付け、ディスカッションを通じて多様な考えを学ぶ機会とする。 なお、本科目は研究者のキャリア形成の多様化が進む現状を踏まえた長期的なキャリアデザインの視点を提供するものであり、性別に依らず、研究者を志す学生の受講を歓迎する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	社会とキャリア選択A	この講義は、企業人事・研修部門でのマネジメント経験がある教育・学生支援機構キャリアセンター担当教員による全学部を対象に開講するキャリア意識形成科目である。主に新潟県内企業で活躍する若手社会人と学生がチームを組んで、プロジェクトや課題に取り組み、仕事を進めていく上で、起こりうる様々なプロセスについて実践を通して疑似体験をする。 企業人による講義、さらには若手企業人とともにプロジェクトや課題に対するグループワーク・発表などで構成する。企業が今具体的に抱える課題や関心ごとに対する調査～ディスカッション～提案を行うことで、大きな社会・業界の変化と展望、またそれに伴って求められる働き方・キャリア形成について考えていく。講義はグループでの活動を基本として企業からの課題に取り組み、発表では企業の上司の方からもフィードバックをいただく。合わせて、ジョブ・カードを活用し、経験の棚卸しや今後のキャリアビジョンを明確にしていく。希望者には個別またはグループ（チーム）でキャリアカウンセリングを行う。	共同
	社会とキャリア選択B	この講義は、企業人事・研修部門でのマネジメント経験がある教育・学生支援機構キャリアセンター担当教員による全学部を対象に開講するキャリア意識形成科目である。大学生活の中盤を迎える2年生以上を対象に、大学生活の振り返りを行い、今後のキャリアプランについて考える講義である。ジョブ・カードを活用し、各自が具体的なキャリアプランを作成し、それを実践するための理論を学ぶ。希望者には個別またはグループ（チーム）でキャリアカウンセリングを行う。 また、今後必要とされる自己理解・他者理解や情報分析、情報収集力、社会・企業で求められるコミュニケーション力がどのようなものを学び、より実践的な活用を図る。特にキャリアを考える情報収集としては、社会人の方の話を聞く機会を提供し、社会で求められるコミュニケーション力や自己表現力について習得を目指す。	共同
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	佐渡におけるトキ野生復帰の取り組みを地域で活動、活躍している方々と共に体験、理解することで、人とトキの共生を軸にした新たな佐渡の未来像や里地里山の再生、地域社会の活性化をとおした自然再生の可能性を考える。佐渡におけるトキ野生復帰の取り組みを理解し、里地里山生態系の保全、地域社会の活性化をとおした自然再生の手続きと具体的な活動を説明することができることを目指す。現地実習として「トキ観察実習」、「里山の生物多様性実習」に参加する。	共同
	障がい学生支援法	本学学生が障がいへの関心を深め、障がいのある学生の支援に関する基礎的な知識と技術を習得することを目的とする。主に、聴覚障がい学生に対する情報保障について手書ノートテイクとパソコンノートテイクの体験、実習を行う。また、視覚障がい学生への支援として、教科書等の電子データ化について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新潟の企業の魅力を探る	新潟県は全国でワースト2の人口減少地域である。人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するためには、企業の活力が不可欠である。 本講義では新潟に拠点を持ちながら、世界に通用する7つの企業から講師を迎え、各企業の特徴や成功要因、課題について講義を行う。これにより、企業の経営者や現場で働く方の生の声をもとに、新潟県内の活力ある企業を知り、新潟地域の創生について深く考えていく。	
	新潟地域の魅力を探る	新潟県及び県内の多くの市町村では、「人口減少、特に若年層（就労）人口の減少」が問題となっている。しかしながら、このような問題の本当の原因は何かということを深く議論する機会は多くない。 そのため本講義では、この問題に直面し、様々な工夫と努力を行っている新潟県内の特徴ある6つの自治体から講師を迎え実例を聞く。その中で、それぞれの自治体の魅力のみならず、各自治体がどのような課題を抱え、どのように解決の糸口を見つけ、課題改善につなげたのかを直接講義していただく。 また、本講義では自治体の講義と並行して、自分たちの価値観をベースに各自治体抱える真の課題を明らかにし、それに対して新しいコンセプトを自分ごととして提案するためのグループワークを実施する。自治体の講義を聞くだけでなく、自分なりの見解を持ち、意見交換をしながら、より多くの視点を共有し視野を広げていくことを重視する授業科目である。	
	新聞を体験する－新潟日報との連携授業－	本科目は、新潟日報社の全面的な協力を受け、同社との連携により開講される授業である。新潟日報のベテラン記者および元記者の指導のもと、政治、社会、スポーツ、写真、整理などのさまざまな分野の記者や、販売、広告、事業などの報道以外の各部門の担当者も含めて各回のゲスト講師として招き、現在の新聞メディアのあり方について実践的に学んでいく。	共同
	森・里・海フィールド実習	豊かな自然に恵まれた佐渡島は、森林、里地・里山、そして海岸が“ぎゅっ”と凝縮された範囲内に立地している。そのため、国内でも数少ないスギの原生林、トキの野生復帰の現場として注目されている里地・里山の水田・ビオトープ、そして寒流・暖流が混じり合う海洋と、それぞれが魅力的な生態系であるとともに、各生態系のつながりを理解するのに最適なフィールドとなっている。この特性を活かし、各生態系の物理的環境、生物群集の特徴を理解する。また、佐渡島独自の、自然だけでなく、文化・経済活動などの人間活動にも注目しながら、各生態系間のつながりの重要性を考える。現地実習として「森里海をつなぐ野外生態学実習」に参加する。	共同
	西洋カリグラフィーA	西洋においても、手書きの文字は単に実用的に発達しただけではなく、美的観点からも様々な工夫を経て変遷してきた。ヨーロッパの古代から中世において発達した写本文字を、特殊ペンを使って習得する。ヨーロッパの過去の文化的活動を、抽象的知識によってではなく、実技を通して習得し理解する。それぞれの時代の特徴状況の下で発達した各書体について、歴史的文化的背景も含めて理解する。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目	税のしくみから社会を考える	本講義は、学校教育における租税教育について学習するものであり、具体的には、租税教育の授業実践に必要な力を習得する。 1. 税の歴史 2. 租税に関する意義や役割、機能、仕組み等の租税制度 3. 納税者の権利及び義務 4. 申告納税制度の理念 5. 租税教育の指導案と模擬授業など なお、本講義は、関東信越税理士会新潟県支部の協力を得て、実務家(税理士)によるオムニバス形式の講義である。 (オムニバス方式／全 15 回) (64 鈴木 賢治／1 回) ガイダンス (講義の趣旨) ・「「教育学部で租税教育を実施する意義・税理士制度について」 (603 渡邊 信子／4 回)「租税法を学ぶ意義」、税金とは、租税法律主義、まとめ (604 佐藤 秀和／2 回) 税の役割及び租税教育の進め方を考える、税の種類 (605 饒村 悠子／1 回) 税の歴史 日本における歴史、世界の歴史、税の始まり、近代・現代の税制 (606 上田 英明／1 回) 税の公平について・・・租税法律主義と租税公平主義、武富士事件などを取り上げる (475 中村 竹志／2 回) 財政の現状及び税金の役割 少子高齢化による影響社会保障費の大幅な増加、若者の負担増大、財政赤字の原因と解決、日本の税制及び社会保障の視点から日本の未来について考える (607 関根 龍一／2 回)「税って何かな？」(参加型)を題材に、模擬授業を各グループで再構築し、その中から 5 グループから発表、グループで討議する (608 高野 裕／2 回) 国際課税を中心に・・・なぜ Amazon は日本で法人税を払わずにすむのか？租税のこれから～ピケティ&パナマ文書	オムニバス方式
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA I	オーストラリア・クイーンズランド州の州都ブリズベンにある、4 週間一般家庭にホームステイしながら、クイーンズランド工科大学(QUT)の International College で General English Course を受講する。帰国後は出発時に課した課題についてのレポート提出が義務付けられている。なおクイーンズランド工科大学(QUT)は、現在は総合大学で、工科大を前身とするためにその名が残されている。帰国後に、さらに長期で、より高いレベルの留学を目指す学生の育成を狙いとしている。それは今後国際化がいつそう進むであろう近未来の社会において、「主体性・自主性の大切さ」 「強く自己主張しながら、同時に他者の主張を聞いて妥協点を見出すことの重要性」を知り、より良い社会を築くリーダーとなり得る人材をを育成することを目指す。		

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 多文化共生社会体験 in AUSTRALIA II	オーストラリア・クイーンズランド州の州都ブリズベンにある、4週間一般家庭にホームステイしながら、クイーンズランド工科大学(QUT)の International College で General English Course を受講する。帰国後は出発時に課した課題についてのレポート提出が義務付けられている。なおクイーンズランド工科大学(QUT)は、現在は総合大学で、工科大を前身とするためにその名が残されている。帰国後に、さらに長期で、より高いレベルの留学を目指す学生の育成を狙いとしている。それは今後国際化がいつそう進むであろう近未来の社会において、「主体性・自主性の大切さ」「強く自己主張しながら、同時に他者の主張を聞いて妥協点を見出すことの重要性」を知り、より良い社会を築くリーダーとなり得る人材を育成することを目指す。	
	台湾スプリングセミナー I	この科目は、春休みの期間を利用して、国際交流協定校である台湾の複数の大学の中から一校を選んで、交流協定校学生向けに開催されている、中国語・台湾文化体験研修プログラムに参加するもの。このプログラムでは、現地の台湾学生との交流も充実していて、しっかりと中国語を学ぶことができる。中国語初心者から中級者向けのプログラムである。	共同
	台湾スプリングセミナー II	この科目は、春休みの期間を利用して、国際交流協定校である台湾の複数の大学の中から一校を選んで、交流協定校学生向けに開催されている、中国語・台湾文化体験研修プログラムに参加するもの。このプログラムでは、現地の台湾学生との交流も充実していて、しっかりと中国語を学ぶことができる。中国語初心者から中級者向けのプログラムである。	共同
	大学生のための役に立つ育児学	大学生である受講生が出産・育児、自身のキャリアプランやワーク・ライフ・バランスへの示唆を得る有用な内容を、医歯学系、人文社会・教育科学系および保育の専門者を講師として教授する。子育てをめぐる専門的立場から、地域における子育て支援やアプローチが、仕事と生活、多様な生き方の選択、女性および母子の健康、親と子の心理発達、幼児・学童の健康とケア、人間学との関わりを学習する。 (オムニバス方式／全8回) (267 関島香代子／2回) 人生設計とキャリア形成：いつ何人子どもをもつか、もたないかの自己決定について解説する。 (268 中島 伸子／2回) 現代の育児環境と子どもの心の発達について解説する。 (355 田中美央／2回) 乳幼児・学童児の成長と保健について解説する。 (610 林 はるみ／1回) 男女共同参画社会における子育てと育児支援について解説する。 (611 小平 勝志／1回) 育児支援をめぐる社会的な課題について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新潟大学個性化科目 地理情報システム（GIS）概論・演習	GIS（地理情報システム）の応用範囲は、災害、医療、農業、経済、資源、資産マネジメントにとどまらず、最近では自治体で多くの利用がみられる。本講義は、将来GISを身につけたいと考えている学生、GISに関連する仕事に就きたい学生、および副専攻GISリテラシーの認定を受けようとする学生向けの入門コースである。 （オムニバス方式／全15回） （241 小浦方 格／10回）統計データのダウンロード方法とその利用を解説する。ベクタからラスターへ距離の計算、空間内挿を解説する。 （269 奈良間千之／3回）エクセルを用いた統計解析とGISによる表示方法を解説する。 （247 村上 拓彦／2回）エクセルを用いた統計解析とGISによる表示方法を解説する。	オムニバス方式
	地理情報システム（GIS）概論・応用演習	1学期のGIS概論・演習で学んだGISの基本的な使い方・ベクタ（図形）データ解析の復習と、ラスター（画像）データ解析に取り組む。本講義は、将来GISを身につけたいと考えている学生、GISに関連する仕事に就きたい学生、および副専攻GISリテラシーの認定を受けようとする学生向けの応用コースである。 （オムニバス方式／全15回） （269 奈良間千之／10回）新潟市の避難所分布の再評価を担当する。新潟市の避難所分布の再評価、GISを活用した圃場の設計を担当する。 （250 吉川 夏樹／3回）GISを活用した圃場の設計を担当する。 （612 長谷川 普一／2回）GISを活用した圃場の設計を担当する。	オムニバス方式
	中国語発音特講演習	中国語の発音は日本語に比べて種類が多く、複雑なことから、発音がマスターできれば、基礎部分の山は越えたという人もいるほどである。子音は21種類、母音も二重母音、三重母音まであり、更に加えてn, ngで終わるものもある。これにそれぞれ声調が乗るため、日本人にとっては、初めてづくしの発音を、耳を頼りに学んでいくことになる。導入では、日本語の発音の仕方との違いという観点から、分かりやすくアプローチし、その後、個々の発音の舌の位置、口の形、空気の送り方まで、細部に渡って発音の問題点を教員が一つ一つ把握し、正確な発音を身に付けられるよう指導するものである。	
	中国語文法特講A	現行の初習外国語の中国語の初級の教科書は、発音、会話、文法で構成されている。基本的に会話のスキットによって配列されているため、文法については、会話文に伴い例文が数行挙がるだけで、系統的な解説や踏み込んだ説明はあまり深く行われていないものが多い。時間的な制約によるところが大きい、この繰り返しでは例え2年間中国語を学んだとしても、中国語文法を基礎から系統的に学ぶことは難しいのが現状である。 この講義では、品詞や個々の文成分の役割など、根本的にすべての基本となる中国語の基礎文法について、一から段階的に理論的に学ぶことで、正確な文表現ができるように導くものである。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 中国語文法特講 B	現行の初習外国語の中国語の初級の教科書は、発音、会話、文法で構成されている。基本的に会話のスキットによって配列されているため、文法については、会話文に伴い例文が数行挙がるだけで、系統的な解説や踏み込んだ説明はあまり深く行われていないものが多い。時間的な制約によるところが大きいが、この繰り返しでは例え2年間中国語を学んだとしても、中国語文法を基礎から系統的に学ぶことは難しいのが現状である。 この講義では、品詞や個々の文成分の役割など、根本的にすべての基本となる中国語の基礎文法について、一から段階的に理論的に学ぶことで、正確な文表現ができるように導くものである。	
	中国留学準備講座 サマーセミナー総合編	本格的な中国入門講義として位置づけ、中国への留学を考えている者、特に清華大学での北京サマーセミナー参加予定者を対象として、現地での滞在期間をいっそう実りのあるものとするための予備知識を提供する。本科目では、中国に滞在してさまざまな機関を訪問したり、先生・学生を含む多くの中国人と接触し相互理解を深めるにあたって最低限必要な知識と考え方を学び、ダイレクトメソッドによる中国語の講義に備えて、中国語についての最低限の特徴・性格を理解することを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （270 干野 真一／10回）初回に講義の進め方についてガイダンスを行う。その後、中国の概況、政治および歴史の基礎知識等について、解説する。 （189 真水 康樹／5回）北京の文化、中国語の基礎知識等について解説する。	オムニバス方式
	中国留学準備講座中級編 A	様々な文体のリスニング力や読解力を高めつつ、比較的難易度の高い文法事項の理解を促すことで、高度な中国語運用能力を養うことを目標としている。 参加者の学習レベルにも拠るが、凡そ中国語検定試験2級（または全体のレベルによっては中国語検定試験準1級）合格を目指す者を対象としている。 リスニングや読解の練習を通して、聞く、読むの両面から、高度な中国語の理解力を高めることを目標としている。基本的な文法を習得した後は、それらを応用しより複雑な文章を聞き取り、読み取る学力が求められる。 講義では、リスニング、読解、文法解説をひとつのパターンとして、様々な高度な中国語の文章について、繰り返しリスニングと読解、文法解説を行っていく予定である。このような訓練と知識の習得によって、複雑な中国語表現を身に付け、最終的には高度で実践的なコミュニケーション能力のスキルアップを図ることを目的として開講する。また、中国語独特の言い回しや慣用表現などについても導入する予定である。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 中国留学準備講座中級編 B	様々な文体のリスニング力や読解力を高めつつ、比較的難易度の高い文法事項の理解を促すことで、高度な中国語運用能力を養うことを目標としている。参加者の学習レベルにも拠るが、凡そ中国語検定試験2級（または全体のレベルによっては中国語検定試験準1級）合格を目指す者を対象としている。リスニングや読解の練習を通して、聞く、読むの両面から、高度な中国語の理解力を高めることを目標としている。基本的な文法を習得した後は、それらを応用しより複雑な文章を聞き取り、読み取る学力が求められる。 講義では、リスニング、読解、文法解説をひとつのパターンとして、様々な高度な中国語の文章について、繰り返しリスニングと読解、文法解説を行っていく予定である。このような訓練と知識の習得によって、複雑な中国語表現を身に付け、最終的には高度で実践的なコミュニケーション能力のスキルアップを図ることを目的として開講する。また、中国語独特の言い回しや慣用表現などについても導入する予定である。	
	中東イスラーム言語文化入門	宗教としてのイスラームの基礎的事項（スンナ派、シーア派それぞれの信仰の概要と両宗派の違い等）や、中東地域の言語・民族等の基礎を学んだ後、現代の中東イスラーム世界が抱える諸問題と、その背景となる歴史と文化を考察する。	
	日本と外国人	日本と日本の人や文化について、知っていることを増やすのが第一の目的である。また、留学生には日本人学生から質問が、日本人学生には留学生から質問がある。それぞれの質問に答える形で、自分の文化についての理解を深める。	
	日本手話A	本講義は聴覚障害者のくらし、社会的背景、文化、ろうあ運動の歴史を知り、聴覚障害者について理解するものである。また、この講座の進め方は、相手の手話を視ること、相手と表現し合うことが中心である。 （オムニバス方式／全15回） （613 長谷川 達也／2回）ろう者と手話について、並びに手話の基礎知識（ろう者の手話と言語的特徴）を解説する。 （614 小池 洋美／7回）身体での伝え合いと手話等の実技指導を担当する。聴覚障害の生理等を解説する。 （270 干野 真一／6回）趣味、味の表現、四季、会話等の実技を担当する。	オムニバス方式
	日本手話B	本講義は日本手話Aに引き続き、聴覚障害者のくらし、社会的背景、文化、ろうあ運動の歴史を知り、聴覚障害者について理解するものである。また、この講座の進め方は、相手の手話を視ること、相手と表現し合うことが中心である。 （オムニバス方式／全15回） （613 長谷川 達也／2回）「生命のことづけ（予告）、NHKろうを生きる」を解説する。 （614 小池 洋美／5回）会話の基礎演習の実技指導を担当する。 （270 干野 真一／8回）ろう教育の現状と課題（ろう教育と手話との関わりを中心に）を解説する。手話スピーチの練習等の実技を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 潟 大 学 教 養 教 育 に 関 する 科 目 日本文化入門1	This series of lectures is to be considered as a further introduction to Japanese culture. Emphasis will be laid on Japanese art and subculture. International students as well as Japanese students are welcome. （オムニバス方式／全15回） （67 高橋 秀樹／2回）Emergence and development of kana art in Japanese calligraphy （479 佐々木 充／4回）Two poets: Saigyō(1118-1190) and Bashō (1644-1694) Shock of the West to Japan: The Book of Tea by Tenshin Okakura (1863 - 1913) （271 宮崎 裕助／2回）Independent developments of Japanese philosophy from Western influence: Shuzo Kuki (1888 - 1941) （317 太田 紘史／2回）Ethical and psychological questions on Japanese morality （240 土橋 善仁／1回）Japanese grammar in comparison with English （272 江畑 冬生／2回）Languages in and around Japan: An introduction to linguistic typology （7 石田 美紀／2回）The voice and the visual of characters in the 1990s anime 本授業は日本文化のさらに詳しい紹介と位置づけられ、日本の美術とサブカルチャーに重点を置く。対象は、留学生と日本人学生の両方である。（オムニバス形式・全16回） （67 高橋 秀樹／2回）かな書道の出現及び発展 （479 佐々木 充／4回）二人の俳人：西行（1118年～1190年）と芭蕉（1644年～1694年） 西洋が受けた日本の衝撃：『茶の本』（岡倉天心著） （271 宮崎 裕助／2回）西洋の影響を受けない、日本の哲学の独自の発展：九鬼 周造（1888年～1941年） （317 太田 紘史／2回）日本人の道徳観に対する倫理的・心理学的問題 （240 土橋 善仁／1回）英語と比較しての日本語の文法 （272 江畑 冬生／2回）日本とその周辺の言語：言語類型論入門 （7 石田 美紀／2回）1990年代のアニメのキャラクターの声とビジュアル	オムニバス方式
	日本文化入門2	この授業のねらいは、一つは、留学生に日本語で授業を受けるためのスキルを身につけてもらうことである。留学生のためにやさしい日本語で日本文化を紹介する。扱うテーマは庭園、少女文化、考現学、剣劇、着物などである。 （オムニバス方式／全15回） （7 石田 美紀／3回）日本の少女文化について （273 Anja Hopf／3回）今和次郎の考現学について （432 羽鳥 隆英／3回）日本の剣劇について （67 高橋 秀樹／6回）着物について、庭園について	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
知識・理解科目	教養教育に個性化する科目	表現プロジェクト演習 F	生活する環境が、いかにデザインされているか考察を深め、理解するもの。大学で学んだ知識、知恵、経験など創造性を通じ社会に還元、貢献する。「きづく力」（課題を探究する中で、自分の役割とまわりの人たちの役割に気づき、協同で成果を築く能力）と、「つなぐ力」（協同力、対話能力）を涵養し、成果を社会に発信することができることを目指す。	共同
		表現プロジェクト演習 G	マインドマップ®を使って理解力・整理力を高める。うまく整理されると記憶力が向上してくる。アイデアとは「既知の要素」の「新しい組合せ」とジェームス・W・ヤングは言っている。既知の要素（理解力・整理力＋記憶力）で基礎をしっかりと造りながら、発想力を高めている講義内容である。これはイギリスのトニー・ブザン氏によって開発された思考方法である。脳は無限大の可能性を秘めているが、実際に使われている部分はわずかである。脳の様々な部分を使って創造力を高める方法を習得して実践する講座である。 「きづく力」（課題を探究する中で、自分の役割とまわりの人たちの役割に気づき、協同で成果を築く能力）と、「つなぐ力」（協同力、対話能力）を涵養し、成果を社会に発信できることを目指す。	共同
		表現プロジェクト演習 H	映像製作における基礎的な知識を身につけ、グループまたは個人で映画作品を製作する。「きづく力」（課題を探究する中で、自分の役割とまわりの人たちの役割に気づき、協同で成果を築く能力）と、「つなぐ力」（協同力、対話能力）を涵養し、成果を社会に発信すること並びに映像作品を企画し製作できる。他者が製作した映像作品に対し、自らの言葉で講評することができることを到達目標とする。受講にあたっては、作品製作とともに行うメンバー、協力していただく方々との約束を守れることが要求される。	共同
		表現プロジェクト演習 I	この授業では、地域映像アーカイブの考え方について体験的に学ぶために、新聞、写真や動画などの整理保存の方法を学び、実際に写真をデジタル化し、利活用することを学ぶ。理屈ではなく、体で覚えるがこの授業の目標である。「きづく力」（課題を探究する中で、自分の役割とまわりの人たちの役割に気づき、協同で成果を築く能力）と、「つなぐ力」（協同力、対話能力）を涵養し、成果を社会に発信できることを目指す。	
		表現プロジェクト演習 Q	祭は地域を「つなぐ」といわれるが、なぜ祭は人々や家々、地域を支え、伝える力となっているのか、その意義を地域における実践活動を通して考える。佐渡島の民俗芸能である鬼太鼓（前浜系）の伝承活動について、現地における調査・体験活動を通して、祭を支える地域の人々と共感しながら、祭や民俗芸能の持つ力を考える。また、参加者の協同の力で芸能を伝える（つなぐ）意義を、自らの体験活動を通して考える。なお、次の2つを達成目標とする。 1 現地における体験を通して、祭や民俗芸能の持つ地域をつなぐ連帯意識に対する理解を深める。 2 地域の人々や仲間の受講生と協力して活動し、「きづく力」と「つなぐ力」を身につける。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
知識・理解科目	教養教育に個性化する科目	表現プロジェクト演習T	「フォトブック制作」。身近な人のポートレートを撮影し、フォトブック（ミニ写真集）を制作する。制作の過程では、カメラや画像編集ソフトの操作を習得すると同時に、写真史や写真論についても学ぶ。「きづく力」（課題を探究する中で、自分の役割とまわりの人たちの役割に気づき、協同で成果を築く能力）と、「つなぐ力」（協同力、対話能力）を涵養し、成果を社会に発信できることを目指す。	
		表現プロジェクト演習U	本授業は日本製のアニメ作品の原画や絵コンテなど製作の現場から寄贈された貴重な資料に触れつつ、それらのアーカイビングを行う。各々の資料に関する作品の題名などの情報を調べ、まとめながら、それぞれの作品が生み出されるまでのプロセスを実証的に確認することで、モノとしての資料が語る日本アニメの現場、歴史、スタイル、美学への知識を主体的に獲得する。「きづく力」（課題を探究する中で、自分の役割とまわりの人たちの役割に気づき、協同で成果を築く能力）と、「つなぐ力」（協同力、対話能力）を涵養し、成果を社会に発信できることを目指す。	共同
		表現プロジェクト演習V	本授業は、アニメ監督山賀博之氏の指導のもとで、アイデアを出しあいながら、この世界とは異なるもうひとつの世界を創っていく。その世界の地理、気象、風土、社会、宗教、政治、経済、法律、技術、衣食住、文化、娯楽はどのようなものだろうか？法律、医療、工学、経済、農業、哲学、言語…どこからでも、新しい世界へのアプローチは可能である。皆でアイデアを磨いて、文章や絵で表現しながら、世界を創ること、その世界の設定を考案する思考実験を行う。「きづく力」（課題を探究する中で、自分の役割とまわりの人たちの役割に気づき、協同で成果を築く能力）と、「つなぐ力」（協同力、対話能力）を涵養し、成果を社会に発信できることを目指す。	共同
		平和と現代のグローバル安全保障論	国際関係学(論)の基礎を正確に学び、その発展としての安全保障論の入門を目指す。国際関係学は、英米、アジア太平洋地域の主要大学で広く学ばれており、経済学、政治学などと並び社会科学の花形の1つである。グローバルな現代社会を理解する上で必須な視点を与えるもので、国際的に活躍する人材(グローバル人材)の養成に不可欠な科目である。この講義では、海外の主要大学と同じスタンダードで国際関係学の入門を行いながら、その1分野である安全保障をより深く学習していく。高度なものも扱うが全くの初学者にもわかりやすい内容である。講義の前半では、国際関係学の根幹にある諸概念と主要なパースペクティブ（見方）を学ぶ。後半では、国際関係学の1分野である安全保障論に焦点を当て、主要な理論的枠組み、概念を学習し、安全保障の分析への視点を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 潟 大 学 教 養 学 部 関 係 科 目 平和を考える A	「平和」とは何かを学ぶ授業である。戦後 73 年の日本国内の平和と繁栄は、大日本帝国が国策として引き起こした戦争により傷つき、亡くなった他国民（民族）・自国民の膨大な犠牲の上に成立していることを知ること、現代を生きる私たちには、戦争や公害の筆舌に尽くしがたい悲惨な実態を学び、同じ過ちを二度と繰り返さないために「記憶の義務」があることを理解し、実践すること、平和について広く深く自主的に学習する動機づけを得ること、並びに講義で得た知識や考えを自分なりにまとめ、他者に対して発表・説明できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全 15 回） （274 藤石 貴代／3 回）「平和」とは何かを解説する。 （618 橋本 博文／2 回）広島・長崎、被爆の実相と地学的視点を解説し、原発事故を体験して No Nukes 地球の実現について考える授業を行う。 （68 松井 克浩／4 回）新潟水俣病と福島第一原発事故を解説する。 （69 渡邊 登／4 回）戦争遺跡の語る平和と戦争を解説する。 （275 吉田 治代／2 回）第一次世界大戦とその戦後～ドイツの事例から解説する。	オムニバス方式
	平和を考える B	今日、日本における「平和」は第 2 次世界大戦の末期の広島・長崎の原爆投下にはじまり、戦争の反省と恒久平和への願いをもとに語られ、様々な取り組みとなってきました。現代の「平和」問題は、単に戦争や紛争のない状況にとどまらず、核開発、原発、経済の南北格差、環境破壊、エネルギー、食糧など多岐にわたる。本講義では、上記の平和問題を、人文社会、自然科学のスタッフが専門に根ざして多角的に問題提起する。 この講義を通じて、「平和」が単に紛争のない状態にとどまらず、私たちの日常生活のさまざまな側面に深く関わっていることを学ぶ。また、科学の発展が人類の幸福に役立てるよう、自らの専門知識に責任がもてる見識を育むことを目的とする。 （オムニバス方式／全 15 回） （427 栗生田 忠雄／4 回）水・食料の配分と平和等、農学分野の講義を行う。また、授業のまとめを行う。 （276 中野 博章／2 回）原発事故から原発問題を考えるをテーマに講義を行う。 （226 寺尾 仁／2 回）大学生の国際交流から世界平和を目指すーパリ国際大学都市の試みを紹介しながら、平和を考える授業を行う。 （278 酒匂 宏樹／1 回）軍備と学問の結びつきー大学・研究所の軍事利用について （64 鈴木 賢治／2 回）巻原発住民投票、原子力発電のしくみ （277 世取山 洋介／2 回）現代における「平和」教育問題をめぐって （279 小泉 明子／2 回）現代における「平和」日本国憲法をめぐって	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	新 平和学概論	第二次大戦終結後も、朝鮮半島、インドシナ等、日本のすぐ近くでも戦乱で多くの人が苦しみ、しかし、今でも、不発弾、枯葉剤による土壌・地下水汚染が原因の奇形児等、その影響が残っている。中東、旧ソ連、アフリカ等では、戦争や内戦がいつまでも終結しない。更に、カンボジア、ルワンダ他では、戦乱とは異なる形で大量虐殺が行われ、南西アジア、北アフリカ、西アフリカ等では、いわゆるテロリストが一般市民をも対象に殺戮を繰り返している。 「平和」とは、単に「戦争のない状態」（消極的平和）ではなく、人間が自由に能力を発揮できる状態（積極的平和）を指す。本授業では、「平和」の基本的な概念をおさえたうえで、紛争を解決し、その再発を防いで平和を回復するために必要な分析視角や思考法を学ぶ。	
	変遷する社会課題と私たち～科学技術と地球環境	ライフサイエンスや情報技術等、近年の科学技術の進展は凄まじく、これに伴って社会的な課題も大きく変遷しつつある。ハード・ソフトウェアといったミクロな技術から、生態系・地球環境を含むマクロな課題まで、幅広い視点で現代を捉え、社会課題を概観しながらその解決策を探る。 なお本科目は、民間企業研究所にて情報技術に携わった経験を有する教員（熊野）が、主にハードウェアの側面から技術の変遷、および最新動向について解説する。	共同
	北京サマーセミナーⅠ	この講座は、夏休みの期間を利用し、協定校である清華大学で実施されるもの。今、さまざまな分野で求められている中国語のコミュニケーション能力を速成し、実践力を高めることを目的とする。クラスは10名以下の少人数制で、能力別に編成されており、のびのびと勉強することができる。このセミナーは中国語に係る専門分野や高度な中国語を学ぶステップとして、意欲あふれた学生に絶好の機会を提供するもの。文化史跡の宝庫である古都北京は皆さんを飽きさせず、現代中国の発展の様子を肌で感じることもできる。	共同
	北京サマーセミナーⅡ	この講座は、夏休みの期間を利用し、協定校である清華大学で実施されるもの。今、さまざまな分野で求められている中国語のコミュニケーション能力を速成し、実践力を高めることを目的とする。クラスは10名以下の少人数制で、能力別に編成されており、のびのびと勉強することができる。このセミナーは中国語に係る専門分野や高度な中国語を学ぶステップとして、意欲あふれた学生に絶好の機会を提供するもの。文化史跡の宝庫である古都北京は皆さんを飽きさせず、現代中国の発展の様子を肌で感じることもできる。	共同
	北京サマーセミナーⅢ	この講座は、夏休みの期間を利用し、協定校である清華大学で実施されるもの。今、さまざまな分野で求められている中国語のコミュニケーション能力を速成し、実践力を高めることを目的とする。クラスは10名以下の少人数制で、能力別に編成されており、のびのびと勉強することができる。このセミナーは中国語に係る専門分野や高度な中国語を学ぶステップとして、意欲あふれた学生に絶好の機会を提供するもの。文化史跡の宝庫である古都北京は皆さんを飽きさせず、現代中国の発展の様子を肌で感じることもできる。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 新 教 養 大 学 に 個 性 化 す る 科 目	留学生と考える日台交流史	ここ数年来、日本と台湾との関係は、ますます深くなってきている。東日本大震災後、多額の義援金が寄せられたのは記憶に新しい。また2018年2月に台湾の東部花蓮地方で起きた地震に際しては、日本から多額の義援金が送られた。ここではとくに、日本と台湾との関係を、日清戦争以降、植民地として台湾を支配してきた歴史を振り返ってみる。	
	留学生と考える日中交流史	日本人のアジア認識を近代日中関係史を通じて考えて行く。日本は地政学的にはアジアに位置するが、明治以降の近代化の発展過程において、アジアの一員ながら「脱亜入欧」が近代日本を支えるスローガンとなったことは周知の通りである。ただそれらのことは一般的にはアジア諸国の中では歓迎されないことだった。そのあたりのことを近代日中交流史を通じてもう一度考えてみる。	
	JLPT-N1 A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルから「日本語を使う」レベルを目指す学生を対象としている。現社研大学院入学の条件となっている日本語能力検定試験N1合格を目指すための科目である。 This subject is produced for students who are at the level of learning through Japanese and using Japanese. The actual purpose of the lessons is to help students to pass JLPT N1 exam.	共同
	JLPT-N1 B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルから「日本語を使う」レベルを目指す学生を対象としている。現社研大学院入学の条件となっている日本語能力検定試験N1合格を目指すための科目である。	共同
	JLPT-N1 C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルから「日本語を使う」レベルを目指す学生を対象としている。現社研大学院入学の条件となっている日本語能力検定試験N1合格を目指すための科目である。	共同
	JLPT-N1 D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルから「日本語を使う」レベルを目指す学生を対象としている。現社研大学院入学の条件となっている日本語能力検定試験N1合格を目指すための科目である。	共同
	N2作文A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。読み手にとって分かりやすい文章を、状況に合わせた的確な文体の日本語で書くことができるようになるための授業である。	共同
	N2作文B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。読み手にとって分かりやすい文章を、状況に合わせた的確な文体の日本語で書くことができるようになるための授業である。	共同
	N2作文C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。読み手にとって分かりやすい文章を、状況に合わせた的確な文体の日本語で書くことができるようになるための授業である。	共同
	N2作文D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。読み手にとって分かりやすい文章を、状況に合わせた的確な文体の日本語で書くことができるようになるための授業である。	共同
	N2聴解A	この科目は日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。母語話者が話す自然な日本語を聞いて理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	N 2 聴解B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。母語話者の話す自然な日本語を聞いて理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	共同
	N 2 聴解C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。母語話者の話す自然な日本語を聞いて理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	共同
	N 2 聴解D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。母語話者の話す自然な日本語を聞いて理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	共同
	N 2 読解A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。さまざまな文体で書かれた日本語の文章を読んで理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。さまざまな文体で書かれた日本語の文章を読んで理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	
	N 2 読解B	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルを卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。さまざまな文体で書かれた日本語の文章を読んで理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	共同
	N 2 読解C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。さまざまな文体で書かれた日本語の文章を読んで理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	
	N 2 読解D	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習を卒業した人のための「日本語で学ぶ」レベルの授業科目である。さまざまな文体で書かれた日本語の文章を読んで理解し、そこから必要な情報を獲得できるようになるための授業である。	共同
	N 3 作文A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。簡単な日本語の文を書いて、それらを論理的に組み立てることで、読み手に分かりやすい文章が書けるようになるための授業である。	共同
	N 3 作文B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。簡単な日本語の文を書いて、それらを論理的に組み立てることで、読み手に分かりやすい文章が書けるようになるための授業である。	共同
	N 3 作文C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。簡単な日本語の文を書いて、それらを論理的に組み立てることで、読み手に分かりやすい文章が書けるようになるための授業である。	共同
	N 3 作文D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。簡単な日本語の文を書いて、それらを論理的に組み立てることで、読み手に分かりやすい文章が書けるようになるための授業である。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解に 関する科目	N 3 聴解A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な場面で、速度、構文、内容の点で、少しやさしく加工された日本語を聞き、そこから必要な情報を聞き取ることができるようになるための授業である。	
	N 3 聴解B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な場面で、速度、構文、内容の点で、少しやさしく加工された日本語を聞き、そこから必要な情報を聞き取ることができるようになるための授業である。	共同
	N 3 聴解C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な場面で、速度、構文、内容の点で、少しやさしく加工された日本語を聞き、そこから必要な情報を聞き取ることができるようになるための授業である。	
	N 3 聴解D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な場面で、速度、構文、内容の点で、少しやさしく加工された日本語を聞き、そこから必要な情報を聞き取ることができるようになるための授業である。	共同
	N 3 読解A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な話題について書かれた具体的な文章を読んで理解し、そこから情報の概要を読み取ることができるようになるための授業である。	
	N 3 読解B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な話題について書かれた具体的な文章を読んで理解し、そこから情報の概要を読み取ることができるようになるための授業である。	
	N 3 読解C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な話題について書かれた具体的な文章を読んで理解し、そこから情報の概要を読み取ることができるようになるための授業である。	
	N 3 読解D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。日常的な話題について書かれた具体的な文章を読んで理解し、そこから情報の概要を読み取ることができるようになるための授業である。	
	N 4 作文A	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための授業である。比較的身近な話題について、読み手に対する分かりやすさを意識して文章を書きながら、日本語の基本語彙や構造を学ぶための授業である。	共同
	N 4 作文B	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。比較的身近な話題について、読み手に対する分かりやすさを意識して文章を書きながら、日本語の基本語彙や構造を学ぶための授業である。	共同
	N 4 作文C	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための授業である。比較的身近な話題について、読み手に対する分かりやすさを意識して文章を書きながら、日本語の基本語彙や構造を学ぶための授業である。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目 関する 科目	N 4 作文D	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。比較的身近な話題について、読み手に対する分かりやすさを意識して文章を書きながら、日本語の基本語彙や構造を学ぶための授業である。	共同
	N 4 聴解A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について話された日本語の文章を聴いて理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	
	N 4 聴解B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について話された日本語の文章を聴いて理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	共同
	N 4 聴解C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について話された日本語の文章を聴いて理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	
	N 4 聴解D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について話された日本語の文章を聴いて理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	共同
	N 4 読解A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について書かれた日本語の文章を読んで理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	
	N 4 読解B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について書かれた日本語の文章を読んで理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	
	N 4 読解C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について書かれた日本語の文章を読んで理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	
	N 4 読解D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの日本語学習のための科目である。基本的な語彙や漢字を用い、比較的身近な話題について書かれた日本語の文章を読んで理解しながら、日本語の基本語彙や構造などを学ぶための授業である。	
	旭町日本語 1 A	この科目は、主に「日本語で学ぶ」レベルの学生を対象としている。日常生活+αのさまざまな社会的場面の中で、日本語で基本的な会話ができるようになることが目標である。	
	旭町日本語 1 B	この科目は、主に「日本語で学ぶ」レベルの学生を対象としている。日常生活+αのさまざまな社会的場面の中で、日本語で基本的な会話ができるようになることが目標である。	
	旭町日本語 1 C	この科目は、主に「日本語で学ぶ」レベルの学生を対象としている。日常生活+αのさまざまな社会的場面の中で、日本語で基本的な会話ができるようになることが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解・科目	留學旭町日本語1D	この科目は、主に「日本語で学ぶ」レベルの学生を対象としている。日常生活+αのさまざまな社会的場面の中で、日本語で基本的な会話ができるようになることが目標である。	
	基旭町日本語2A	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの学生を対象としている。日本での生活に最低限必要な情報を得ながら、基本的な会話を中心に、生活に必要な日本語を身につけるための科目である。	
	目旭町日本語2B	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの学生を対象としている。日本での生活に最低限必要な情報を得ながら、基本的な会話を中心に、生活に必要な日本語を身につけるための科目である。	
	旭町日本語2C	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの学生を対象としている。日本での生活に最低限必要な情報を得ながら、基本的な会話を中心に、生活に必要な日本語を身につけるための科目である。	
	旭町日本語2D	この科目は主に「日本語を学ぶ」レベルの学生を対象としている。日本での生活に最低限必要な情報を得ながら、基本的な会話を中心に、生活に必要な日本語を身につけるための科目である。	
	英語による日本語文法解説	日本語の基本構造、基本文法事項について、英語・中国語で解説する。通常の練習中心の語学の授業ではなく、同時に多人数に対して講義形式で日本語についての情報を提供する。日本語学習を始めたばかりの者にとっては、新しい言語についての情報の獲得が、既に日本語学習が進んでいるものにとっては、既習事項の確認がその目的となる。	
	課題研究Ⅰ	修士論文作成のための、基本文献の読み方、論文作成の技法などの基本事項を学ぶ。また研究テーマを決定し、先行研究や関連する論文を精読し、研究テーマに関する問題意識を深める。	
	課題研究Ⅱ	修士論文作成のための、基本文献の読み方、論文作成の技法などの基本事項を学ぶ。また研究テーマを決定し、先行研究や関連する論文を精読し、研究テーマに関する問題意識を深める。	
	漢字・語彙A	この科目は主に「日本語で学ぶ」レベルと「日本語を使う」レベルの学生を対象としている。日本語で情報のやり取りをするために、とにかく知っている日本語の語彙・漢字を増やすための科目である。	共同
	漢字・語彙B	この科目は主に「日本語で学ぶ」レベルと「日本語を使う」レベルの学生を対象としている。日本語で情報のやり取りをするために、とにかく知っている日本語の語彙・漢字を増やすための科目である。	共同
	漢字・語彙C	この科目は主に「日本語で学ぶ」レベルと「日本語を使う」レベルの学生を対象としている。日本語で情報のやり取りをするために、とにかく知っている日本語の語彙・漢字を増やすための科目である。	
	漢字・語彙D	この科目は主に「日本語で学ぶ」レベルと「日本語を使う」レベルの学生を対象としている。日本語で情報のやり取りをするために、とにかく知っている日本語の語彙・漢字を増やすための科目である。	
	社会人としての日本語・オーラルコミュニケーション	日本語母語話者に対して日本語を使うことを目的とした日本語を習得する。自分の日本語を自然なものにするために、どのようなトレーニングをすすめていく必要があるか理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 教養・教育に 関する科目	社会人としての日本語・作文B	大学生として、学業や就職活動において必要な文章作成力を向上させることを目的とする。そのための上級文法表現等を学び、さまざまなテーマや目的に応じた文章を書く練習をする。	
	社会人としての日本語・作文D	大学生として、学業や就職活動において必要な文章作成力を向上させることを目的とする。そのための上級文法表現等を学び、さまざまなテーマや目的に応じた文章を書く練習をする。	
	集中日本語0A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの学生の中で、特にこれまでに日本語学習経験がない学生を対象としている。この授業では、基本的な日本語の文をインプットし、それを模倣することで、使える日本語を増やしていく。	共同
	集中日本語0C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの学生の中で、特にこれまでに日本語学習経験がない学生を対象としている。この授業では、基本的な日本語の文をインプットし、それを模倣することで、使える日本語を増やしていく。	共同
	集中日本語1A	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの学生の中で、特にこれまでに日本語学習経験がない学生を対象としている。この授業では、基本的な日本語の文をインプットし、それを模倣することで、使える日本語を増やしていく。	共同
	集中日本語1B	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの学生の中で、特にこれまでに日本語学習経験がない学生を対象としている。この授業では、基本的な日本語の文をインプットし、それを模倣することで、使える日本語を増やしていく。	共同
	集中日本語1C	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの学生の中で、特にこれまでに日本語学習経験がない学生を対象としている。この授業では、基本的な日本語の文をインプットし、それを模倣することで、使える日本語を増やしていく。	共同
	集中日本語1D	この科目は「日本語を学ぶ」レベルの学生の中で、特にこれまでに日本語学習経験がない学生を対象としている。この授業では、基本的な日本語の文をインプットし、それを模倣することで、使える日本語を増やしていく。	共同
	中国語による日本語文法解説	日本語の基本構造、基本文法事項について、中国語で解説する。通常の練習中心の語学の授業ではなく、同時に多人数に対して講義形式で日本語についての情報を提供する。日本語学習を始めたばかりの者にとっては、新しい言語についての情報の獲得が、既に日本語学習が進んでいるものにとっては、既習事項の確認がその目的となる。 In this lesson, the lecturer will explain Japanese sentence structures and Japanese grammar in Chinese lecture. Basically one way lecture and there will be no practice sessions. For beginners, all the information given in this lessons will be new and useful, and for those who have already learned a lot of Japanese, this lesson will be good review.	
	日本事情自然系A	この講義では、自然科学系（数学、物理学、化学、生物学、地学）のそれぞれの分野からオムニバス形式で話題を取り上げ、自然科学系の現状・実情などについてやさしく説明する。	共同
	日本事情自然系B	この講義では、自然科学系（医学、歯学、工学、農学）のそれぞれの分野からオムニバス形式で話題を取り上げ、自然科学系の現状・実情などについて専門外の学生も理解できるように説明する。	

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
知識・理解 科目 に関する科目	留学生 日本事情社会系A	日本社会（にっぽんしゃかい）を、法律（ほうりつ）と政治（せいじ）と行政（ぎょうせい）の視点（してん）から一般的に（いっぽんてき）に理解（りかい）することを目指（めざ）す。	共同	
	基本科目 日本事情人文系A：現代日本の政治と経済	現在の日本における政治と社会について、日本の政治体制について、簡単に説明するとともに、社会体制についても、身近なニュースを素材にして、説明をしていきたい。また留学生に関心のあるテーマを選びながら発表形式ととりながら進めていきたい。		
	基本科目 日本事情人文系C：現代日本の歴史と文化	現在の日本における政治と社会について、日本の歴史(特に近代以降の歴史)について、簡単に説明するとともに、社会体制についても、説明をしていきたい。そのほかに、日本の宗教とくに仏教について説明を行いたい。また留学生に関心のあるテーマを選びながら発表形式ととりながら進めていきたい。		
	自然系共通専門基礎 解析学基礎1	大学において数学や物理を専門的に学ぶためには、数学の深い理解が必要不可欠である。本講義では、将来数学を専門的に学ぼうとする学生、あるいは数学を必要とする分野を目指す学生を主な対象とし、実数から平均値の定理までの内容を扱う。		
	解析学基礎2	大学において数学や物理を専門的に学ぶためには、数学の深い理解が必要不可欠である。本講義では、将来数学を専門的に学ぼうとする学生、あるいは数学を必要とする分野を目指す学生を主な対象とし、関数の増減から積分の応用までの内容を扱う。		
	数学基礎A1	本講義で取り扱う微分積分学は、数学における重要な基礎科目であるばかりでなく、自然科学、工学、社会科学などの多くの分野の基礎科目になっている。1変数の微分積分学および2変数の微分積分学の基礎的内容を学ぶ。微分積分学における基礎的な定理・公式について、それらを利用できるようになり、計算を通して微分積分の基礎的事項を理解することを目指し、2変数関数の偏導関数について基本的な計算をすることができ、曲面の接平面・法線、極値問題などへの応用ができること並びに2重積分について基本的な計算をすることができ、空間図形の体積などへの応用ができることを目標とする。		
	数学基礎A2	本講義で取り扱う微分積分学は、数学における重要な基礎科目であるばかりでなく、自然科学、工学、社会科学などの多くの分野の基礎科目になっている。1変数の微分積分学および2変数の微分積分学の基礎的内容を学ぶ。微分積分学における基礎的な定理・公式について、それらを利用できるようになり、計算を通して微分積分の基礎的事項を理解することを目指し、2変数関数の偏導関数について基本的な計算をすることができ、曲面の接平面・法線、極値問題などへの応用ができること並びに2重積分について基本的な計算をすることができ、空間図形の体積などへの応用ができることを目標とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	数学基礎B1	本講義では、ベクトル、行列や連立1次方程式の解法などを学ぶ。これらは線形数学という分野に属しており、数学における重要な基礎科目であるばかりでなく、自然系および社会系諸分野の基礎科目にもなっている。さまざまな分野で基礎知識となる線形数学の基礎的事項を理解することを目指し、行列の基本変形、連立1次方程式を解く、行列式、対角化などの計算が正しくできるようになること並びにそれらを応用した問題も解決できることを目標とする。注意深く聴講し、提出される演習問題を積極的に解くことが求められる。	
	数学基礎B2	本講義では、ベクトル、行列や連立1次方程式の解法などを学ぶ。これらは線形数学という分野に属しており、数学における重要な基礎科目であるばかりでなく、自然系および社会系諸分野の基礎科目にもなっている。さまざまな分野で基礎知識となる線形数学の基礎的事項を理解することを目指し、行列の基本変形、連立1次方程式を解く、行列式、対角化などの計算が正しくできるようになること並びにそれらを応用した問題も解決できることを目標とする。注意深く聴講し、提出される演習問題を積極的に解くことが求められる。	
	統計学基礎1	情報化社会における不確実性の増加にともない、統計的なものの見方や考え方は自然科学、人文科学、社会科学などの全分野で重要になってきている。この講義では統計学の基礎的事項について学ぶ。統計的なものの見方・考え方および推定や検定などの手法を習得する。なお、到達目標は次のとおり。 1 統計学におけるデータのまとめ方を理解する。特に、与えられたデータからヒストグラムや散布図が描け、平均値、分散、相関係数などの基本統計量が計算できる。 2 推定や検定に関する基礎的事項について、具体例を通して理解する。	
	統計学基礎2	情報化社会における不確実性の増加にともない、統計的なものの見方や考え方は自然科学、人文科学、社会科学などの全分野で重要になってきている。この講義では統計学の基礎的事項について学ぶ。統計的なものの見方・考え方および推定や検定などの手法を習得する。なお、到達目標は次のとおり。 1 統計学におけるデータのまとめ方を理解する。特に、与えられたデータからヒストグラムや散布図が描け、平均値、分散、相関係数などの基本統計量が計算できる。 2 推定や検定に関する基礎的事項について、具体例を通して理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	物理学基礎 A I	物理学基礎 AI では、高校物理で学んだ内容のうち、質点の力学を体系的に整理し、基本的な三つの運動法則から様々な法則が導かれることを学ぶ。また、質点の運動を記述するために不可欠な数学を理解し、その取り扱いに習熟することを目指す。また、授業の各回について物理学の一般的な内容を含んでおり、全体を受講することで物理学の総論を包括的に履修することができる。この授業では、物理学の考え方がもっとも明確に現れている古典力学（ニュートン力学）の基礎である「質点の力学」を学ぶことで、「基本概念を明確にし、様々な現象を基本法則から説明し、論理的に理解しようとする態度」を身につける。	
	物理学基礎 A II	物理学基礎 AII では、物理学基礎 AI で学んだ質点の力学をさらに発展させ、質点系（多数の質点からなる系）や剛体の運動について学ぶ。また、これらの運動を記述するために不可欠な数学を理解し、その取り扱いに習熟することを目指す。この授業では、物理学の考え方がもっとも明確に現れている古典力学（ニュートン力学）のうち、質点系や剛体の運動を学ぶことで、「基本概念を明確にし、様々な現象を基本法則から説明し、論理的に理解しようとする態度」を身につける。	
	物理学基礎 B I	物理学の基礎である古典力学（ニュートン力学）を学ぶ。この物理学基礎 BI では、扱う対象を質点の力学に限定して、速度、加速度、力、運動量、エネルギーなど、力学(物理学)の基礎的諸概念や、物体の運動を記述する手法を学ぶ。 また、授業の各回について物理学の一般的な内容を含んでおり、全体を受講することで物理学の総論を包括的に履修することができる。物理学は自然科学や工学の基礎であり、物理学を学ぶことで論理的・科学的な思考手法を習得することもできる。この講義では物理学の基礎である力学=物体の運動を記述するための物理学=を、基礎レベルから講義する。速度、加速度、力、運動量、エネルギーなどの基礎的概念や運動の法則を理解し、さらに、振動などの典型的な運動様式を運動方程式にもとづいて理解することを目指す。	
	物理学基礎 B II	前期の物理学基礎 BI で学んだ力学の諸概念及び法則を拡張し、多数の粒子からなる系(質点系)や広がりを持った物体(剛体)の運動の記述の仕方を学ぶ。さらに、弦や水を伝わる波、音波、地震など我々の日常生活にも馴染の深い波動現象の基本的性質についても学ぶ。 学習の到達目標は次のとおり。 1 質点の集まりとしての質点系・剛体の運動の記述の仕方を理解する。 2 剛体の運動は質量中心の運動とそのまわりの回転運動で記述されることを理解する。 3 波動現象に関する基礎的諸概念と波動の記述の仕方を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目	物理学基礎C 1	本講義では物理学の基礎としての力学について学ぶ。ベクトルや微分・積分の基本的な知識を用いて、質点および質点系の運動をニュートンの運動法則から理解する。あわせて、物理学において重要な概念である保存則について考察する。さらに発展として、剛体や流体の力学について学ぶ。	
	物理学基礎C 2	本講義では物理学の基礎としての力学について学ぶ。ベクトルや微分・積分の基本的な知識を用いて、質点および質点系の運動をニュートンの運動法則から理解する。あわせて、物理学において重要な概念である保存則について考察する。さらに発展として、剛体や流体の力学について学ぶ。	
	物理学基礎C 3	電磁気学は力学と並んで物理学の基礎である。本講義では電磁気学についての基礎的内容である静電場、静磁場、定常電流について主に講義を行う。	
	物理学基礎C 4	電磁気学は力学と並んで物理学の基礎である。本講義では電磁気学についての基礎的内容である変動する電場と磁場、マクスウェル方程式、電磁波について講義を行う。 振動・波動は自然界に見られるなじみ深い現象である。本講義では振動及び波動現象について基礎的な項目について講義を行う。	
	物理学基礎D	物理学は、自然科学や工学の基礎である。また、物理学に基づく論理的・合理的な思考方法は、複雑な現代生活を営む上でもますます重要になってきている。この授業では、物理学の全般的な内容として、力学、熱、電磁気学、波動などの古典物理学の基礎を概観し、全体像を把握することを目指す。また、現代物理学の発展的内容および物質の構造や自然の階層性についての話題についても学ぶ。	
	化学基礎A	原子の構造・性質、周期律、イオン結合・共有結合などさまざまな結合の成り立ち、分子の構造、それに起因する物質の性質についてミクロな立場から解説する。授業の各回において一般的な内容を含んでおり、この科目を履修することにより化学の包括的な内容を習得できる。	
	化学基礎B	この講義では、具体例をあげながら原子や分子の集合体としての物質の状態、物質の状態の変化と相平衡、物質の化学変化と化学平衡を取り上げ、これらの諸現象の背景にある基本原理についてわかりやすく解説する。授業の各回において一般的な内容を含んでおり、この科目を履修することにより化学の包括的な内容を習得できる。	
	化学基礎C	有機化合物の基本的な構造、性質、および反応性について解説する。この科目を履修することにより有機化学における基礎的知識を習得できる。	
	生物学基礎A	生物の構造上、機能上の単位である細胞の働きを理解する。生物を構成する生体物質の構造と性質を学び、その知識を基礎として細胞の構造と機能を理解する。本講義の履修を通じて、細胞の観点から見た生物学の一般的内容を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目	生物学基礎B	生命の連続性と多様な生命機能を支えているのが遺伝である。本講義では、遺伝の基本的な仕組み、遺伝情報の物質的実体について理解を深める。本講義の履修を通じて、遺伝の観点から見た生物学の一般的内容を学ぶ。	
	地学基礎A	地球の地殻やマントルの変動に関する研究分野であるグローバルテクトニクス（地球変動論）はこの20-30年間に著しい変貌を遂げた。その結果、地球表層部の形成過程は、プレートテクトニクスによって統一的に説明されるようになった。また、ごく最近ではプレートテクトニクスでは説明しきれない地学現象について新しい視点から解明しようという試みもなされている。これは、地震トモグラフィーの研究などの急速な進展によって、地球内部の様子が詳しく明らかにされてきたことに基づいている。本講義では、このような地球科学の研究の進展を踏まえて、地球表層部の運動や変動はなぜ起こるのか、どのような力学的性質、動力学的体系下にあるのか。このような疑問に答えるために、地殻・マントル・核を構成している物質とその力学的性質を紹介した上で、我々の大地で起こっている主要な地学現象と地球内部の運動との関連について述べる。	
	地学基礎B	地球や宇宙は、過去百数十億年の地学現象が積み重なって現在の姿へと辿り着いた。そこには、日常の視点からは想像できない、長く複雑で壮大な物語が秘められている。本講義では、生命の居住可能な惑星『ハビタブル・プラネット』をテーマとして、地球の成り立ちや化石の生命史にかかわる様々な地学現象を学んでいく。	共同
	地学基礎C	地球史のうち「第四紀」の環境変遷は、人類の進化に直接的に作用し、人間社会のバックグラウンドとなっている。なかでも平野を取りまく自然環境は、現代人の社会活動の基盤を構成しており、人間社会の将来の鍵を握っている。一方、人間は先史の時代から地球の恵み、地下資源の恩恵に携わり、今日の文明を拓いてきた。しかし環境に与える影響はしばしば軽視され、数々の公害、環境汚染が生じている。また、過度の人間活動と自然との相互作用が議論されている。また、私たちの生活・自然環境を一瞬にして破壊する大地震も多発し、世界各地で人間社会に大きなダメージを与えている。講義では「地球・資源・環境」をキーワードに、地質現象と人間との関わりについて考える。なお、この科目は地学分野の一般包括的な内容を含んでいる。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	くらしと数理	日常の暮らしの中では数理的思考や手法が多く使われている。数学が「くらし」とどのような関わりをもっているか、および、日常の暮らしの中で登場する数学について、例を通して説明する。日常の生活に関係している数学の内容及び数学とくらしの関わりについて一緒に考えた問題を考え、それを理解することを目標とする。 共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式、初等整数論及びRSA暗号を解説する。最短ネットワーク問題、ポロノイ図及び可視性問題を解説する。戦略型ゲームの理論と「囚人のジレンマ」、「共有地の悲劇」と環境の過剰利用の数学モデル等を解説する。	
	グリーンケミストリー入門	地球環境と化学物質の関わりについての入門的内容を解説する。主な内容は、地球の歴史、地球の現状、環境汚染、環境分析と評価、物質の合成、物質の利用と処理、生化学反応の応用、バイオマス、等である。 （オムニバス方式／全15回） （70 梅林 泰宏／4回）環境と調和した化学「グリーン・サステイナブルケミストリー」とは、水の化学・水の働き （117 松岡 史郎／4回）汚染物質と環境 （118 長谷川 英悦／4回）環境と調和した物質合成 （322 中馬 吉郎／3回）生物・生化学反応の応用	オムニバス方式
	基礎数理AI	理工学の諸学問・技術を学ぶための素養として、微分積分学は必要不可欠である。この科目では、高校までの数学を前提にして、1変数関数の微分法と積分法を中心に概説する。	
	基礎数理AII	理工学の諸学問・技術を学ぶための素養として、微分積分学は必要不可欠である。この科目では、基礎数理AⅠの続きとして、多変数(主に2変数)関数の微分積分を中心に概説する。	
	基礎数理B	理工学の諸学問・技術を学ぶための素養として、線形代数学、特に行列の計算は必要不可欠である。この科目では、行列や行列式の計算法を中心に線形代数学の基礎を講義する。	
	基礎雪氷学	大気から陸面を経て海洋に至るまでの「雪と氷の一生」を、雪氷が関与した様々な自然現象や災害現象をもとに、ローカルからグローバルまで、初学者にもわかりやすく解説する。 （オムニバス方式／全15回） （119 河島 克久／6回）降雪・積雪の科学、氷河の科学、雪氷災害、雪氷と気象・気候 （120 本田 明治／5回）融雪の科学、雪氷圏の水循環、雪氷災害、雪氷と気象・気候 （269 奈良間 千之／2回）氷河の科学 （459 新屋 啓文／2回）雪氷災害	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	教養教育に關する科目	自然科学	極微の世界	目に見えない極微の世界の現象が、日常生活の中で使われている科学技術に应用されていることを理解し、これらの技術をより正しく利用できるようになるために、原子や原子核などの構造や性質について学ぶ。また、それらの知識の応用として、半導体、原子力エネルギー、放射線などの関連科学技術について学ぶ。	
			自然科学基礎実験	物理、化学、生物の各分野の実験を行う。3分野の実験課題を通じて、正しい実験を遂行する事を学ぶとともに、科学的知識を実験的に検証することでその理解をより深いものとする。 物理学、化学、生物の各分野に分かれて、実験課題を展開する。	共同
			社会を支える有機化学	有機化学のうちでも工業化学から生命関連化学に至る広い分野の共通の基礎となる部分について講義する。まず、化学結合の性質と基本的な反応について説明し、これをもとに社会の中で有機化学がどのように利用されているのか具体例を交えて紹介する。	
			数学の世界	自然現象の解析、科学の発展、新しい技術や製品の開発および私たちの生活など、あらゆるところに数学が役立っている。本講義では、数学に関する様々な話題を4名の教員のオムニバス方式で講義する。 (オムニバス方式／全15回) (121 山田 修司／3回) 在庫理論及びゲーム理論を解説する。 (263 星 明考／4回) 法nの世界と整数論における考え方、フェルマーの小定理と最終定理、大きな数の最大公約数とユークリッドの互除法及び整数論の応用とRSA暗号を担当する。 (122 渡邊 恵一／4回) 問題の概要の説明、必要な高校数学の復習、自動車のドライバーから見た目的地の位置、ベクトルの外積、空間曲線及び飛行機のパイロットから対象がどう動いて見えるかを担当する。 (326 蛭川 潤一／4回) 誕生日問題、ランダム・ウォーク、ポアソン過程及び大数の法則を担当する。	オムニバス方式
			生活の化学	シャープの芯、携帯電話、ダイヤモンドなど、私たちの生活を豊かにするために用いられている物質、および陶器の色や金属の光沢、日焼けなど身近におきている現象を題材に、「化学的なものの見方や考え方」を理解する。	
			生物学実験Ⅰ	様々な生き物を用いた実験を行い、生物の多様性とそれらの構造や機能について理解する。また、顕微鏡の使用手法や細胞を構成しているタンパク質、糖質、核酸などの解析方法について学ぶ。	共同
			生物学－植物A－	植物の営みと植物科学研究の現在、社会との接点などについて、植物科学の基礎知識や最近の研究成果を交えながら解説する。高校生物植物領域の学習内容から一歩踏み込んだ内容である。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解に 関する科目	生物学－生物多様性A－	講義を通じて「生物の多様性を考える基礎」「植物の多様性と進化」「動物の多様性と進化」「ゲノムや遺伝子からみた進化」「多様な生き物の関係」を学び、生物の多様性を理解する上で必要な知識を修得する。	共同
	生物学－動物A－	近年、ヒトを含む主要な動物の全ゲノム遺伝子の解読が、ついに完了した。同じ種に属するヒト同士は、顔や形などは異なるが、ほとんど同じ遺伝子情報に基づいた成分で出来ている。血液型などのいくつかの例外を除けば、ほとんど同じDNAの構成をもっている。それなのに互いの交換移植がたとえ兄弟同士でも成立しないのはなぜだろうか。免疫には、その個体の固有の小さな差も見分けて、自分と異なった細胞や組織を厳格に識別し、拒絶し、排除するという機能がある。免疫の「自己」と「非自己」とは何によって決まるのか。動物の免疫学を題材とし、生物学を理解する上で、必要な知識を概説する。	
	地学C（マグマと火山）	地球上には多数の火山があり、その分布やマグマの生成は地球内部の運動に関係する。 本講義では、火山学、地球科学、災害科学の分野から得られている知見を基にして、火山の分布とプレートテクトニクスの関係、火山噴火の素過程、火山災害の種類とその現象についての教養レベルの内容を分かりやすく紹介する。また、噴火様式・規模と火山地形との関係性や、噴火時だけでなく噴火後にも起きるさまざまな災害について論じる。	共同
	地学E（地球理解の諸相）	地球の表層や内部で進行しているさまざまな無機・有機のプロセスは、ばらばらに起こっているのではなく、それぞれが影響し合って複雑な相互作用システムを形成している。地球の上や内部を、物質が生命を巻き込みながら移動し、巨大で長大で複合的なサイクルをなしているのである。それらはまた、思いがけず我々の社会生活と深い関りを持っている。本講では、地球の表層部の大きなスケールのプロセスのうち、「石油」を題材に、主に「物質の移動・循環」の視点と「社会・経済と資源」の視点を織り込みつつ、狭義の「地学」の枠に止まらず、石油資源全体の仕組み・位置づけの理解を目指す。	
	地学概論	地球を構成する鉱物と地球の歴史について学ぶ。本科目では、地球の歴史と、地球を構成する物質（鉱物）についての理解を深めるとともに、地球がかかわる問題について論理的に考える態度を身に付けることを到達目標とする。	
	地学概論A	約46億年の地球の歴史のなかで地球形成初期約6億年のできごとを示す直接の証拠は現在の地球上には残されていない。それはプレートテクトニクスをはじめとする地球内部の動きが、初期の記録を消し去ってしまったからである。この講義では、前半に地球初期の歴史がどのように解釈されているのか、そして後半に現在の固体地球の中でどのような動きが進行しているのかをテーマに、配布プリントやビデオ教材も活用して高校で地学を履修していない学生にも分かりやすく解説する。なぜ地球に生命が誕生するに至ったのか初期地球の形成と進化の過程を踏まえて説明できること並びに現在の地球内部で起こっている現象を地球の進化に基づいて説明することができることを到達目標とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	地学概論B	地球の歴史を早送りで見ると、大陸が地球表面を動きまわるようすがわかる。その動きは、まるで水面を漂う浮き草のようだ。海陸分布・配置は、地球環境に大きな影響を与え、その影響をうけながら生物は進化してきた。この講義では、プレートテクトニクスという言葉キーワードにして、最近6億年の地球史を概観する。到達目標は次のとおり。 1 日常生活とは異なるグローバルな時・空間を体験する。 2 私たちが、その時・空間の一断面にいることを理解する。	
	地学実験A	野外実習では、石油の里として知られる矢代田・金津および日本ジオパークである佐渡島にでかけ、代表的な地層や岩石・鉱物・化石などを観察する。室内では、自ら採取した試料を用いて地質学についての各種実習を体験する。	共同
	地球と気象	今日は雨が降るかな、風が吹いて寒いかな、など我々は毎日空模様を気にして日々の生活を送っている。このような日頃おなじみの天気、すなわち大気さまざまな現象（気象）は、全て物理の法則に従っている。地球に降り注ぐ太陽放射エネルギーを源として、地球上の大気は温度差を解消するために運動し、地球に存在する水は水蒸気－水－氷の相変化を伴って循環しているのである。本講義ではこのような地球上にみられるさまざまな大気現象のメカニズムを分かり易く解説する。	
	地質学の基礎	This course is designed to teach the fundamentals of geology. Lecture is grouped in to three modules. First module comprises of the formation of Earth as a planet in the space. The lectures include information about the interior of Earth and how we can understand about the structure of the Earth and other planets. Second module consists of materials in the surface of the Earth. Here I focus to teach about minerals and rocks. Also different processes going on in the surface of the Earth such as plate tectonics which causes earthquakes and volcanoes. Third and last module comprises of lectures relating to the Earth's environment and evolution of life in time and space. 本授業は地質学の基礎を教えることを目的とする。三つのモジュールに分けて行い、第1モジュールでは宇宙の惑星としての地球の成り立ちを取り上げ、地球の内部や、どのようにすれば地球など惑星の構造を理解できるのかなどについて学ぶ。 第2モジュールでは地球表面の物質を取り上げ、鉱物と岩石のほか、地震や火山噴火を引き起こす、プレートテクトニクスなど地球表面で起きる様々な変動を中心に授業を行う。 最後の第3モジュールでは地球の環境や、時間と空間における生命の進化を取り上げる。	
	物質の世界	身近な日常生活で起こる様々な現象を物理の目で考える。あたりまえと思える日常現象の中には未解決の問題も多く、物理的な考察をもって、その問題に取り組む。毎回、一つのテーマを取り上げ、それに対して物理的な考察を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解に 関する科目	物理学への招待A	物理学は、自然科学や工学の基礎である。また、物理学に基づく論理的・合理的な思考方法は、複雑な現代生活を営む上でもますます重要になってきている。この授業では、古典物理学の柱をなす力学と電磁気学を中心にして、基礎的な内容を講義する。	
	物理学概論	この授業では、自然現象や日常生活の中の科学技術に関して取り上げ、これを物理学の基本法則とその応用についての知識で説明する。物理学の基本法則としては、古典力学や電磁気学を始めとして、20世紀に発展した量子論と相対性理論を分かりやすく解説する。最初に物理法則を説明し、次にその法則を用いて自然現象や日常の科学技術を解説する。特に、量子論や相対性理論などの現代物理学の知識の応用として、半導体技術、原子力エネルギー、放射線の医療応用など関連の最先端科学技術について理解を深める。	
	物理学基礎実験	物理量の基礎的な測定法に習熟し、さらに、物理学の方法を習得することを目的とする。測定する物理量は、物性、熱、光、電磁気に関係する基礎的な量である。測定に付随する誤差および測定値の信頼度にも重点をおいた考察をする。	共同
	くらしを支える機械システム工学	洗濯機やエアコンなどの身近な機器から自動車や飛行機などの乗り物などに至るまで、これらは機械システム工学の知識や技術をもとに作られ、人々の生活を支えている。この科目では、日常使われている機械や生活に関連する様々な現象に、機械システム工学の基礎的な概念やその技術がどのように関わっているかを紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (109 松原 幸治／6回) 全体ガイダンス、くらしを支える熱機関をテーマに講義を行う。 医療と機械工学-バイオメカニクス入門-をテーマに講義を行う。 身近にある様々な物の流れをテーマに講義を行う。 燃焼とエネルギーをテーマに講義を行う。まとめ。 (110 平元 和彦／1回) 機械システムの自動化をテーマに講義を行う。 (107 安部 隆／1回) MEMSで暮らしが変わる？をテーマに講義を行う。 (308 櫻井 篤／1回) 光エネルギーの話テーマに講義を行う (261 坂本 秀一／1回) 騒音の防止に関する技術をテーマに講義を行う。 (330 川崎 一正／1回) 機械システム工学に関連した講義を行う。 (331 横山 誠／1回) システムで考えるってどういう事？をテーマに講義を行う。 (108 新田 勇／1回) トライボロジーの基礎とくらしへの貢献をテーマに講義を行う。 (262 佐々木 朋裕／1回) 機械と材料をテーマに講義を行う。 (309 寒川 雅之／1回) 機械システム工学に関連した講義を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 に 関 する 科 目	化学実験	化学物質の性質や化学変化などを定性的及び定量的に観察することにより、法則や事実を自らの実験によって確かめ、さらに実験の操作法や実験器具の正しい扱い方に習熟し、実験マナーを体得する。	共同
	最先端技術を支える化学Ⅰ	化学はわれわれの生活や産業に密接に係わっている重要な学問である。本講義では、身の回りの物質や最先端の人工（合成）材料への化学の役割、地球環境問題や生活との化学の係わりあいについて解説する。 (オムニバス方式／全15回) (305 戸田 健司／3回) セラミックスとは何か (103 児玉 竜也／2回) CO2固定化と石炭利用・天然ガス利用の化学技術 (307 郷右近 展之／1回) 太陽熱蓄熱と水素エネルギーに係わる化学技術 (303 狩野 直樹／3回) 身近で接する化学 / 環境修復における化学の役割 (105 鈴木 敏夫／1回) 生活を豊かにする有機化合物-医薬品 (437 星 隆／1回) 最先端技術を支える有機合成化学／有機分子を自在に創る技と力量 (102 青木 俊樹／2回) 未来を拓く高分子化合物 身近な高分子化合物 / 夢の機能性高分子材料 (101 金子 隆司／2回) 最先端技術を支える高分子化合物 1	オムニバス方式
	材料科学概論	エネルギー・資源の有効利用、地球環境の保全、食品・医薬品の創製など、社会生活にとって不可欠な技術の発展において、新材料・新素材が果たしてきた役割を学習する。特に、エネルギー材料、環境材料、医用材料、生分解性材料などの開発における物理と化学の役割について、具体的に解説する。 (オムニバス方式／全15回) (95 田中 孝明／2回) 身を守る生体成分「ペプチド」の構造とはたらき、生物材料 - 生物がつくる材料と生物のための材料 - (435 落合 秋人／1回) タンパク質の機能性と生体材料への応用 (99 坪井 望／1回) 半導体材料と光デバイス応用について (297 大木 基史／1回) 材料の強さとは (96 八木 政行／1回) 夢の新エネルギー「人工光合成」への挑戦 (299 由井 樹人／1回) 光が関わる化学反応 (302 齊藤 健二／1回) 極小セラミックスの合成と機能 (436 村上 貴洋／1回) 水素エネルギー材料とは (97 山内 健／1回) ネイチャーテクノロジーによる未来材料の創出 (298 三俣 哲／1回) 機能性ソフトマテリアルの実用化 (100 瀧本 哲也／1回) 材料物性に対する理論的予言 (98 武田 直也／1回) 役に立つ磁石 (301 中野 智仁／1回) 輸送現象-熱と電荷を運ぶ電子- (300 佐々木 進／1回) もしも1000兆分の1の超小人になったら	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	自然科学 生活を支える化学技術－化学工学への招待－	金属やプラスチック、医療品、化粧品、衣料、塗料など私たちの身の回りにあるものは、天然物以外すべて化学反応を利用して作られている。でも、化学反応だけでは材料や製品を作ることはできない。化学反応で生成した目的物質を不純物（未反応原料、副生成物など）からより分けて、必要な純度に精製してはじめて素材になる。素材を組み合わせることで材料を作り、材料を組み合わせることで製品を作る。 化学工場では化学反応を利用して原料から化学物質を生産するが、原料やエネルギーを有効に使い、有害な汚染物質を環境に排出しないようにして生活に役立つ製品を作るための学問が化学工学である。化学工学は、化学を通して環境に優しく生活を豊かにするための学問である。化学工学の「環境に優しく省エネ・省資源で化学的のもの作りをする」という考え方は料理や掃除などの家事にもあてはまる。例えば、おいしい料理を作るためには良い食材と良いレシピが必要であるが、食材を有効に利用してゴミを減らし、消費エネルギーも減らすことが重要である。化学工学は料理を作る上のレシピに相当する。この科目では、生活の中で私たちが行っている技術や現象を通して、化学工学の考え方を解説する。	共同
	電気回路	人間支援感性科学プログラムでは、電子情報工学をベースにして、医療、福祉、スポーツ、音楽、美術を学習する。そのどの応用分野においても必要とされるのが電気・電子回路の知識である。医療分野における生体計測、神経回路網のモデル化、福祉分野における介護ロボットや電動車いすの制御回路の設計、スポーツ分野における生体計測とバイオメカニクスモデル化、音楽・美術分野におけるセンサによる人の動作の計測、いずれを行うにも電気・電子回路の知識が不可欠である。 本科目では電気回路の導入部として、受動的な回路素子（線形回路素子）によって構成される電気回路の数学モデルと解析法について学ぶ。	
	基礎から学ぶ森林調査	森林の構造や植生を調査するための方法・技術（樹木の名前、胸高直径や樹高、樹齢の測定、植生調査法）を基礎から学ぶとともに、調査によって得たデータを解析して様々な森林の構造を比較検討し、その結果をまとめて発表する。 なお本科目は、埼玉県林業職員の経験があり、技術士（環境・森林）の資格を有する教員と、博物館および自然保護NGOの職務経験があり、学芸員の資格を有する教員が、それを活かして森林の調査方法について実習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 教養教育に関する科目 自然科学	生態系を知る	農林業生産、ひいては私たちの安心・安全は自然の恩恵“生態系サービス”に依存している。生態系サービスの質と量は多様な生物と生物間相互作用がつむぎ出す生物多様性に支えられている。一方、農林業の営みにともなう土地利用の変化、さらには私たちの生活様式・社会構造の変化も生態系サービスの質と量に大きく影響している。そこで本科目では、生態系の“持続的利用”を考えるため、農林業生産に関わる様々な生態系の構造と機能を解説する。合わせて、生物多様性の価値・重要性、およびその生態学的根拠と現状について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （60 箕口 秀夫／10回） 生態学の歴史的背景、その使命について説明し、授業の進め方と到達目標を確認する。保全の対象として非常に重要な「生態系」について、その考え方や機能について解説する。生物多様性の喪失メカニズムとその理解に必要な基礎知識について解説する。持続的な発展と健全な生態系の維持・管理はいかにあるべきかを検討する。 （53 原田 直樹／1回）様々な生態系についてその特徴を解説する。 （332 板野 志郎／1回）様々な生態系についてその特徴を解説する。 （252 本間 航介／2回）様々な生態系についてその特徴を解説する。 （353 阿部 晴恵／1回）様々な生態系についてその特徴を解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 教養教育に関する科目 自然科学	生命を知る	高等学校の生物学や化学等で学んだ微生物・植物・動物に関する基礎的な知識を確認した上で、農学分野で扱う微生物・植物・動物の生命現象とその利用などについて解説する。 （オムニバス方式／全15回） （333 杉本 華幸／2回）イントロダクション，微生物：タンパク質の構造と機能，その利用（タンパク質，構造－機能） （125 鈴木 一史／1回）微生物：微生物の種類とその利用（細菌，真菌） （334 佐藤 努／1回）微生物・植物・動物：有機化合物の生産と利用（医薬品，化粧品） （335 佐野 義孝／1回）微生物・植物：植物病原の生態と防除（真菌，ウイルス） （49 城 斗志夫／1回）微生物：食品への微生物の利用（発酵，腐敗） （254 大竹 憲邦／1回）植物・微生物：根粒菌と植物の共生（窒素固定 シグナル交換） （128 末吉 邦／1回）植物：栄養生理（養分吸収，同化） （127 三ツ井 敏明／1回）植物：代謝（澱粉，代謝の場） （126 伊藤 紀美子／1回）植物：遺伝子とゲノム，その発現制御 （129 中野 優／1回）植物：遺伝と育種（遺伝，育種技術） （336 三亀 啓吾／1回）植物：分子レベルで考えるバイオマスの利用（植物成分，バイオマス変換） （337 山城 秀昭／1回）動物：動物の生殖科学と繁殖技術（生殖細胞，繁殖技術） （59 杉山 稔恵／1回）動物：動物の内分泌代謝（ホルモン，骨） （244 原 崇／1回）動物：免疫（液性免疫，細胞性免疫）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	自然科学 農業資源を知る	作物や家畜、人と農地及び水や社会関係を含む環境は、農業を持続的に行う上で最も重要な資源である。私たちが直面している食料不足、農耕地の疲弊、資源の枯渇、生物多様性の減少などの問題は、これらの農業資源が適切に開発・利用されていないことと密接に関係している。本科目は農業資源の開発や利用における先端技術や課題は何かについて、生物学、工学および社会科学の視点から解説する。なお、本科目は、国や地方自治体の農業関係機関の職務経験を有する一部の教員が実際の技術開発等の農業支援の経験に基づいた授業を行う。 （オムニバス方式／全15回） （338 平泉 光一／3回）初回ガイダンス、農業経営資源としての農地の現状と課題、地域資源としての農地と土地改良施設の役割 （130 木南 莉莉／1回）農業における人的資源管理（HRM）の現状と課題 （442 古澤 慎一／1回）農業をめぐる共有資源管理とコミュニティ・ビジネス （255 長谷川 英夫／1回）高齢農家の水田・畑作技術をロボットで再現する （339 大橋 慎太郎／2回）農業生産における地域資源の利活用 （57 鈴木 哲也／1回）農業基盤による土地・水の資源化～自然環境の資源化と農業生産～ （425 吉田 智佳子／1回）家畜の生産と繁殖 （131 山田 宣永／3回）資源動物の種類・品種の特徴および育種改良、作物の起源とその多様性、作物の改良と人類の食料を考える （340 深井 英吾／1回）栽培植物とミューテーション （132 岡崎 桂一／1回）資源植物を利用したバイオテクノロジー	オムニバス方式
	人文社会・教育学 「働くことと地域づくり－協同労働の協同組合（ワーカーズコープ）論－」	激な少子高齢化と人口減少に直面し、行政サービスや社会保障制度の持続が危惧される日本社会において、公共サービスの提供主体は、政府・自治体のみならず、他セクターの多様な主体との連携に注目が集まっている。本講義では、その中でも特に、「協同労働」という働き方に焦点を当て、当事者自らが、地域の課題に気づき、仲間と共に仕事をおこす活動を、実践で活躍する方と共に学んでいく。今通常国会では、「協同労働の協同組合」法が検討されており、すでにある全国の様々な実践から、地域における協同労働の必要性が高まっている。講義はグループワークやディスカッションを取り入れながら、学生自身が「地域づくり」の主体者として、そしてこれから社会人として働く際の「働くことの目的」について考え合える内容とする。	
	つながりと絆の社会学	社会学の基本的な概念について、主に人間関係とネットワーク、ソーシャル・キャピタルに関するものを中心に解説し、格差社会、個人化社会といわれる問題を検討する視角を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	教養教育に關する科目	人文学・社会科学	ビジネス書道入門	「字が上手になりたい」と思う人々は結構多い。生まれながらにして人それぞれ手筋があって、生まれながらにして人それぞれ外見や性情が異なるのと、それは同じものである。生まれつき備わった各人の持ち味の中で、本授業では特に「文字を書く時の手くせ」をあらためて見つめ直し、その特質を認識し、そして活用することを第一の目的とする。また、一般的な礼儀作法についても併せて学習する。実技において手本を配布しそれを練習し、希望者には、添削を行う。実技ばかりでなく、ものを鑑賞して見て楽しむ、いわば伝統的心の教育たる面も重視して、そのためのテキストを授業中活用して理解を深める。	
			フランスの文学と歴史	フランス文学を中世から 20 世紀前半まで歴史的にたどり、隣接する諸文化との関係、時代背景を視野に入れて、どのように文学がその時代と社会を映し出してきたかを具体的に概説する。	
			フランスを旅する	2018 年に日仏交流 160 周年の節目を祝い、日本とフランスとの結びつきはますます強くなっている。この科目では、遠くて近い国フランスを知るために、まるで旅をするように、現代フランスの社会・文化・言語を総合的に学んでいく。	
			フランス語オプショナル A	初めて学ぶ人のためのフランス語入門科目である。入門であるので、言葉の仕組みに詳しくなることよりも、フランス語の音に慣れることに重点を置いて練習する。フランス語とフランスに親しみ、興味を持ってもらうことがこの科目のねらいである。教科書に沿ってフランス旅行を想定した会話表現を学習しつつ、フランス語の綴りと発音を習得する。	
			リーガル・システム A	本科目は、これから主として法学を専門的に学ぼうとする者に対し、法学における基本的事項を概括的に解説することを通じて、法学の基礎的な知識（法学の基礎、裁判制度の基礎、および憲法・民法・刑法等の基本的な実定法の基礎知識）を習得させるとともに、法的なものの考え方を身につけさせる（いわゆるリーガル・マインドの涵養を図る）。また、法学専門教育の導入として、後半部の授業については民法入門的な位置づけも併せ持たせることで、第 3 ターム以降の本格的な専門教育のための土台を準備する。	
			リーガル・システム B	本科目は、憲法、行政法、刑法の基本を学ぶことにより、社会における様々な問題を法的に考えるための基礎知識を修得することをねらいとする。 また、判決の読解を通じて、法による紛争解決の実際を学ぶことをねらいとする。	
			英語で学ぶアジア経済	政府（公企業）、外国企業、国内企業を主要アクター（分析単位）と考える開発経済学に基づいて、開発途上国の現状および課題を、理解する。アジア地域の開発途上国を取り上げ、経済発展（経済成長）過程における経済政策上の課題を分析する手法を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	英語で学ぶ企業分析入門	This course's objective is to improve understanding to of Japanese companies by using accounting information. To achieve this objective, we discuss the fundamental role of accounting. Further, we will study how to perform a financial analysis by using actual financial statements. 本授業は会計情報から日本企業に対する理解を深めることを目的とする。この目的を達成するため、会計が果たす基本的な役割について論じるとともに、実際の財務諸表を使ってどのように財務分析を行うかを学ぶ。	
	英語による応用ミクロ経済学	The main concern of this course is the construction of theoretical models. However, the goal of such models is always to learn something about the real world. 本授業は主に理論モデルの構造に焦点を当てるが、このモデルの目標は常に、実社会について学ぶことである。	
	応用情報論	今日における社会や文化のあり方や、心のありようについて考察する。そのために、社会をどう調査し、どう記述するのか。さまざまな情報が文字や映像にメディア化され、どう蓄積されていくか、その方法と記述の仕方について、学ぶ。この授業では、事例として地域と文化、メディアとの関係を重点的に取り上げる。地域メディア研究、社会学、民俗学、文化人類学、映像人類学といった枠組みから離れ、どう社会のリアリティを捉えようとしたかという観点から、さまざまな資料を比較しながら考察する。同じ事象、事件を扱っても、どれくらい異なってみえるのか。分かりやすい事例を扱いながら、その観点や、捉え方、立場について考える。なお本科目は、映像制作の経験を有する教員が、それを活かしてフィールドワークの実際について授業を行う。	
	音と音楽をめぐる科学と教養	音や、音楽・言語などの音を介したコミュニケーションについて、心理学、脳科学、生物学、数学、物理学、工学、文化人類学など、分野にとらわれない幅広い視点から理解を深める。また、このことを通じて「教養」とは何であるか考える。	
	音楽(ピアノ)	ピアノは音楽を学習する時に基礎となる楽器である。この授業は、ピアノを実際に演奏しながら音楽について考え、演奏の基本を理解し、幅広く音楽にふれ、その場にいる人達と音楽を共有していくものである。	
	音楽（作曲）	音楽分野の科目で、基本的にピアノを使い作曲する。作曲は音楽を通し自己を表現する行為である。作曲の基本を理解し、作り上げる音楽を他者と共有することで、自分について、あるいは人間というものについて深く知ることができる。	
	音楽E	ヴァイオリン属、特にヴァイオリン、チェロを中心とした弦楽器の楽器の歴史、楽曲、名演奏者に関する講義を行う。ヴァイオリン、チェロに関する知識を得ることによって、弦楽器による独奏曲、室内楽、管弦楽曲と興味を広げ、西洋音楽に親しむ素地を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	音楽F	クラシック音楽のピアノ作品を取り上げる。ピアニストらが主要なレパートリーにしている作品やピアノ教育の世界で使用される作品など、ピアノ世界で用いられる作品を、実際の演奏を交え、その特徴について考察する。単に録音を聴きながら楽曲を解説するだけでなく、実際の音を聴くことで、生の演奏の臨場感を味わうことで、音楽に対する感覚を磨くことを目標とする。以下の2点を学習目標とする。 1 一つの作品から生み出される様々な音から、表情の豊かさを知覚し、自らの感性をさらに磨くことができる。 2 ピアノ作品の全容を把握することができる。	
	音楽R	授業時に、ロック音楽を聴いたり、あるいはDVD画像を見たりする中で、聴覚と視覚を通じた感覚的な印象から、その都度のテーマへと、学生諸君の「感受性」や「印象」を具体化することを通して、概念化する力を高めるとともに、ロック音楽が果たした文化的な役割についての理解を深めるための授業である。	共同
	技術日本語演習	科学技術レポート・論文、機器・システムのマニュアルなどの技術文書では、論理的かつ簡潔な文章表現と構成が求められる。それに必要な日本語の「表現法」と「文章構成法」について、演習しながら学ぶ。本演習では、経験的に蓄積されてきたテクニカルライティングの手法だけでなく、談話（文章）論などの最新の言語学、および計算機科学の自然言語処理の成果も取り入れて、レトリック（修辞学）を系統的かつ科学的に学習する。	
	宮崎アニメにおける文明と自然	宮崎駿のアニメーションの根底には、自然と文明との対立と調和及びその中で人間がどう生きていくかという基本的モチーフがひそんでいる。それぞれの作品の中で、このモチーフがどのように展開してゆくのか、具体的作品に即して考えていく。	
	教養を考える	大学教育、アイデンティティ、社会的ニーズ、高校と大学と社会との接続などについての理解をふまえて、大学での教養教育において何が学べるのか、何を学びたいのか、なぜ学ぶのかについて、深く考察する。	共同
	教養教育としての教育学入門	近年、教育を巡る問題は多様化している。幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校までの成長過程に合わせた公教育サービスが設定されているが、近年の教育を巡る変化や問題に十分に対応しているとはいえない。加熱する受験競争やいじめの問題など深刻な問題も多く、その対応に迫られている。 なお本科目は、担当教員が高等学校において地歴・公民教育を33年間実践してきた経験や資料をもとに、現在の学習者が置かれている状況を分析し、その問題の本質を探究する。公教育サービスや教育行政のこれからのあり方を明確にしながら、家庭や社会における教育の役割を考察する。また、現職の幼小中高のゲストスピーカーを迎え、現場における実践について考察をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 人文社会科学・教育科学	現代思想論	現代思想とはなにか？ この問いに対しては、おそらく専門家のあいだでも百人百様の答え方があるだろう。しかし、最低限の共通理解として一定の整理と展望を与えることはできるし与えるべきでもある。本講義は、20世紀の世界大戦と冷戦体制の崩壊というふたつの歴史的な区切りを指標としながら、従来ヨーロッパ中心だった哲学思想がグローバリゼーションのなかで複雑多様化するプロセスとして現代思想の輪郭を描き出す。本講義は、旧来の哲学が今ますます時代の要請に即して変貌しつつある現代思想の関心を反映した内容となる。出てきた哲学者・思想家の基本概念をおおよそ説明できるようになること、独力で主要なテキストを読めるようになること及び基本概念の理解を通じて、自分の言葉として当該の概念や術語を駆使したり応用したりできるようになることを到達目標とする。	
	現代社会と科学技術	現代において科学技術のパワーは著しく増大し、一方でそのリスクも増大してきた。科学技術と社会との関わりはますます深くなり、そこで生ずる問題も複雑化している。この授業では、現代の科学技術のおおまかな歴史を学び、そのうえで科学技術と社会との関係についての主要な論点を検討する。	
	現代社会論	社会学は「現在(いま)」を呼吸する学問である。この講義では、現代日本社会が抱えている諸問題と、受講生一人ひとりが抱えている問題をできるだけ結びつけながら論じてゆく。まず社会学の視角の特徴をおさえた上で、とくにジェンダーと家族、環境や災害の問題、地域社会、教育や仕事、若者意識などの身近で具体的な現象を手がかりにして、現代社会が抱える問題点を理解するように努めたい。単なる知識の暗記ではなく、自分で考えるきっかけになるように、様々な問いを投げかけつつ授業を進行してゆきたい。	
	現代哲学演習	20世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガー（1889-1976）の代表作にして20世紀最大の哲学書とも言われる『存在と時間』（1927年）を丁寧に読み進めることで、現代哲学の礎（いしづえ）を築いたハイデガーの「存在の思想」を把握し再考することを試みる。	
	司法・犯罪心理学	非行・犯罪を行う人の心理を理解・支援するための、非行・犯罪に係る法制度や理論的な枠組みについて学習する。また、少年鑑別所や刑務所で非行少年や受刑者と接してきた教員による実践的な知見について学ぶ。	
	社会学的思考法	あなたは「社会問題とは何か？」と問われて何と答えるだろうか。例えば辞書では「社会として解決すべき問題。また社会の矛盾から生ずる諸問題」（『広辞苑』第7版）、「社会生活を営む上の矛盾・不合理から起こる問題」（『新明解国語辞典』第7版）と定義されている。そもそも、社会の矛盾、解決すべき問題とは何で、それを認識するのは誰なのだろうか？これでは、あたかも自動的に社会問題が「生じたり」、「起こったり」するようだ。本講義では、冤罪、原発被害、水俣病（熊本水俣病、新潟水俣病）を事例として取り上げて、社会問題とは何か、社会学的の視点から考察していきたい。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	宗教思想史入門	近代以降ヨーロッパにおけるキリスト教の地位低下に伴い、それまで自分たちの宗教以外は異端か異教とみなしていたのに対し、自らの宗教を多くの宗教の一つとする考え方が広がった。そしてヨーロッパの人類学者、言語学者、文献学者、社会学者、心理学者たちは世界中の宗教を客観的に考察するようになり、宗教学——宗教を理解するための手段——という学問が形成された。宗教学は信仰者の立場からではなく、中立的な立場からさまざまな宗教現象を取り上げて考察するもの。本講義では、宗教学の諸領域の基礎知識について説明した後、諸宗教の成立過程、神概念および教義や儀礼などの特徴について解説する。関連するさまざまな映像も適宜鑑賞予定である。	
	少数民族の言語と文化	サハ語は東シベリアで話されている言語の1つである。約45万人の話者を有する。本講義はサハ語文法の概要を学ぶことを中心とし、あわせてサハ民族を含む日本周辺の少数民族の文化について述べる。	
	情報セキュリティと法Ⅱ（IT社会制度）	IT社会、ネットワーク社会に必要な法律や経済を中心とした社会科学的知識全般の授業。 時事問題やコンピュータ・インターネット・IT機器の利用に際に生じる法律問題に重点をおく。 コンピュータ・ITシステムやネットワークに関して、社会科学系学部出身者の立場から技術部門の人間と対等に話ができると共に、法律知識に基づいての提言・プレゼンができるようになることを到達目標とする。	
	心と社会	人は他者と係わり合いながら、様々な社会的関係の中で日常生活を送っている。そこには多くの心理的プロセスが潜んでいる。それは、自己の成り立ち、他者についての印象形成、説得を受けること、人を助けること、人を傷つけること、人を好きになること、人を支えること、人と交渉すること、公正さへの関心、集団心理など多様である。この講義では、日常経験の中で実感できる社会心理学的トピックスを取り上げて解説する。社会的関係の中で働く心理学的作用について、どのような研究がなされ、どのように理解されているのかを知り、そうした知識を活用して日常をみる目を養うもの。講義で取り上げた概念や概念間の関係、理論等に関する記述の正誤を判断できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
知識・理解科目	教養人文社会・教育科学	心理学	心理学には多くの領域が含まれ、多様なテーマが扱われる。講義ではそのうちの主なものを取り上げて、心理学という学問を概観して行く。人の心の発達、対人関係の形成、外界認識と思考、心の危機と回復、社会や集団のメカニズム等のテーマについて解説し、複数の視点を紹介しながら多面的な理解を目指す。また、心理学は科学の手法を用いる学問でもある。講義の随所で実証的研究を引用し、心理学の方法論と仮説検証の枠組みについても基礎的な理解を目指す。講義を通じて受講生自らの「心」に対する気づきや考察を深めてほしい。心理学の目的と、方法論としての仮説検証の枠組みについて理解し、説明することができること、日常生活現象を心理学的概念に置き換え、一つまたは複数の心理学理論の立場からそのメカニズムを説明することができること、日常生活現象に対する自身の意見や態度を、心理学的知識を足がかりにして深め、相対化することができることを到達目標とする。	
		心理学概論	「心理学」のさまざまな領域の研究について紹介することを通して、「心理学」とはどういった学問なのかを理解することを目指す。入門・基礎的な内容についての講義を中心に、受講者が参加する内容も一部に取り入れながら進める。基本的に、大学等で「心理学」を学んでいない人を対象とした入門的な科目である。授業における議論を通して、初学者が心理学の基礎的な内容や考え方を理解できるようにすることを科目のねらいとする。	
		心理実習	公認心理師受験資格を希望する者のための実習である。臨床心理学および、その周辺領域に関わる学外の施設にて、現場で働く心理職や職員より指導をうけつつ、体験的に学習する。	共同
		神経・生理心理学	この授業では、公認心理師にも求められている知識である「脳神経系の構造及び機能」「記憶、感情等の生理学的反応の機序」「高次脳機能障害の概要」について、講義および映像資料などを用いて紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	人間学入門	「人間学入門」は、哲学や倫理学とは違う角度から、理性ではなく、つまり自然な生き方をしている私たちの人間の「心と身体」に即して、人間とは何かを追究する授業である。 人間学の分野には、人間学はもちろん、哲学、西洋哲学史、現代思想、科学思想史、倫理学、美学・芸術論など多くの領域が含まれている。しかし、これらに共通するのは、人間の知的な活動や文化の営みについて、「文献」研究を通して、「考え方」や「コンセプト」まで掘り下げて、その本質を理解しようとする方法である。 人間そのものが、理性的でもあり、感情的でもあり、将来への希望に満ちていても、不安に苛まされたり、自由を求めながらも、自由の荒野に怯えもする、極めて矛盾に満ちた存在であることは、誰しもが実感していることと思う。目の前の具体的な美しい姿や愛らしいものに魅せられもするが、他方、眼で捉えることのできない「愛」や「絆」を求めているのも事実である。多くの人から評価される仕事をしたいと願う反面、自分の好きなことができるのに越したことはない、と開き直りはするものの、その好きなことを、食べてゆく仕事にすることには二の足を踏むのが私たちの実態でもあるだろう。人間学では、私たち人間が生きている限り抱え込むことになる多くの「謎」や「葛藤」そして「矛盾」などについて、いろんな角度から切り込んで、「文献読解」を通して明らかにしてゆくが、この授業では、そうした切り込み方の入り口へ皆さんを招待したいと思う。	
	人間関係論	本授業科目では、人間関係形成の要因や集団（学校や組織）の意思決定などを中心に取り扱う。対人関係や集団における個人の問題に対する心理学的見地からのアプローチや組織論・組織学習からの人間関係の理解についても事例を交えながら紹介する。講義全体を通じて、多角的な視点・観点からよりよいコミュニケーションのあり方、人間関係について議論（考察）する。	共同
	人文系フロンティア	人文科学諸分野の学問の最前線（フロンティア）に集中的に触れ、今後の大学生活における主体的・能動的な学習の基軸とするためのオリジナルな課題の発見をめざす。専門分野を異にする人文学部の教員が、自身の現在の研究やその専門分野の研究動向を紹介する。その先端的な講義の中から、履修者が受講する講義を自ら主体的に選択し組み合わせ、独自の課題を見出す。	
	人文系展開科目B	現実社会の中で心理学や神経科学（いわゆる脳科学）の成果が扱われるときにどのような問題が起きるのか、現在および過去の実例を挙げて紹介する。心や脳に関する科学的知見を専門家ではない市民が適切に活用するために必要な教養としての科学リテラシーを育む。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 人文・社会・教育科学	人文系展開科目C	私たちの「私」とは、どこに、どのようにして見定められるのであろうか？ 「心」をもって私自身だというように答える方もいるだろう。でも、身体はどこを探しても、「心」などは見つかることができない。「考え方」や「思惟」をもって私自身だ、とお考えの方もいるであろう。しかしながら、「心」にしても「考え」にしても、時と場合に応じて、いろいろと変わってしまう。変わることのない「私」自身はどこに想定されるのだろうか？ 「意識の同一性」だとおっしゃる方もいるだろう。ところが意識でさえ、眠ったり、酩酊したりするなら、途切れることもある。「身体」だと主張する方もいるだろう。そう、今や身体は、人間の尊厳そのものと言っても過言ではない。簡単に触れたり、突いたりしてはいけない、尊厳そのものの具体化でもある。しかしながら、身体は、病んだり、汚れたり、傷ついたりしたりもする。その時、「私」自身も穢れたり、傷ついたりするのだろうか？ こうした「心」と「身体」そして「私自身」が解きがたく、とはいえないなやかに結ばれているあり方を、「感性」を媒介として、解き明かそうとする授業である。 （オムニバス方式／全15回） （272 江畑 冬生／3回）授業全体のガイダンス、言語—身体が生み出し、心を伝える（言語学） （76 堀 竜一／1回）「原初の形相」への憧憬（近代文学） （114 細田 あや子／1回）異時空間を交錯するキリストの身体（美術史） （341 白井 述／1回）私たちの身体性はどのように獲得されるのか（心理学） （6 番場 俊／1回）小説と顔のコミュニケーション（表象文化論） （68 松井 克浩／2回）災害からの復興と「感情」のゆくえ（社会学） （271 宮崎 裕助／1回）自然の多様性と美の形（現代思想） （317 太田 紘史／2回）分析美学入門（心の哲学） （318 福島 治／1回）共感と援助の動機（社会心理学） （315 廣部 俊也／1回）感性を拡大する機構としての画題・修辭・もじり（江戸文学） （7 石田 美紀／1回）娯楽と教育（映像論）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	人文系展開科目D	現在の新潟県にほぼ対応する越後・佐渡地域を対象として、その歴史や民俗、文化等について多面的な方法で探っていく科目である。人文学部社会地域文化主専攻、歴史文化学主専攻の担当教員を中心として、多彩な専門分野の教員によるオムニバス形式で開講される。 （オムニバス方式／全15回） （257 中村 元／6回）ガイダンス、佐渡と越後の地域の全体像を概観する（ガイダンス2）、レポートの書き方について、全体のまとめ （343 中本 真人／1回）佐渡・越後の芸能について、その担い手と継承について考える （133 白石 典之／1回）先史時代における新潟と北東アジア地域との日本海交流を、考古学から追究する （443 清水 香／1回）歴史時代における新潟と北東アジア地域との日本海交流を、考古学から追究する （47 原 直史／1回）日本海海運が地域に何をもたらしたのか、港町に視点をすえて探っていく （342 飯島 康夫／2回）新潟における養蚕の展開 （319 加賀谷 真梨／1回）佐渡の民俗芸能の特徴を沖縄の民俗芸能との比較から明らかにする （313 堀 健彦／2回）佐渡・越後の絵図・地図と地誌	オムニバス方式
	人文系展開科目J	小説や詩など、日本近代文学を取り上げ、映像表現、音声表現と比較しながら、活字印刷された言語表現の特徴について論じる。以下の3点を学習目標とする。 ①映像表現などと、言語表現の違いについて理解する。 ②小説や詩の読解を通じて、言語表現の特徴を理解する。 ③種々の文化表現について、知見を広げる。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 人文系・社会科学・教育学 科目	人文系展開科目K	江戸時代全般にわたるさまざまな文芸作品を紹介しながら、その特徴を一つの流れとしてつかめるようになることを目指す。特にこの講義では「男にとって文学とは何か」「文学にとって男とは何か」をテーマとする。江戸時代は、男達が長い平和に浸って、中世までの殺伐とした男らしさとはまた違う、新しい男らしさを模索した時期である。そのことは当時の文芸作品に反映されているし、そもそも男が俗文学に積極的に関わったのも、江戸時代が最初であった。好ましい男らしさとは何か、また「男子の一生は文学の課題たりえるのか」といった問題が長い時間をかけて検討された時代だったのである。そういう時代の風潮を文学はどう映し出していったのか。なるべく多くの事例を紹介したい。 （オムニバス方式／全15回） （315 廣部 俊也／4回）オリエンテーション、日本の古典文学に見られる遊びの要素を紹介し、さらに「文学」それ自体の遊びとしての意味も考える。 （271 宮崎 裕助／5回）「遊戯論原論」遊戯あるいは遊戯性に関して追究することの意義と方法や遊戯論にまつわるパラドックスやアポリアについて考察する。「遊びの起源」について心理学やその周辺領域における実証的研究の例を参照しながら考察する。 （6 番場 俊／6回）演劇における笑いということについて、その仕掛けを中心に考える。絵画と遊びの関係をルネサンスから現代に至るまでのヨーロッパ絵画と日本絵画に探る。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	人文超域科目C	現在の新潟県にほぼ対応する越後・佐渡地域を対象として、その歴史や民俗、文化等について多面的な方法で探っていく科目である。人文学部社会地域文化主専攻、歴史文化学主専攻の担当教員を中心として、多彩な専門分野の教員によるオムニバス形式で開講される。 （オムニバス方式／全15回） （257 中村 元／6回）ガイダンス、佐渡と越後の地域の全体像を概観する（ガイダンス2）、レポートの書き方について、全体のまとめ （343 中本 真人／1回）佐渡・越後の芸能について、その担い手と継承について考える （133 白石 典之／1回）先史時代における新潟と北東アジア地域との日本海交流を、考古学から追究する （443 清水 香／1回）歴史時代における新潟と北東アジア地域との日本海交流を、考古学から追究する （47 原 直史／1回）日本海海運が地域に何をもたらしたのか、港町に視点をすえて探っていく （342 飯島 康夫／2回）新潟における養蚕の展開 （319 加賀谷 真梨／1回）佐渡の民俗芸能の特徴を沖縄の民俗芸能との比較から明らかにする （313 堀 健彦／2回）佐渡・越後の絵図・地図と地誌	オムニバス方式
	水彩画表現入門	水彩画の描画方法など、具象絵画表現の観点から、モノを正確に捉えるため方法の留意点や描画方法などを基礎から学ぶ。	
	生涯学習概論	現代社会において「生涯を通して学ぶ」ことが求められるのはなぜか。 現実社会では、人々はいかなる動機と目的において、どんな機会や場所で、どのように学んでいる（あるいは学んでいない）のか。そこには、いかなる意義や可能性、克服すべき課題が見出されるのだろうか。また、そこで目指されるべき、より望ましい学びとは何か。そして、そのような学びが実現するには、どのような環境の醸成や教育的支援が求められるのだろうか。 本授業では、以上のような問いに対して、国内外の生涯学習論、欧米の成人学習／教育の理論と実践、日本における社会教育の展開、という三つの領域を足場に、理論・実践の両面からアプローチする。具体的には、公民館・博物館・図書館などの生涯学習施設、大学、民間教育文化産業の事業、市民活動やNPO活動、地域住民の自主的活動等を主たる考察対象とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	人文学・社会科学・教育学 西洋文学ⅠⅡ	近代ドイツの文学作品を読みながら、ドイツやヨーロッパの文化と社会、文学作品の構造と読み方、近代文芸思潮、古典的作品を現代人の問題意識とどう結びつけるかなど、さまざまな問題を考えていく。 ドイツ文学の有名な小説の中から青年を主人公にした作品を2つ読む。 ヘルマン・ヘッセ（1877－1962）による『デミアン』は第一次大戦直後の1919年に出版され、大戦終了後の荒廃した社会にあって生きる方向性を見失っていた若者たちに鮮烈な印象を与えた。出版されてちょうど100年経つ今年、ドイツから遠く離れた日本においてこの小説は皆さんにどんな印象を与えるだろうか。 ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ（1749－1832）の小説『若きウェルテルの悩み』（1774年出版）は、タイトルは非常に有名であり、恋に悩んだ若者が自殺するという筋書も知っている人は多いが、ちゃんと作品を読んでいる人はあまりいないのではないだろうか。著者自身の体験（婚約者のいる女性への恋）に基づいたこの作品を読みながら、約250年前のドイツ人の若者と現代日本に生きる皆さんが、どこで共通しどこで相違しているかについて考えていきたいと思う。	
	組織マネジメント論	マネジメントの対象は、仕事であり、組織であり、人である。大学で学ぶ経営学の基幹科目として、経営管理論、経営組織論、経営戦略論等々があるが、本講義ではそれらを体系的かつ俯瞰的にとらえながら、組織を通じて実行される目的達成のためのプロセスである「マネジメント」の本質について学習していく。 なお「マネジメント」は経営学における様々な学問領域と関連した包括的な概念であることから、本講義ではそれら学問領域の成果についても幅広く触れる。特に、組織内部における人々の行動や、その力をいかに引き出すかといったことが「マネジメント」において重要な意味を持っていることから、本講義においては、「ミクロ組織論」と呼ばれる組織内部における人々の行動に焦点を当てた研究アプローチを中心としつつ、社会集団としての組織の構造に焦点を当てた「マクロ組織論」、組織を取り巻く環境変化に対応した基本方針の策定と関連した「経営戦略論」なども含めて学習していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	知的財産法Ⅱ（産業財産法）	特許法は、産業の発達を目的とする法律であり、特許法の保護のレベルは各国の産業の発展状況に応じて異なりうる。一般に発展途上国では、他国の先進技術を自国に取り込み自国の産業を育成しようとはかるため保護のレベルは低くなり、逆に先進国では、膨大なコストを投下して開発した先端技術が容易に模倣されることを許しては技術投資へのインセンティブを殺ぐ結果となるので保護のレベルは高くなる。日本の産業界はこれまで品質のよい大量生産品を安価に提供することで世界の市場へ進出して行ったが、こうした産業形態は模倣が容易であり、実際、これらの分野では日本はアジアの新興工業国にどんどん追い上げられている。今、日本の産業界に求められているのは他国が容易に真似のできない高付加価値の工業製品を開発することであり、その法的な担保として、プロパテント（特許強化）政策が叫ばれているのである。こうした事情を反映して、「遺伝子特許」「バイオテクノロジーの保護」「ビジネスモデル特許」「ソフトウェア特許」などの言葉が連日、新聞に踊っている。こうしたなかであって、発明者の利益を守りつつ、技術開発への企業のインセンティブを高め、ひいては産業がもっともよく発達するような制度設計・解釈論を諸君とともに考えていくのが、本講のねらいである。	
	地域学を身に付け教員を目指す	授業では、良寛「愛語」会津八一「学規」相馬御風「祭文」「長善館学則」など、新潟県ゆかりの文人の人と書、文芸、学問への姿勢を資料として取り上げる。社会、国語、書芸術、道徳、総合学習など横断型授業が展開できる教員の資質育成を目指す。また、よく言われる「読み書き」に着目し、それを人前で表現実践する主体的自己表現力の育成を目指す。 教員の職業は教育、人を教育する、人材育成、自己の磨き上げ、他者への感化力、地域貢献、公共性、健全な国家の保全等目的意識はその人物によってかなり差が出るものであろう。本講義では上記のことをキーワードとして、加えてその達成のための具体的な手段について受講生と考えを広げていくものである。これだけは欠かせないという授業展開上必要なことは何か、教員を目指す初期の段階の学びとしてこの点に留意する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目	人文・社会・教育 地域芸術開発論	美術は美術館の中だけで鑑賞するものではない。美術はもっと身近なところにもある。本授業ではこうした前提に立ち、主として地域アートプロジェクトに着目し、地域の芸術活動の意義や課題、可能性について、美術の各分野を専門とする7人の担当者によるオムニバス形式で様々な視点から論じる。 （オムニバス方式／全15回） （82 丹治嘉彦／3回）地域におけるアートの意味と可能性、まとめ （83 柳沼宏寿／2回）アートと教育 （291 橋本学／2回）デザイン教育の可能性、実社会での商品開発への関わり （293 田中咲子／2回）地域アートの原点：祭礼と芸術 （81 佐藤哲夫／4回）アートとコミュニケーション、美術教育とコミュニケーション、アーティスト・イン・レジデンス、カメラオブジェスクラ・プロジェクト （292 永吉秀司／2回）現代日本画事情、日本画の新たな取り組み：ワークショップの実践	オムニバス方式
	哲学入門	西洋哲学の基本的な主題と思考方法をいくつか取り上げて講義する。講義内容は主題別の構成をとるが、哲学史的な背景についても適宜説明を補いながら進める。〈自分自身で哲学的に考えること〉・〈哲学の知識を身につけること〉という二つのアプローチを通じて、論理的・批判的思考力を養うとともに洞察力や解釈力を鍛え、個別性と普遍性とに豊かに開かれた精神を形成してゆくことをめざす。	
	特殊講義（コンプライアンス）	コンプライアンスとは何か。コンプライアンスが社会的に要請される理由とは何か。企業活動、経済活動等におけるコンプライアンスに必要な法令を基本的かつ体系的に解説する。	
	特殊講義（政策過程論）	本講義は、政策学の基礎となる内容を講ずる。政策学は学際性を大きな特徴としており、行政学、政治学、行政法、社会学、統計学、経済学などの諸学問分野の内容の一部が含まれている。またその対象とする領域はあらゆる政策分野にまたがる。本講義では個別政策分野に関する知識ではなく、公共政策について論じられる総論的な内容を取り扱う。	
	日本近代文学H	芥川龍之介の文学作品を読む。その中でも、芥川の開化期物作品（文明開化の時代を背景とする歴史小説）を具体的に読み進め、芥川文学の魅力、芥川文学の今日的意義・価値、さらには文学そのものの価値・意義についても考察する。	
	日本古典文学N	平安後期に成立した『夜の寝覚』をとりあげる。作品として注目されることのない時期があったものの、現在では多くの研究者を惹きつけている。本授業では、この作品が、それ以前の作品をいかに受容し、独自の世界を創り上げていったかを読み解くことで、『夜の寝覚』の魅力に少しでも迫りたい。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	日本語教育Ⅰ－A	この授業では、日本語を母語としない人たちに外国語として日本語を教えることについて学び、考える。日本語そのものを考察するとは、日本語を英語その他の外国語を見るときと同じような視点から観察するということである。観察対象は、日本語の音、日本語の語彙、日本語の文、日本語の文章という具合に、徐々に大きな単位へと進めていく。授業は教員の講義というよりもむしろゼミに近い形で進めていくため、考えたことを積極的に発言することが重要で、それ自体が評価の対象となる。日本語の音、日本語の語彙、日本語の文というそれぞれのレベルにおけるシステムについて、実際の日本語のデータを示しながら分析ができるようになる。また、自身が理解するだけでなく、それを日本語学習者に簡潔に説明できるようになることを到達目標とする。	
	日本国憲法	法学一般に関する概略を説明するとともに、最も重要な法律である憲法について、具体例を用いて講義する。法律、特に憲法は、自身の生活に関係ないものと考えがちであるが、憲法は常に身近に存在しているものである。憲法というものは、これまで耳にしたことはあるものの、本格的に学ぶ機会はなかったはずである。具体例を用いながら、憲法の基本的内容について全体的に理解することを目指す。	
	日本文化史	本講義では、まず日本列島の地理的環境を把握し、その中で文化伝来の可能性を考える。次に日本の文化（広い意味の文化で、文学、芸術工芸のほか、政治、宗教なども含む）の中から、仮名文字、神話、トイレ、子どもの教育などのテーマを取り上げ、検討する。	
	日本文化論	学校教育の荒廃が指摘されてから久しい。ここでは、各教科・専門教育重視の学習形態では学び得ない日常の一般常識について、とくにわが国ならではの文化的特色や慣習に着目し、改めて時間をかけて見つめ直すことを第一の目標とする。 講義内容を概観すると、 ○急速に失われつつある伝統文化を、「みやび」「和」「味」「趣」等をキーワードとして概論する。 ○手仕事の良さにつき、「手書き」文化を中心に論ずる。 ○手紙の正しい書式、見舞状・のしの表書等日常生活の基本的なことながら、そして卒業後社会に出て役立つ実践的な内容に触れる。 ○国語について美しい響き・文字の成立ち・書き方について論じる。	
	乳幼児心理学	しゃべることのできない乳幼児がどのような心的世界を持つのか、あるいは発達初期における「心」とはそもそもどのような状態であるのかについて、実験心理学や発達心理学、神経科学などの諸分野における学術的知見を紹介しながら、講義形式で解説、考察していく。	
	認知と行動	心理学のトピックスのなかから、人間や動物の感覚・知覚（とくに視覚と聴覚）、記憶のしくみ、コミュニケーションと言語能力、睡眠と体内時計、そして認知や行動の障害などをとりあげ、解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	人文学部 美術史	古代ギリシア・古代ローマ・キリスト教美術・ロマネスク・ゴシック・ルネサンス初期までの西洋美術の流れを辿る。各時代の造形の特色と理念、社会との関連を理解する。到達目標は、作品を目の前にしたときに、その作品が成立した時代を特定し、社会背景や時代的特色を踏まえて作品について説明できると同時に、作品について多角的な見方ができ、それを客観的に分析し、説明することができるようになることが望ましい。様々な作品を鑑賞、また参考文献等での学習が必要となる。	
	文学D	「文学」を「研究」することは、はたして可能なのか？ 近代に誕生した「小説」というジャンルに注目し、古典的な文学作品を読みながら考える。とりあげる作品は、ドストエフスキーの長編小説『白痴』（1868年）である。文学研究の可能性そのものを問う授業である。文学を読むか読まないかは、つきつめれば単なる「趣味」の問題にすぎない。しかし大学では、その「文学」を「研究」し、「教育」しようとする。「趣味」としての読書と「学問」としての文学研究はどこが違うのか？ そもそも、文学研究は「学問」たりうるのか？ この講義では、そういった素朴な疑問からはじめ、古典的な小説を読みながら、「文学」という営みの人間学的な意味を探るとともに、最終的には、「近代」という時代と私たちの関係を再考することをねらいとする。	
	文学E	～準拠する文学～江戸時代の文学を中心に扱いながら、古典文学など既存の作品を利用して、新しい作品を作る方法と、その発展について考察する講義。今回は特に、「語り」の構造について考えつつ、それを「引用」の問題に引き寄せて捉えることで、文芸作品における虚構性について分析を深めていきたい。	
	領域融合・超域科目J	現在の新潟県にはほぼ対応する越後・佐渡地域を対象として、その歴史や民俗、文化等について多面的な方法で探っていく科目である。人文学部社会地域文化主専攻、歴史文化学主専攻の担当教員を中心として、多彩な専門分野の教員によるオムニバス形式で開講される。 （オムニバス方式／全15回） （257 中村 元／6回）ガイダンス、佐渡と越後の地域の全体像を概観する（ガイダンス2）、レポートの書き方について、全体のまとめ （343 中本 真人／1回）佐渡・越後の芸能について、その担い手と継承について考える （133 白石 典之／1回）先史時代における新潟と北東アジア地域との日本海交流を、考古学から追究する （443 清水 香／1回）歴史時代における新潟と北東アジア地域との日本海交流を、考古学から追究する （47 原 直史／1回）日本海海運が地域に何をもたらしたのか、港町に視点をすえて探っていく （342 飯島 康夫／2回）新潟における養蚕の展開 （319 加賀谷 真梨／1回）佐渡の民俗芸能の特徴を沖縄の民俗芸能との比較から明らかにする （313 堀 健彦／2回）佐渡・越後の絵図・地図と地誌	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 人文社会科学・教育科学	領域融合・超域科目N	私たちの「私」とは、どこに、どのようにして見定められるのか？ 「心」をもって私自身だというように答える方もいるだろう。でも、身体はどこを探しても、「心」などは見つけることができない。「考え方」や「思惟」をもって私自身だ、とお考えの方もいるだろう。しかしながら、「心」にしても「考え」にしても、時と場合に応じて、いろいろと変わってしまう。変わるものではない「私」自身はどこに想定されるのか？ 「意識の同一性」だとおっしゃる方もいるだろう。ところが意識でさえ、眠ったり、酩酊したりするなら、途切れることもある。「身体」だと主張する方もいるだろう。そう、今や身体は、人間の尊厳そのものと言っても過言ではない。簡単に触れたり、突いたりしてはいけない、尊厳そのものの具体化でもある。しかしながら、身体は、病んだり、汚れたり、傷ついたりしたりもする。その時、「私」自身も穢れたり、傷ついたりするのか？ こうした「心」と「身体」そして「私自身」が解きがたく、とはいえないなやかに結ばれているあり方を、「感性」を媒介として、解き明かそうとする授業である。学問的には、「美学(aesthetic)」を、本来の語義である「感性学」として捉えることによって、美学・芸術論はもとより、美術史、心理学、人間学、文学、表象文化論、哲学のそれぞれの分野からのアプローチによって、私たちの「感性」こそが、身体を媒介として、外部の環境世界や景色と、内面として想定される「気分」や「気色」とを一体化させる働きをしていることを明らかにしようとする授業である。 （オムニバス方式／全15回） （272 江畑 冬生／3回）授業全体のガイダンス、言語——身体が生み出し、心を伝える（言語学） （76 堀 竜一／1回）「原初の形相」への憧憬（近代文学） （114 細田 あや子／1回）異時空間を交錯するキリストの身体（美術史） （341 白井 述／1回）私たちの身体性はどのように獲得されるのか（心理学） （6 番場 俊／1回）小説と顔のコミュニケーション（表象文化論） （68 松井 克浩／1回）災害からの復興と「感情」のゆくえ（社会学） （362 杉原 名穂子／1回）原発と向き合うコミュニティと人々（社会学） （271 宮崎 裕助／1回）自然の多様性と美の形（現代思想） （317 太田 紘史／1回）分析美学入門（心の哲学） （318 福島 治／1回）共感と援助の動機（社会心理学） （363 阿部 ふく子／1回）対話の哲学（哲学） （315 廣部 俊也／1回）感性を拡大する機構としての画題・修辭・もじり（江戸文学） （7 石田 美紀／1回）娯楽と教育（映像論）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目 人文社会科学・教育科学	領域融合・超域科目Q	現実社会の中で心理学や神経科学（いわゆる脳科学）の成果が扱われるときにどのような問題が起きるのか、現在および過去の実例を挙げて紹介する。心や脳に関する科学的知見を専門家ではない市民が適切に活用するために必要な教養としての科学リテラシーを育む。	
	領域融合・超域科目R	小説や詩など、日本近代文学を取り上げ、映像表現、音声表現と比較しながら、活字印刷された言語表現の特徴について論じる。	
	領域融合・超域科目S	「遊びをめぐる五つの考察」と題して担当教員5人のそれぞれの分野で「遊び」の理論とその実践について考察する。一つのテーマを巡る多数の素材と方法論に触れることで、思考の幅を広げてもらうことを科目のねらいとする。 (オムニバス方式／全15回) (315 廣部 俊也・7回) オリエンテーション、日本の古典文学に見られる遊びの要素を紹介し、さらに「文学」それ自体の遊びとしての意味も考える。「遊戯論原論」遊戯あるいは遊戯性に関して追究することの意義と方法や遊戯論にまつわるパラドックスやアポリアについて考察する。 (271 宮崎 裕助／2回) 「遊びの起源」について心理学やその周辺領域における実証的研究の例を参照しながら考察する。 (6 番場 俊／6回) 演劇における笑いということについて、その仕掛けを中心に考える。絵画と遊びの関係をルネサンスから現代に至るまでのヨーロッパ絵画と日本絵画に探る。	オムニバス方式
	倫理学入門	倫理学とは、道徳心を涵養する学問でも、徳目を覚える学問でもありません。日常を振り返って、習わし、習慣、常識とされていることについて、本当にそうだろうかと考えて、無意識的な行動規範を自覚的にすることこそ、倫理の意義である。この授業では、そうした何となく則っている行動規範を、本当にそうなのか検証して、自覚化するために考えたいと思う。	
	臨床心理学概論	臨床心理学とは、何らかの心の問題を抱えたひとへの支援を行うための、また、ひとびとの心の健康の増進を目指すための学問分野である。この講義では、臨床心理学の代表的な理論と方法、また、発達段階により生じやすい心理的困難とその支援について学ぶ。	
	歴史学H	中国という国がいかなる歴史を経て形成されていくか、中国古代の政治・社会・文化を取り上げながら考えていく。また、古代中国の歴史に触れながら、中国という国が持つ多面性についても考える。具体的には、新石器時代から隋唐期頃までの時期を対象として、王朝の成立や滅亡の状況を中心に焦点を当てていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
知識・理解科目	人文社会科学・教育科学	歴史学 I	本講義は、前近代における朝鮮半島の歴史と文化を取り扱う。前近代（紀元前後から19世紀半ばに至るまで）の朝鮮半島の歴史と、その過程で育まれた様々な伝統文化について概説する。朝鮮半島の歴史と文化の特徴について、多面的に理解することを目指す。なお、到達目標は次のとおり。 1 朝鮮半島の前近代史について、基礎的な説明ができる。 2 朝鮮半島の伝統文化について、基礎的な説明ができる。 朝鮮半島の自然と環境、先史・三国時代・南北朝時代の歴史と文化、高麗時代の歴史と文化及び朝鮮王朝時代の歴史と文化の順で講義を行う。	
		歴史学 Q	朝鮮半島からみた20世紀 「帝国」から植民地への転落、解放と分断、南北対立、社会主義、軍事政権、経済成長・民主化。20世紀の朝鮮半島では世界史の縮図ともいえるような、さまざまな錯綜する動きが展開した。この授業では20世紀という時代を朝鮮半島に視点を置いてふりかえる。	
		歴史学 S	中世から近代に至るまでの西洋社会において生じた宗教と権力、民衆世界との関わりを「魔女」という観点から読み解き、それが歴史の展開において果たした意義について論じる。主な検討対象はドイツ語圏となる。	
		歴史学 V	現代先進諸国に見られるような民主主義は、当初から高度に成熟した状態で急速に成立した訳ではない。それは主に近代西洋諸国において、現在よりも遥かに原初的な状態から段階的に発展を遂げたのである。本講義では、歴史学で一般的に見られる時系列ではなく、トピック別に民主主義の発展過程を検討する。その際には象徴的なエピソードなどを示しつつ、近代社会と現代社会の相違点を分かりやすく解説する。	
	医歯学	先端医科学研究概説	医学における多様な領域の研究手法、研究対象に焦点を当て、その先端研究の動向について概説する。医学分野における先端研究について、その分野・対象・手法などを幅広く学び、現在話題・問題となっている事柄を理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	医学序説 I	広い意味での医学に関わる内容について解説し、医学の全体像についてのグローバルなイメージを学生がつくるきっかけを提供する。医学と解剖学、遺伝子と医学、若者の生活習慣と病気、インフルエンザ、食物の消化・吸収・代謝の制御と病気の関係、形成外科学、外科としての耳鼻咽喉科、泌尿器科領域の疾患とその診断治療、妊娠と子宮頸癌、プレホスピタルケア、胸部外科手術の歴史と最新治療、創薬と育薬などの講義を通して、人体の様々なしくみと働き、さらに病気の成り立ちについて、医学的な考え方を学び、医学についての理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （151 土田 正則／1回）ガイダンス （152 佐藤 昇／1回）解剖学とは？ （153 長谷川 功／1回）批判的思考 （154 齋藤 玲子／1回）インフルエンザについて （155 外山 聡／1回）創薬と育薬 （156 成田 一衛／1回）血圧と腎 （157 寺井 崇二／1回）消化・吸収・代謝から考える消化器病学 （158 松田 健／2回）「かたち」を守る外科学～形成外科学～現場活動型救急医療 （159 井口 清太郎／1回）2025年問題と医療・福祉 （160 味岡 洋一／1回）「がん」とはどのような病気か （161 西條 康夫／1回）がん遺伝子 （162 青山 英史／1回）がんの放射線治療 （163 小野寺 理／1回）脳の仕組みとその疾病 （164 鈴木 利哉／1回）世界の医学教育	オムニバス方式
	医学論文を読む（ジャーナルクラブ）A	英文論文や英文書籍の輪読を通じて、医学英語に慣れ親しみ、医学を学ぶためのモチベーションを高める。また文献内容について議論することで科学的思考や医学分野の素養を身につけていく。	共同
	人間工学論	人が快適に生活や仕事ができ、仕事の生産性を高めるためには、生活環境や作業環境（設計、温度、湿度、照明、騒音など）を整え、かつ使用する器具・機器を使いやすいようにする必要がある。＜人間工学＞とは、「人と環境」、「人と道具」、「人と仕事」とのよりよい関係を求めるための学際的な学問領域である。この講義では、人間工学の基本的な手法、人間の諸特性、ボディメカニクス、家庭・仕事への応用について述べ、さらに高齢社会に対応するために「看護・介護技術への応用」についても詳しく述べる。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	医療と放射線	医用放射線技術の最近の進歩・発展は目覚ましい。科学的・非侵襲的医療の流れを創造しながら発展してきた放射線技術科学の歴史認識に立って、放射線をどのようにして安全な手段として医療に役立っているのか、その技術は今日どこまで到達しているのかなどについて、放射線技術科学を正しく理解する。 （オムニバス方式／全15回） （93 山崎 芳裕／5回）ガイダンス、核医学検査、まとめと試験など （434 宇都宮 悟／2回）放射線とその利用 （92 高橋 直也／2回）画像診断法の進歩と臨床利用 （90 坂本 信／2回）骨粗しょう症と骨診断 （181 李 鎔範／2回）医療画像情報とネットワーク （91 笹本 龍太／2回）放射線治療	オムニバス方式
	医療と法	医療行為と民事責任、医療行為と刑事責任、先端医療と法など、法と医療との関係がどのようなものであるかを理解する。さらに医療の対象となる人権を理解すると同時に、医療に従事する専門家であり主体者である者の法的位置づけについて理解し、患者とどう関わりを持っていくかを考える。 （オムニバス方式／全15回） （134 高塚 尚和／7回）「医療と法」入門、SIDS・嬰兒殺と処罰・歴史、人の死と法、子どもの虐待と医療、診療関連死 （135 田中 伸至／2回）日本の医療制度の仕組み 歴史と課題 （344 岩崎 勝成／2回）医療と民法 （136 鈴木 正朝／1回）医療と情報法① （420 須川 賢洋／1回）医療と情報法② （345 櫻井 香子／1回）医療と刑法 （444 舟山 一寿／1回）医師法21条について	オムニバス方式
	健康と医学	大学生の頃から、生活習慣病（糖尿病や高血圧など）やメタボリックシンドロームの基盤は始まっている。救急蘇生法・食事・運動療法も身につけておきたい。また、感染症（インフルエンザ、麻疹、結核、性感染症など）や呼吸器疾患も身近な問題で、タバコやアルコールとのつきあいも大切である。一方、気分障害や適応障害などの精神心理的な問題に直面することもあり、ストレスへの対処方法も身につけておきたい。保健管理センターや医歯学総合病院における事例を紹介しながら、これらの基本的な知識と対応方法について視覚的教材を用いて概説する。 （オムニバス方式／全15回） （346 黒田 毅／7回）授業ガイダンス、生活習慣病、タバコ・アルコール、救急蘇生法、運動療法、健康セミナー、まとめ （415 佐藤 弘恵／2回）感染症①、感染症② （416 橘 輝／6回）精神保健とストレス対処法、対人関係障害とひきこもり、気分障害摂食障害、適応障害、統合失調症と不安障害	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	医学序説 II	本講義は、医学序説 I から引き続くものである。広い意味での医学に関わる内容について解説し、医学の全体像についてのグローバルなイメージを学生がつくるきっかけを提供する。解剖学、脳のしくみ、高齢者の運動器疾患、心血管系の老化と再生、感染から呼吸器を守る仕組み、こころの病気、がんの放射線治療等の講義から、人体の様々なしくみと働き、さらに病気の成り立ちについて、医学的な考え方を学び、医学についての理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （151 土田 正則／1回）ガイダンス （166 五十嵐 道弘／1回）ヒトゲノムと疾患 （170 中村 和利／1回）若者の生活習慣と病気 （134 高塚 尚和／1回）本邦における死因究明制度について-現状と課題- （171 南野 徹／1回）心血管系の老化と再生 （172 曾根 博仁／1回）生活習慣病を克服し健康寿命を伸ばすための科学的アプローチ （173 菊地 利明／1回）感染から呼吸器を守る仕組み （174 齋藤 昭彦／1回）Vaccine Preventable Diseases（ワクチンで予防できる病気） （175 若井 俊文／2回）がん手術の過去・現在・未来 （176 阿部 理一郎／1回）皮膚を通して医学を覗こう （177 福地 健郎／2回）視覚と身近な眼の疾患 （178 馬場 洋／1回）痛みの役割とペインクリニック （179 藤井 幸彦／1回）身近な脳神経外科の病気	オムニバス方式
	医学論文を読む（ジャーナルクラブ）B	英文論文や英文書籍の輪読を通じて、医学英語に慣れ親しみ、医学を学ぶためのモチベーションを高める。また文献内容について議論することで科学的思考や医学分野の素養を身につけていく。	共同
	医療ボランティア論	ボランティアに関する基礎知識をふまえ、国内外におけるさまざまなボランティア活動の実際から、生活支援から医療保健福祉に関連するボランティア活動を学ぶ。そして、社会におけるボランティアの意義・役割について考察する。ボランティアの実際を知り、ボランティアの意義について自己の考えを持てるようにする。 （オムニバス方式／全8回） （137 坂井 さゆり／5回）ボランティアの基礎知識と医療ボランティアの実際、新薬開発を支える創薬（患者）ボランティア、在宅ホスピスボランティア、振り返り・評価 （446 後藤 淳／1回）災害被災における研究支援 （347 齋藤智子、445 岩佐有華／2回）共同 医療ボランティアの実際（計画、実施）	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	医療と画像技術	医療の現場では、一般レントゲン写真・血管造影・X線CT・MRI・超音波検査などのさまざまな画像診断法が用いられている。これらの画像検査は、この数十年で急速な進歩を遂げ、現在の医療では診断・治療方針を決定するために、不可欠なものとなっている。画像技術の基本的原理、および臨床利用について理解し、一般レントゲン写真・血管造影検査・X線CT・MRI・超音波検査の原理、特徴、臨床利用について述べるができることを目標とする。 （オムニバス方式／全16回） （92 高橋 直也／5回）ガイダンス、CTの臨床応用、放射線の臨床利用、MRIの臨床応用、その他の医学的応用とまとめ （434 宇都宮 悟／4回）放射線の基礎、CTの基礎 （93 山崎 芳裕／2回）核医学の基礎、臨床利用 （89 大久保 真樹／2回）MRIの基礎 （90 坂本 信／2回）超音波の基礎 （348 松田 康伸／1回）超音波の臨床応用	オムニバス方式
	医学と医療の歴史	人間が「健康と病、人の生と死に対して、どう関わってきたか」についての理解を深めることを目標とする。前半の総論で、古代から今日までの医学史・医療史を、各時代の象徴的な出来事や人物に焦点を当てながら学習していき、次に各論として、伝染病との闘い、精神医療の歴史、放射線技術の歴史、外科の歴史、看護の歴史などの個別テーマを設定し、それぞれの歴史を学習する。 （オムニバス方式／全15回） （138 宮坂 道夫／9回）オリエンテーション、古代、中世、近代、新治水保病の歴史、歴史学習のまとめ （90 坂本 信／2回）放射線技術の歴史 1, 2 （294 富山 智香子／1回）感染症と免疫の歴史 （447 西方 真弓／1回）助産の歴史 （87 小山 論／1回）外科の歴史 （86 有森 直子／1回）看護の歴史	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解科目	ケアの基本理念と実際	ケアの本質は他者との相互作用によって作り上げられる。ケアの意味や実際についてふれることにより、一人ひとりがより良く生きていく上でのケアの持つ意味を考えることができるようになることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （139 内山 美枝子／2回）ケアにおける教育技法、緩和ケア概論 （91 笹本 龍太／1回）生体医工学からケアを考える （45 飯島 淳彦／1回）困難に対処する力「レジリエンス」のケアへの活用 （449 柏 美智／1回）いのちと向き合う救急医療の現場 （87 小山 諭／1回）災害と看護 （445 岩佐 有華／3回）地域における暮らしとQOLを支えるケア （450 坂上 百重／1回）新生児集中治療室におけるケア （447 西方 真弓／1回）心の健康とケア （451 清野 由美子／1回）性と生に向き合うケアのあり方 （448 石田 真由美／3回）女性の性と生殖へのケア、 まとめ 小論文	オムニバス方式
	「食べる」	「食べる」ことはヒトの基本である。新潟の食と、それを食べることの楽しさを伝え、考えることを目的とする。「食べる」ことの概略を理解し、「新潟の食」の特徴、開発、流通を列挙し、未来の「食べる」を考えることができるようになること。 （オムニバス方式／全15回） （638 本間龍夫／1回）新潟の食文化 （640 玉川基行／1回）新潟の伝統工芸を世界へ （52 井上 誠／1回）いつまでもおいしく楽しく食べたい （49 城 斗志夫／1回）新潟の米 （639 行形 和滋／1回）料亭ってどんなところ？ （50 西海 理之／1回）新潟発・夢の加工品 （143 齋藤 功／1回）美しいスマイルで楽しく食べよう （141 山村 健介／1回）食べることと記憶 （145 泉 健次／1回）コラーゲン飲んでますか～？ （144 佐伯 万騎男／1回）コーヒーと薬理学 （142 小野 高裕／1回）「よく噛んで食べるとこんなにいいことが！」 （642 坂上 重成／1回）日本人の心は日本酒にあり～小さな酒屋の必要性～ （641 松本 潤一／1回）新潟の食について （417 大島 邦子／1回）イマドキの「食べる」 （140 早崎 治明／1回）総括	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解 科目	医歯学 PBL 入門	具体的な臨床事例を記載したシナリオを題材としてグループで取り組み、自ら問題点や疑問点を抽出し、調査、討論を行い、グループのメンバーと協力しながら問題を解決する。医療人として生涯にわたり学び続けるために、自発的・主体性をもった学習態度と学習技法を身につける。また、第3学年後期から開始される問題基盤型学習（Problem-Based Learning）へスムーズに移行するための準備を行う。	共同
	健康福祉学入門	口腔を中心とした健康および福祉に関する取り組みや現状、課題等について講義を行う。それについて理解し、また、健康・福祉の視点から、社会状況、生活、健康増進について考えることができるようになることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （146 葭原 明弘／2回）ガイダンス新潟県の学校歯科保健 （349 黒川 孝一／1回）健康を支える薬事行政 （111 小野 和宏／1回）口唇口蓋裂医療 （454 米澤 大輔／1回）歯科と福祉の視点からみえるもの （311 ステガロユ・ロクサーナ／1回）かむこととQOL（生活の質）の関わり （113 大内 章嗣／2回）保健・医療・介護の動向・歯周病と健康 （455 諏訪間 加奈／1回）口腔ケアと健康 （350 柴田 佐都子／1回）飲み込みの仕組みとその障害 （147 吉羽 邦彦／2回）う蝕とその関連疾患・格差社会と社会福祉 （453 小田島 あゆ子／1回）多職種連携における口腔機能管理 （148 高橋 英樹／2回）社会的養護・ユニバーサルデザインと健康福祉	オムニバス方式
	インターネットテュートリアル	医療、健康、生命にまつわるさまざまな話題を取り上げ、そこから引き出される疑問点、問題点を見出し、教員のアドバイスを受けながら、自主的に調査・学習し、ウェブ上のグループで学生同士議論することにより、能動的な学習習慣を身につける。新潟大学のみならず、岐阜大学をはじめとした全国の医療系学生と交流しながら学習を進める。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
知識・理解に 関する科目	新潟発福祉学	社会福祉を理論と実践の両面からとらえ、児童家庭・女性、障害、高齢者など各領域における多彩な福祉の今を学ぶ。社会福祉における援助の概念について理解し、社会福祉の実践例をとおり、人間をまるごと支援していくことの大切さを学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （148 高橋 英樹／6回）親密な関係の中の虐待と暴力、地域で展開する障害者福祉 ― 合理的配慮とふれあい効果、社会福祉のフレーム～定型から非定型へ、代替養育の系譜 （644 蛭原 勝／2回）新潟市における生活困窮者の状態・貧困の連鎖（子どもの貧困） （645 丸田 徹／1回）障がい者スポーツの意義と可能性 （580 青木 洋之／1回）今こそ地域で生きる～沼垂～ （647 豊川 秀敏／1回）子どもが生き生き暮らす場所 ファミリーホーム （646 稲田 泰紀／1回）新潟の地域福祉と市民活動の推進 （648 林 正海／1回）地域における権利擁護と多職種連携 （643 島田 久幸／1回）新潟県における社会福祉の動向 （349 黒川 孝一／1回）ハンセン病対策に見る保健と福祉の連携、まとめ総括	オムニバス方式
	顔	顔を中心とした講義である。顔を対象とした研究や活動は幅広く、社会文科系、工学系、心理学系、医学・歯学系で扱われている。それぞれの分野での関心やテーマ、さらには研究や活動の手法も異なっている。各研究や活動を知ることにより、顔に関する幅広い知識を得ること。顔に関する研究や活動を正しく理解し、幅広い知識を得て考え、今後の活動に活かすことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （438 丹原 惇／3回）オリエンテーション、「顔について」、「顔とこころ」 （650 中村 真／1回）「感情とコミュニケーションの心理学」 （651 宮永 美知代／1回）「顔の美術解剖学」 （656 寺田 員人／1回）「顔と歯科」 （652 岩崎 美弥／1回）「コミュニケーションにおける顔の役割」 （143 齋藤 功／1回）「歯科矯正治療と顔の変化」 （112 大島 勇人／1回）「顔―その多様性と進化」 （655 阿部 恒之／1回）「顔の心理学」 （657 青木 義満／2回）「画像センシング」 （654 森島 繁生／1回）「ヒューマンインターフェースとしての顔表情の認識・合成」 （649 野村 修一／1回）「顔と歯科治療（入れ歯）」 （653 かづき れいこ／1回）「リハビリメイクとメイクの実演」	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
アカデミック基礎スキル科目	学部共通基礎スキル科目	スタディスキルズⅠ	本授業は、高等学校までの学習を転換し、自ら思考、調査、論述する技術、いわゆるアカデミックスキルの基礎的なレベルの修得を目指す授業の一つである。本授業は、問題発見能力の基礎をグループワークにより修得することを目指す。具体的には、グループごとにテーマ設定、討論をしたうえで、研究成果をポスターとして作成し、ポスターセッションで学生相互にレビューをさせる。	
		スタディスキルズⅡ	本授業は、高等学校までの学習を転換し、自ら思考、調査、論述する技術、いわゆるアカデミックスキルの基礎的なレベルの修得を目指す授業の一つである。本授業は、基礎的なアカデミックライティングのスキルを修得することを目指す。具体的には、受講生は、事前に実施する課題研究に基づき中間レポートを作成したうえで、授業を通じて、学術論文の形式に則った最終レポートに仕上げる。	
		スタディスキルズⅢ	スタディスキルズⅠ・Ⅱで学んだ、課題の発見・テーマの設定・調査・レポート作成という一連の学習方法が身に付いたかを確認する。またその確認のために、2年次進級時に選択する4つの主専攻プログラムから示される課題に応えるレポート（1,500～2,000字）を作成する。	
		データサイエンス総論Ⅰ	データサイエンスの基礎を学ぶことを目的とし、データ分析手法やその背景知識を学習、理解する。膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータの扱い方を学習する。	
外国語	英語	アカデミック英語入門R	大学入学までに身につけた英語の知識を整理・再構成し、平明な一般学術目的の英語で書かれた文書を精確に読む力を養成する。また、ネットワーク型のコンピュータ支援言語学習教材を課外学習することにより、TOEIC受験の準備もおこなう。	
		アカデミック英語入門L	大学入学までに身につけた英語の知識を整理・再構成し、平明な一般学術目的の英語で話された言葉を正確に理解する力を養成する。大学教育の初歩的な学習で要請される水準で使われる英語を聞き取り、その内容を正確に把握できる能力の獲得を目指す。	
		基礎英語	一般目的の英語（English for General Purposes）の運用能力の強化・充実を目指し、主に読解力を養成する。また、ネットワーク型のコンピュータ支援言語学習(CALL)教材を課外学習することにより、英語の基礎的な運用能力の増強に努める。大学入学までに身につけた英語の基本的な知識を生かしつつ、それを改めて見直し再構成することで、読解力を中心とした基礎的な英語力を修得するとともに、日常的な場面での音声英語に親しむ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア 外 英 語 アカ デ ミ ッ ク ス キ ル 科 目	アカデミック英語 W	大学入学までに身につけた英語の知識を整理・再構成し、平明な一般学術目的の英語で文章を書く力を養成する。大学での初歩的な学習で要請される水準で、自分の考えを簡潔かつ正確な英文で表現することのできる能力の獲得を目指す。	
	上級コミュニケーション英語	アカデミック英語（リーディング）、アカデミック英語（リスニング）アカデミック英語（ライティング）、基礎英語を習得している TOEIC730 点以上のレベルの学生を対象とする上級英語クラス。より小規模の理想的なクラス規模によって、英語による応用力養成を図るための科目。学習到達目標は次のとおり。 1：英語の韻律をマスターする 2：躊躇なく、会話をすることができる 3：会話中に問題が生じた場合、適切に修復を行うことができる 4：英語の談話標識の使用をマスターする	
	中級コミュニケーション英語	基礎英語の単位を取得した学生を対象に実践的な英語運用能力の向上を目指した学習を少人数クラスで行う。 また、この授業の目的は学生の発音の明瞭性（Intelligibility）を高めることである。学生の発音の明瞭性を高めるには、毎週の授業中の発音の練習をするだけでなく、会話の宿題も発音の宿題もする。それに加えて、国際発音記号を読んで、発音する宿題もある。会話の宿題は他の学生と一緒にするが、発音の宿題は一人でする。	
	英語表現セミナー A	本講義はビデオ等を通じてライティングスキルの向上を目指す。授業は、各学生が、1つのグループごとに1つの違うトピックを取り扱う。個々、ペア、グループ、および開いているクラスにおいて学生が能動的に参加することが期待される。自主学習のうえ、各学生は短いプレゼンテーションを英語で行うものである。様々な活動を通じ、英語の活用能力を養成する。	
	英語表現セミナー B	この講義は学生の英語を書く力を伸ばすことを目標としている。受講者は考えてことを整理し、論理的な文章を書く方法を編み出し、自らを表現するのに最適な戦略や技術を選び、自ら編集し復習することで書く力を伸ばす。多くの実用的な英文の講義と違い、この講義では学生に深い英語理解力身に付けさせることをねらいとしている。すなわち、相互作業の楽しい環境のなかで学生の書く力を伸ばす手助けをする。	
	英語表現セミナー C	この講義では、様々なテーマについて話し合い、考えを整理してから書くとの流れとなる。それによって論理的な文章を書く方法を学びながら、実用的な英語力が身に付く。メインテーマとして、話す事と書くことによって、自国の文化への理解を高めながら、他の国の文化との違い、共通点について英語で説明をする力を身に付ける。	
	実践英語	本講義は、英語で一般学術目的のための主にリスニング学習を中心に行って、学生の実用英語の熟練を目指す。到達目標は、一般学術目的のための話された英語を理解することができることである。レッスンは、規定されたテキスト本を中心に行うが、様々なリスニング能力を養成するために、自己完結型の聞き取り活動も含む。なお、取り扱うトピックは、通信、社会学、医学、心理学、地球科学等を含む。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	英語 iStep (Level 1) Academic Reading	この授業は iStep プログラムのアカデミックリーディングだが、アカデミックライティングとペアになっている。この授業において、受講生は英語の新聞の社説を読み、内容を理解し、アカデミックライティングのエッセイのための引用や参考文献などとして転用する。この授業は2分に分かれており、前半はアカデミックリーディングで、後半は読書に当てる。アカデミックリーディングの時間に、社説を精読し、内容をいかに要約すれば良いかということ学び、著者の意図を探る。読書の時間に、新潟大学の図書館から借りられる小説を読む。毎週、1冊を読んでから、宿題のメールで粗筋を要約する。	
	iStep (Level 1) Academic Writing	この授業は、argumentative five-paragraph essay というジャンルに学生を紹介する。この授業の一環として、学生は2種類の argumentative five-paragraph essay を完成させる。最初のエッセイは15週間かけて、書くが、2番目のエッセイは期末試験にあたり、90分以内に書かなければならない。だが、この授業は argumentative five-paragraph essay の文体を教えるだけではなく、アカデミック英語のスタイルやAPA引用形式やAPA参考文献の書き方も教える。しかも、学生の編集能力を強化することはこの授業の究極な目的の一つであるので、間違いを特定する方法も、編集する方法も教える。	
	iStep (Level 1) Listening & Speaking	This course is designed to develop student's listening skills in English for Academic Purposes. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their listening proficiency necessary for intermediate level tertiary education. 本授業は主に英語のリスニング及びスピーキング能力向上を目的とする。受講者のリスニング及びスピーキング能力全般の上達を促すのみならず、今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけリスニングに関して）を習得することを目標とする。	
	iStep (Level 1) Presentations	This course is designed to improve student's skills in academic presenting and lecturing in English. At the end of this course students will be able to present a variety of data in an academic style. 本授業は主に英語でプレゼンテーション及び講義をする能力向上を目的とする。受講者が様々なデータの学術的プレゼンテーションをする能力を習得することを目標とする。	
	iStep (Level 2) Academic Reading	This course is designed to develop a range of academic reading skills. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their reading proficiency necessary for intermediate level tertiary education. 本授業は主に幅広いリーディング能力向上を目的とする。受講者のリーディング能力全般の上達を促すのみならず、今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけリーディングに関して）を習得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	英語 iStep (Level 2) Academic Writing	This course is designed to develop student's writing skills in English for Academic Purposes. To develop student's writing abilities in English and to develop their writing proficiency. 本授業は主に英語のライティング能力向上を目的とする。受講者の英語のライティング能力・スキルの上達を促すことを目標とする。	
	iStep (Level 2) Listening & Speaking	This class focuses on listening/ receptive skills, note-taking skills and vocabulary building in an academic context on a variety of topics. Students will also spend time talking about the topics and developing their critical thinking skills. Students can also expect to give short talks about the topic based on their own research. 本授業は主に多様なテーマについてのリスニング／受容能力、メモの取り方のスキル及び語彙の増強の向上を目的とする。受講者が与えられたテーマについて話し、批判的思考力を向上させることを目標とする。受講者が自ら行った研究の結果に基づき、あるテーマの講話を簡単に行う場合もある。	
	iStep (Level 2) Presentations	This course introduces students to the core skills necessary to give effective presentations in English. The course teaches students about the Physical Message, the Visual Message, and the Story Message and how to combine these 3 components to give great presentations in English. This is a practical course and students will have the opportunity to present on a variety of topics. 本授業は主に英語での効果的なプレゼンテーションに必要な基礎的能力の習得を目的とする。身体的メッセージ、視覚的メッセージ、物語的メッセージと、これら3つの要素をどのように組み合わせれば素晴らしいプレゼンテーションを英語で行うことができるかを習得することを目標とする。多様なテーマでプレゼンテーションを行う機会がある実践的な授業である。	
	iStep (Level 3) Academic Reading	この授業は iStep プログラムのアカデミックリーディングだが、アカデミックライティングとペアになっている。この授業において、受講生は英語の新聞の社説を読み、内容を理解し、アカデミックライティングのエッセイのための引用や参考文献などとして転用する。この授業は2分に分かれており、前半はアカデミックリーディングで、後半は読書に当てる。アカデミックリーディングの時間に、社説を精読し、内容をいかに要約すれば良いかということを学び、著者の意図を探る。読書の時間に、新潟大学の図書館から借りられる小説を読む。毎週、1冊を読んでから、宿題のメールで粗筋を要約する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックスキル科目	iStep (Level 3) Academic Writing	この授業は、argumentative five-paragraph essay というジャンルに学生を紹介する。この授業の一環として、学生は2種類の argumentative five-paragraph essay を完成させる。最初のエッセイは15週間かけて、書くが、2番目のエッセイは期末試験にあたり、90分以内に書かなければならない。だが、この授業は argumentative five-paragraph essay の文体を教えるだけではなく、アカデミック英語のスタイルやAPA引用形式やAPA参考文献の書き方も教える。しかも、学生の編集能力を強化することはこの授業の究極な目的の一つであるので、間違いを特定する方法も、編集する方法も教える。	
	iStep (Level 3) Listening & Speaking	This class focuses on listening/ receptive skills, note-taking skills and vocabulary building in an academic context on a variety of topics. Students will also spend time talking about the topics and developing their critical thinking skills. Students can also expect to give short talks about the topic based on their own research. 本授業は主に多様なテーマについてのリスニング/受容能力、メモの取り方のスキル及び語彙の増強の向上を目的とする。受講者が与えられたテーマについて話し、批判的思考力を向上させることを目標とする。受講者が自ら行った研究の結果に基づき、あるテーマの講話を簡単に行う場合もある。	
	iStep (Level 3) Presentations	This course introduces students to the core skills necessary to give effective presentations in English. The course teaches students about the Physical Message, the Visual Message, and the Story Message and how to combine these 3 components to give great presentations in English. This is a practical course and students will have the opportunity to present on a variety of topics. 本授業は主に英語での効果的なプレゼンテーションに必要な基礎的能力の習得を目的とする。身体的メッセージ、視覚的メッセージ、物語的メッセージと、これら3つの要素をどのように組み合わせれば素晴らしいプレゼンテーションを英語で行うことができるかを習得することを目標とする。多様なテーマでプレゼンテーションを行う機会がある実践的な授業である。	
	iStep Continuation: Academic Listening & Speaking	This course is designed to develop student's listening skills in English for Academic Purposes. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their listening proficiency necessary for intermediate level tertiary education 本授業は主に英語のリスニング及びスピーキング能力向上を目的とする。受講者のリスニング及びスピーキング能力全般の上達を促すのみならず、今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけリスニングに関して）を習得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックスキル科目	英語 iStep Continuation: Academic Reading	This course is designed to develop a range of academic reading skills. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their reading proficiency necessary for intermediate level tertiary education. 本授業は主に幅広いリーディング能力向上を目的とする。受講者のリーディング能力全般の上達を促すのみならず、今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけリーディングに関して）を習得することを目標とする。	
	iStep Continuation: Academic Writing	この授業は、argumentative five-paragraph essay というジャンルに学生を紹介する。この授業の一環として、学生は2種類の argumentative five-paragraph essay を完成させる。最初のエッセイは15週間かけて、書くが、2番目のエッセイは期末試験にあたり、90分以内に書かなければならない。だが、この授業は argumentative five-paragraph essay の文体を教えるだけでなく、アカデミック英語のスタイルやAPA引用形式やAPA参考文献の書き方も教える。しかも、学生の編集能力を強化することはこの授業の究極な目的の一つであるので、間違いを特定する方法も、編集する方法も教える。	
	iStep Continuation: Intercultural Communication	This course will guide the student through, possibly, ten or more concepts related to Intercultural Communication. This course is designed to improve student's skills in academic speaking, writing, listening and reading English, and critical thinking. 本授業は文化間コミュニケーションに関連した、（可能であれば）10以上の概念の指導を行う。主に英語のスピーキング、ライティング、リスニング及びリーディング能力と批判的思考力の向上を目的とする。	
	iStep Continuation: Oral Communication	The Oral Communication class focuses on speaking skills, communicative strategies, pronunciation, and building confidence so that students are able to talk about a variety of subjects. 本授業は主にスピーキング能力、伝達方略及び発音の習得と自信醸成を目的とする。受講者が様々な主題について話す能力を習得することを目標とする。	
	iStep Continuation: Presentation	This course continues practice of the core skills for effective presentations in English: the Physical Message, the Visual Message, and the Story Message. Students will continue to apply the principles learned in iStep in Term 2 to their presentations. In addition, students will learn new presentation skills and learn how to give professional and academic presentations in English. 本授業では第2学期のiStepに引き続き、効果的な英語のプレゼンテーションに必要な基礎的能力である身体的メッセージ、視覚的メッセージ、物語的メッセージの実践を行う。受講者は、第2学期のiStepで学んだ原則に従い、プレゼンテーションを行うほか、プレゼンテーションの新たなスキルを習得するとともに、専門的かつ学術的なプレゼンテーションを英語でどのように行うかを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア 外 英 国 語 デ ミ ツ ク ス キ ル 科 目	共通英語	高校までの英語の知識を再構成し、大学生にふさわしい読解力を修得する。また、日常的な場面での音声英語に親しみリスニング力を向上させるとともに、TOEICの出題形式に慣れる。リーディング教材を使用して英語の読解力を養成するための訓練を行う。さらに、リスニング教材を併用し、第1学期末に予定されているTOEIC受験のための準備にも時間を割く。	
	EAP: Academic Debate	This course is designed to develop student's speaking skills in English for Academic Purposes. Specifically in the skills associated with academic debate. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their speaking proficiency necessary for intermediate level tertiary education. 本授業は主に英語のスピーキング能力（とりわけ学術的ディベートにかかわるスキル）向上を目的とする。受講者のスピーキング能力全般の上達を促すのみならず、今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけスピーキングに関して）を習得することを目標とする。	
	EAP: Academic Listening	This course is designed to develop student's listening skills in English for Academic Purposes. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their listening proficiency necessary for intermediate level tertiary education. 本授業は主に英語のリスニング能力向上を目的とする。受講者のスピーキング能力全般の上達を促すのみならず、今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけリスニングに関して）を習得することを目標とする。	
	EAP: Academic Listening & Speaking	This course is designed to develop student's listening skills in English for Academic Purposes. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their listening proficiency necessary for intermediate level tertiary education. 本授業は主に英語のリスニング及びスピーキング能力向上を目的とする。今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけリスニングに関して）を習得することを目標とする。	
	EAP: Academic Listening Skills	This course is designed to develop student's listening skills in English for Academic Purposes. To consolidate students' current general abilities in English and further develop their listening proficiency necessary for intermediate level tertiary education. 本授業は主に英語のリスニング能力向上を目的とする。今後、英語による専門授業の受講練習を積んでいくために必要なレベルの能力・スキル（とりわけリスニングに関して）を習得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア 外 英 カ 国 語 デ ミ ツ ク ス キ ル 科 目	EAP: Academic Oral Communication	The Oral Communication class focuses on speaking skills, communicative strategies, pronunciation, and building confidence so that students are able to talk about a variety of subjects. To improve overall communicative ability in English. To be able to talk about a wide variety of subjects intelligently. To practice your speaking skills in English and improve fluency. 本授業は主にスピーキング能力、伝達方略及び発音の習得と自信醸成を目的とする。受講者が様々な主題について話す能力を習得することのみならず、英語での伝達能力全般の上達を促し、多様な主題について知的に話す能力を習得し、英語で話すスキルを実践して、流暢さを向上させることを目標とする。	
	EAP: Academic Presentation Skills	This course is designed to improve student's skills in academic presenting and lecturing in English. At the end of this course students will be able to present a variety of data in an academic style. 本授業は主に英語でプレゼンテーション及び講義をする能力向上を目的とする。受講者が様々なデータの学術的プレゼンテーションをする能力を習得することを目標とする。	
	EAP: Academic Reading Skills	This course aims to help students become more proficient readers of English through the development of targeted reading skills and strategies. This course continues on from the EAP Reading course in Term 1 and Term 2. 本授業は的を絞ったリーディングのスキル及び方略の向上により、英語のリーディング能力を上達させることを目的とする。第1・第2タームのEAP Reading Courseから継続した授業である。	
	EAP: Academic Writing	This course is designed to develop student's writing skills in English for Academic Purposes. To develop student's writing abilities in English and to develop their writing proficiency. 本授業は主に英語のライティング能力向上を目的とする。受講者の英語のライティング能力・スキルの上達を促すことを目標とする。	
	EAP: Academic Writing Skills	この授業は、argumentative five-paragraph essay というジャンルに学生を紹介する。この授業の一環として、学生は2種類のargumentative five-paragraph essay を完成させる。最初のエッセイは15週間かけて、書くが、2番目のエッセイは期末試験にあたり、90分以内に書かなければならない。だが、この授業はargumentative five-paragraph essay の文体を教えるだけではなく、アカデミック英語のスタイルやAPA引用形式やAPA参考文献の書き方も教える。しかも、学生の編集能力を強化することはこの授業の究極な目的の1つであるので、間違いを特定する方法も、編集する方法も教える。	
	EAP: Creative Writing	This course is designed to teach students how to write creatively in English. At the end of this course students will have learned various methods of creative writing. 本授業は主に英語のクリエイティブライティングについて指導することを目的とする。受講者が様々なクリエイティブライティングの方法を習得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア カ デ ミ ッ ク ス キ ル 科 目	英 国 語	EAP: Cultural Studies	This course continues on from the work done in the EAP: Culture & Society class in Terms 1 & 2. This course aims to introduce students to important concepts in cultural theory and provide students with the tools to think and talk about culture. Students will apply the different theories to their own experience and consider how these ideas may affect intercultural communication. By the end of the course students will have a better understanding of their own culture and their place in the world. 本授業は、第1・第2タームのEAP: Culture & Society Classの内容を引き継いで行われる授業であり、文化理論の重要な概念を紹介して、文化について考え、語るための手段を与えることを目的とする。受講者は、様々な理論を自身の体験にあてはめ、これらの概念が異文化間コミュニケーションにどのような影響を及ぼす可能性があるのかを考える。受講者が自らの文化と場の理解を深めることを目標とする。
		EAP: Culture and Society	This course will guide the student through, possibly, ten or more concepts related to culture and society. This course is designed to improve student's skills in academic speaking, writing, listening and reading English. 本授業は文化と社会に関連した（可能であれば）10以上の概念の指導を行う。主に学術的な英語のスピーキング、ライティング、リスニング及びリーディング能力の向上を目的とする。
		EAP: Data Science for Research Writing	「どうやって、ある主張は真実であることを確かめることができるか？」という質問に答えるために、この授業は「量的研究方法論」を紹介する。まず、受講生は量的研究方法論の中心的な概念（妥当性、信頼性、実験方法研究、相関方法研究、母集団、サンプル、転用可能性、検証可能性、反証可能性、可視化）を学習する。しかも、受講生は、統計学の中心的な概念（平均値(M)、標準偏差(SD)、正規分布、統計学の2種類の誤り(Type I & II errors)、アルファ(α)、蓋然性(p))も学習する。さらに、受講生は、統計学的テスト（相関検定、t検定、χ^2検定）をいかに行えば良いかということも学習し、統計学のテストの結果をAPA形式で書けるようになる。
		EAP: Intercultural Communication	This course will guide the student through, possibly, ten or more concepts related to Intercultural Communication. This course is designed to improve student's skills in academic speaking, writing, listening and reading English, and critical thinking. 本授業は異文化間コミュニケーションに関連した、（可能であれば）10以上の概念の指導を行う。主に学術的な英語のスピーキング、ライティング、リスニング及びリーディング能力と批判的思考力の向上を目的とする。

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア 外 英 カ 国 語 デ ミ ツ ク ス キ ル 科 目	EAP: Law & Society	This course is an introduction to the study of law and sociology in English. The course covers all four language core skills: reading, writing, speaking and listening. Students will learn about and discuss key issues related to law and society. By the end of the course, students should have a solid understanding of different legal, social and political issues, and be able to discuss and debate their ideas effectively in English. 本授業は英語での法学及び社会学の導入的授業である。リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つの基本的なスキルすべてを網羅する。受講者は法律及び社会に関係する主な問題について学び、議論をする。受講者が様々な法的、社会的、政治的な問題を確実に理解することのみならず、自らの考えを効果的に英語で議論及びディベートする能力を習得することを目標とする。	
	EAP: Oral Communication	The Oral Communication class focuses on speaking skills, communicative strategies, pronunciation, and building confidence so that students are able to talk about a variety of subjects. To improve overall communicative ability in English. To be able to talk about a wide variety of subjects intelligently. To practice your speaking skills in English and improve fluency. 本授業は主にスピーキング能力、伝達方略及び発音の習得と自信醸成を目的とする。受講者が様々な主題について話す能力を習得することのみならず、英語での伝達能力全般の上達を促し、多様な主題について知的に話す能力を習得し、英語で話すスキルを実践して、流暢さを向上させることを目標とする。	
	EAP: Presentation	This course is designed to improve student's skills in academic presenting and lecturing in English. At the end of this course students will be able to present a variety of data in an academic style in English. 本授業は主に英語でプレゼンテーション及び講義をする能力向上を目的とする。受講者が様々なデータの学術的プレゼンテーションをする能力を習得することを目標とする。	
	EAP: Pronunciation A	この授業の究極の目的は学生の発音の明瞭性（Intelligibility）を高めることであるので、他の『発展英語』の授業と違い、英語の発音の授業である。学生の発音の明瞭性を高めるには、毎週の授業中の発音の練習をするだけでなく、会話の宿題も発音の宿題もする。それに加えて、国際発音記号を読んで、発音する宿題もある。会話の宿題は他の学生と一緒にするが、発音の宿題は一人でする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア カ デ ミ ッ ク ス キ ル 科 目	英語		
	EAP: Pronunciation B	この授業は『応用英語』である。この授業の究極の目的は学生の発音の明瞭性（Intelligibility）と分かりやすさ（Comprehensibility）を高めることであるので、他の『応用英語』の授業と違い、英語の発音の授業である。学生の発音の奇麗さを高めるには、毎週の授業中の発音の練習をするだけではなく、会話の宿題も発音の宿題もする。会話の宿題は他の学生と一緒にするが、発音の宿題は一人です。この授業の前半である発展英語は英語の音素の発音（Segmental Pronunciation）が中心だが、応用英語の中心は英語の韻律・超分節音素（Suprasegmental Pronunciation）である。この授業は一年の授業の後半だけで、前半は『発展英語』にある。	
	EAP: Reading Skills	This course aims to help students become more proficient readers of English through the development of targeted reading skills and strategies. To be able to read and understand a variety of texts. To learn specific reading skills and then practice them using different texts. To demonstrate understanding through writing and speaking activities. To learn ideas for self-study. To enjoy reading in English. 本授業は的を絞ったリーディングのスキル及び方略の向上により、英語のリーディング能力を上達させることを目的とする。多様なテキストを読み、理解する能力を習得することのみならず、特定のリーディングスキルを習得して様々なテキストで活用すること、また読んだ内容について書いたり話したりすることで理解度を示すこと、自主学習の方法を学ぶこと、楽しんで英語の文章を読むようになることを目標とする。	
	EAP: Research Report Writing Skills	Students will learn about the principles of research, develop research writing skills and learn techniques for data collection and analysis. This course will prepare students for writing original research papers using qualitative data. This course continues on from the work done in the EAP: Research Writing Classes in Term 1 and Term 2. New students may be required to do extra reading to learn about key concepts covered in previous courses. 本授業は定性データを使って原著論文を書く準備を受講者にさせることを目的とする。このため、受講者が研究の原則について学び、リサーチライティングのスキルを向上させ、データを収集及び分析するテクニックを習得することを目標とする。本授業は第1・第2タームのEAP: Research Writing Classの内容を引き継いで行われる授業であり、新規受講者は別途、参考文献などを読み、主な概念について学ばねばならないこともある。	
	EAP: Research Writing	Students will learn about the principles of research, develop research writing skills and learn techniques for data collection and analysis. This course will prepare students for writing original research papers using qualitative data. 本授業は定性データを使って原著論文を書く準備を受講者にさせることを目的とする。このため、受講者が研究の原則について学び、リサーチライティングのスキルを向上させ、データを収集及び分析するテクニックを習得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	外国語	EAP: Speaking Practicum	This course focuses on improving spoken English ability through a variety of practical activities. To improve overall communicative ability in English. To be able to talk about a wide variety of subjects intelligently. To practice your speaking skills in English and improve fluency. 本授業は主に多様な実践活動を通じた英語のスピーキング能力向上を目的とする。英語での伝達能力全般の上達を促し、幅広い主題について知的に話す能力を習得し、英語で話すスキルを実践して、流暢さを向上させることを目標とする。	
		EAP: Topic Based Speaking	This course aims to engage student's at low intermediate to intermediate level and is designed to apply passive English skills actively in an open-ended conversations about general and academic topic areas. 本授業は主に一般的及び学術的なテーマについての自由な会話で、英語の受動的スキルを能動的に発揮させることを目的とする。受講者のレベルを初中級から中級レベルにすることを目標とする。	
		実践英語セミナー	大学の入門レベルの講義（心理学、言語学、メディア研究、ビジネス、芸術、工学、生物学等）を題材にして、ノートのとり方やディスカッションの進め方などの基礎を学ぶと同時に、講義や文章の理解に必須とされる基本的な語彙を習得する。	
	初修外国語	外国語ベーシック I-1a（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-1b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
		外国語ベーシック I-1b（フランス語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-1a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
		外国語ベーシック I-2a（フランス語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-2b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス 外国語 初修外国語	外国語ベーシック I-2b（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -2a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-3a（中国語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -3b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-3b（朝鮮語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -3a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-4a（朝鮮語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -4b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-4b（中国語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -4a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-5a（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -5b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	外国語ベーシック I-5b（スペイン語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -5a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-6a（スペイン語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -6b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-6b（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -6a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-7a（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -7b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-7b（イタリア語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -7a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-8a（イタリア語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -8b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス 外国語 科目	外国語ベーシック I-8b（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-8a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-9a（フランス語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-9b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-9b（ロシア語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-9a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-10a（ロシア語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-10b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-10b（フランス語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-10a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-11a（中国語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I-11b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス 外国語 初級 外国語 科目	外国語ベーシック I-11b（インドネシア語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -11a(〇〇語）」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-12a（インドネシア語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -12b(〇〇語）」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-12b（中国語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -12a(〇〇語）」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-14a（古代ローマ帝国ラテン語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -14b(〇〇語）」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-14b（古典古代ギリシア語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -14a(〇〇語）」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
	外国語ベーシック I-15a（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -15b(〇〇語）」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	外国語	初修外国語	外国語ベーシック I-15b（中国語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -15a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
			外国語ベーシック I-16a（中国語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -16b(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
			外国語ベーシック I－16b（ドイツ語）	第1タームと第2タームの科目をペアで履修し、2つの外国語の基本的な特徴を比較しながら学ぶことで、言語と文化のかかわりの多様性を理解し、異文化理解の意義について考える。第2タームに開講される「外国語ベーシック I -16a(〇〇語)」とあわせて履修することにより、異なる2言語の特徴を比較対照する視点を獲得すると同時に、第3・4タームのベーシック II における一外国語の本格的な外国語学習に繋げるきっかけとする。	
			ドイツ語インテンシブ I A	ドイツ語ネイティブの教師2人がそれぞれ週2回ずつ授業を担当する。お互いに連携して、主にコミュニケーション能力（話す・聞く・読む・書く）を中心に授業を進める。1年間で、基礎語彙、基本的なドイツ語文法、簡単な日常会話を習得することが目標である。授業は最初からできるだけドイツ語で行う。 なお、本授業は、前期に開講され、ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）CEFR: レベル A1 相当である。	
			ドイツ語インテンシブ I B	ドイツ語ネイティブの教師2人がそれぞれ週2回ずつ授業を担当する。お互いに連携して、主にコミュニケーション能力（話す・聞く・読む・書く）を中心に授業を進める。1年間で、基礎語彙、基本的なドイツ語文法、簡単な日常会話を習得することが目標である。授業は最初からできるだけドイツ語で行う。 なお、本授業は前期に開講され、ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）CEFR レベル A1 相当である。	
		ドイツ語インテンシブ II	ドイツ語ネイティブの教師2人がそれぞれ週2回ずつ授業を担当する。お互いに連携しながら主にコミュニケーション能力（話す・聞く・読む・書く）を中心に授業を進める。1年間で、基礎語彙、基本的なドイツ語文法、簡単な日常会話を習得することが目標である。授業は最初からできるだけ多くドイツ語で行う。 なお、本授業は後期に開講され、ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）CEFR レベル A1/2 相当である。		

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	ドイツ語スタンダードⅠA	ドイツ語初心者を対象とし、「使えるドイツ語」の習得を目指す。授業はテキストを中心に進める。また第一と第二タームで、ヨーロッパ・ドイツ語圏で目的地を自由に選んで2週間の旅行計画を立てる。この計画を通してドイツ語の日常会話のための表現・文法を学ぶと共に、ドイツの社会と文化について学ぶ。	
	ドイツ語スタンダードⅠB	ドイツ語初心者を対象とし、「使えるドイツ語」の習得を目指す。授業はテキストを中心に進める。また第一と第二タームの間に、ヨーロッパ・ドイツ語圏で目的地を自由に選んで2週間の旅行計画を立てる。この計画を通してドイツ語の日常会話のための表現・文法を学ぶと共に、ドイツの社会と文化について学ぶ。	
	ドイツ語スタンダードⅡ	第一・二タームに続く授業。「使えるドイツ語」の習得を目指す。授業はテキストを中心に進める。ドイツ人がドイツ人のために書いたテキストを自由に選んで、日本語に翻訳し提出する。将来の研究においても使えるドイツ語の習得を目指す。	
	ドイツ語ベーシックⅡ	ドイツ語の基礎文法と日常会話の練習を通して、読む・書く・聞く・話す力をバランスよく養い、ドイツ語によるコミュニケーション能力を身につける。また、視聴覚教材を利用し、ドイツ語圏の文化や生活習慣に関する理解を深める。	
	ドイツ語ベーシックプラスA	主にドイツ語ベーシックなどでひととおりの基本文法を学びおえた学生を対象とする。まずは基本文法項目の確認をし、定着していない部分は復習する。未習のことがあれば、新たにポイントを押さえていく。そうした基本文法を文章の中で活かせるよう、読解力をつけていく。読解文を通じて、ドイツの制度的文化的側面を知る。	
	ドイツ語ベーシックプラスB	第1・2タームでドイツ語ベーシックプラスの継続科目である。基本文法項目の確認をし、定着していない部分は復習する。未習のことがあれば、新たにポイントを押さえていく。そうした基本文法を文章の中で活かせるよう、読解力をつけていく。読解文を通じて、ドイツの制度的文化的側面を知る。	
	コミュニケーション・ドイツ語A	1年次に学習した文法を復習する。いわば「やり直しドイツ語文法」のコースである。ドイツ語スタンダードの形容詞の用法あたりからやり直す特別コースである。ただし、進度は速い。語彙力の習得も目指す。取り上げる文法事項については履修する学生の要望に極力対応する。最終的には接続法まで完了する。問題演習も多い。	

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
アカデミックスキル科目	外国語	初級 B	In diesem Kurs werden Übungen zur Alltagssprache als Gesprächsanlässe genommen, um die mündliche Kommunikationsfähigkeit sowie das Hörverständnis zu trainieren. Darüber hinaus werden mit Hilfe von Lesetexten und Schreibübungen zu landeskundlichen Themen in Partner- und Gruppenübungen alle vier Fertigkeiten trainiert. Neben der Verbesserung der mündlichen und schriftlichen Kommunikationsfähigkeit, werden grammatikalische Kenntnisse und Wortschatz vergrößert. この授業では、ドイツ語文化圏の日常生活に関する表現や聴解を会話で活動し、口頭でのコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに、ドイツ語文化圏についての読解と書く能力も練習し、向上を目指す。ペア・グループ学習を行いながら「話す」「聞く」「書く」「読む」の能力を上達し、文法の知識、語彙拡大にも繋げる。	
		コミュニケーション・ドイツ語 C	ドイツ語初級修了程度のレベル（A2～B1*）で、文法解説も交えながら、読み、書き、話す練習をする。テーマは「子どものための哲学」である。ドイツ語で書かれた子ども向けの簡単な哲学の本を使って、普遍的な問題について考え、哲学してみる授業である。 * GER（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠）にもとづく共通評価レベル	
		コミュニケーション・ドイツ語 E	Sprachkurs zu aktuellen Themen des deutschen Sprachraums, eventuell in Beziehung oder im Vergleich mit Japan. Vertiefen der bereits erworbenen Sprachkenntnisse und Fähigkeiten in der Deutschen Sprache, mit dem Fokus auf Hören und Sprechen. Niveau A2 - B1 des Gemeinsamen europäischen Referenzrahmens fuer Sprachen (CEFR Common European Framework for the References of Languages) 本授業はドイツ語圏での時事的テーマに即したドイツ語コース。日本との関連や比較を行う場合もある。聞く・話すを重視して、既に習得したドイツ語知識と能力を深める。 CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）レベル A2～B1。	

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
アカデミックスキル科目	外国語	初修外国語 F コミュニケーション・ドイツ語	In diesem Kurs werden Übungen zur Alltagssprache als Gesprächsanlässe genommen, um die mündliche Kommunikationsfähigkeit sowie das Hörverständnis zu trainieren. Darüber hinaus werden mit Hilfe von Lesetexten und Schreibübungen zu landeskundlichen Themen in Partner- und Gruppenübungen alle vier Fertigkeiten trainiert. Neben der Verbesserung der mündlichen und schriftlichen Kommunikationsfähigkeit, werden grammatikalische Kenntnisse und Wortschatz vergrößert. この授業ではドイツ語文化圏の日常生活に関する表現や聴解を会話で活動し、口頭のコミュニケーション能力の上達を目指します。その上に、ドイツ語文化圏についての読解と書く能力も練習して、上達目指します。ペア・グループ学習を行いながら「話す」「聞く」「書く」「読む」の能力を上達し、文法の知識、語彙拡大にも繋がります。	
		G コミュニケーション・ドイツ語	ソフォークレスの「エレクトラ」をドイツ語で上演する。脚本を理解し、演出を考え、上演までの実務を運営し、一般市民に向けて上演する。ドイツ語そのものを学ぶことだけではなく、ドイツ語を使った表現を行うことが重要となる。	
		H コミュニケーション・ドイツ語	ドイツやオーストリアの美術や、ドイツ語圏の文化、時事に関する文章を主な教材に、「読む、書く、話す」能力の向上を目指す。講読とテキストの内容や作品についての参加者同士のディスカッションを中心に、授業を進める。	
		ドイツ語セミナーA	ドイツ語の読む力を養成することが狙いである。ドイツ語の読解には、ひとつひとつの単語を丁寧に読む解いていく、つまり精読する力と、短時間で何が書いてあるのか大筋を把握する素読の力が必要である。使用する教科書は、ドイツで昨年報道された事件や出来事が載っており、教科書のテキストは精読用、素材によって精読と速読の二つの読み方を使い分ける。この授業では、この二つの能力の養成を目指す。	
		ドイツ語セミナーB	In diesem Kurs liegt der Schwerpunkt auf dem Leseverständnis von theoretischen oder literarischen Originaltexten bzw. Sekundärliteratur, die hinsichtlich Thema und Relevanz im weitesten Sinne mit dem Thema der Abschlussarbeit in Zusammenhang stehen können, aber nicht müssen. Wir beschäftigen uns dabei mit dem Problemkomplex der Genderstudien und Genderbilder. Die Teilnehmer/innen koennen ihren Text waehlen und stellen ihn am Ende den Anderen im Kurs als Referat oder Powerpraesentation vor. ある程度学術的な2次資料あるいは文学の原文を読んで行く。どの文章を読解していくのかは選択可能であり、卒業論文のテーマに関わったものでも可能である、かならずしもそうではなくても良い。理論上はジェンダー論やジェンダーイメージに焦点を合わせ予定。最後には他の受講者たちに読解した文章の内容をパワーポイントあるいは口頭発表で紹介していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	外国語 初修 ドイツ語	ドイツ語の中級程度（B1～B2*）のレベルで、読み、書き、話す練習をしながら、ヨーロッパにおける「子どものための哲学」に触れてみる授業である。6～12歳の子どもを対象としたショートストーリーと、哲学的思考を深めるための問いが収められた下記のテキストを扱う。ドイツ語の文章を読んで訳し、各テーマについて日本語で話し合いをした後、テキストで提起された問いに対する自分なりの応答をドイツ語で書いてみる、という流れで授業をおこなう。 Nel de Theije-Avontuur und Leo Kaniok, "55 philosophische Geschichten für Kinder: Mit Frageimpulsen zum Nach- und Weiterdenken", übersetzt von Gabriele Steinbach, Verlag an der Ruhr, 2012. * GER（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠）にもとづく共通評価レベル。ただし、これはあくまで参考で、ドイツ語の語学試験を受けたことがなくても構いません。	
	フランス語インテンシブⅠA	フランス語の構造と発想法を学び、自分のものにする。文章や単語の背後にある歴史、文化、人間について考察し、視野を広げる。英語以外の外国語を学び、文化の多様性を体験する。フランス語の運用能力を確実に習得し、さまざまなシチュエーションでフランス語を活用できる能力を涵養する。	
	フランス語インテンシブⅠB	フランス語の構造と発想法を学び、自分のものにする。文章や単語の背後にある歴史、文化、人間について考察し、視野を広げる。英語以外の外国語を学び、文化の多様性を体験する。フランス語の運用能力を確実に習得し、さまざまなシチュエーションでフランス語を活用できる能力を涵養する。	
	フランス語インテンシブⅡ	フランス語の構造と発想法を学び、自分のものにする。文章や単語の背後にある歴史、文化、人間について考察し、視野を広げる。英語以外の外国語を学び、文化の多様性を体験する。フランス語の運用能力を確実に習得し、さまざまなシチュエーションでフランス語を活用できる能力を涵養する。	
	フランス語スタンダードⅠA	フランス語の構造と発想法を学び、自分のものにする。文章や単語の背後にある歴史、文化、人間について考察し、視野を広げる。英語以外の外国語を学び、文化の多様性を体験する。フランス語の運用能力を確実に習得し、さまざまなシチュエーションでフランス語を活用できる能力を身につける。	
	フランス語スタンダードⅠB	フランス語の構造と発想法を学び、自分のものにする。文章や単語の背後にある歴史、文化、人間について考察し、視野を広げる。英語以外の外国語を学び、文化の多様性を体験する。フランス語の運用能力を確実に習得し、さまざまなシチュエーションでフランス語を活用できる能力を養う。	
	フランス語スタンダードⅡ	フランス語の構造と発想法を学び、自分のものにする。文章や単語の背後にある歴史、文化、人間について考察し、視野を広げる。英語以外の外国語を学び、文化の多様性を体験する。フランス語の運用能力を確実に習得し、さまざまなシチュエーションでフランス語を活用できる能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	外国語 初修外国語	フランス語ベーシックII	初級のフランス語を基礎から学ぶ週3回のコースである。テキストに沿って、特に会話練習に力を入れて学習を進めていくが、ことばの仕組みや、ことばが使われる背景や文化も一緒に学んでいく。この科目の到達目標は、身近な事柄に関して、相手が簡単な表現を使って、ゆっくりはっきり話してくれれば、フランス語でコミュニケーションがとれることである（これはCEFR A1の口頭表現分野での到達レベルと同じものである）。
		フランス語ベーシックプラスA	読む・書く・聴く・話すにわたって、バランスよくフランス語運用能力を身につける。「ベーシックII」で到達したレベルを出発点にして、フランス語の初級文法の仕上げを行うとともに、フランス語会話に慣れ親しみ、正しい発音で簡単な意思疎通ができるようになる。 ・フランス語圏の文化を理解する。 ・発音と初級文法をマスターし、フランス語で基本的なコミュニケーションができるようになる。 ・簡単な仏作文ができるようになる。 ・仏検5級以上に合格できるレベルを目指す。
		フランス語ベーシックプラスB	日常生活に必要な表現を身につけることを目的として、子供の日常生活を描いたフランスのマンガから、毎回ひとつのシーンを取り上げて購読し、語彙や表現を覚える。 この科目の到達目標は、身近な事柄に関して、相手が簡単な表現を使って、ゆっくりはっきり話してくれれば、フランス語でコミュニケーションがとれるようにする。 （CEFR A1の口頭表現分野での到達レベル）
		コミュニケーション・フランス語A	話す、聞くための練習を中心とし、それに加えフランス語圏の文化・芸術などを学ぶ。すでに1年間学んだフランス語の基礎を応用しながら、生活に役立つ実践的なフランス語表現や語彙を幅広く学び、より正確に伝わるフランス語が話せるようになることを目指す。
		コミュニケーション・フランス語B	実践的なコミュニケーション能力を重視したトレーニングを行う。既に持っているフランス語の知識を応用できるようにすることと、さらなるステップアップを目指してフランス語会話に慣れ親しみ、ただ伝わるだけでなく、正しい表現ができるようにする。
		コミュニケーション・フランス語C	このコミュニケーションの授業では、学生達が持っているフランス語の基礎知識を基づいて、フランス語の会話（日常会話）そしてフランスに関する知識（文化・芸術・社会）を学習する。
		コミュニケーション・フランス語D	このコミュニケーションの授業では、学生達が持っているフランス語の基礎知識を基づいて、フランス語の会話（日常会話）そしてフランスに関する知識（文化・芸術・社会）を学習する。
		コミュニケーション・フランス語E	話す、聞くための練習を中心とし、それに加えフランス語圏の文化・芸術などを学ぶ。フランス語の基礎を応用しながら、生活に役立つ実践的なフランス語表現や語彙を幅広く学ぶ。会話をなめらかに展開させるために必要なフランス語の反射神経を身につける。教材となる漫画（BD）の舞台である北フランス地方の文化の特性および、フランス文化と日本文化の違いについて、基礎的な知識を獲得する。

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	外国語 初修 外国語 F	話す、聞くための練習を中心とし、それに加えフランス語圏の文化・芸術などを学ぶ。フランス語の基礎を応用しながら、生活に役立つ実践的なフランス語表現や語彙を幅広く学び、より正確に伝わるフランス語が話せるようになることを目指す。	
	コミュニケーション・フランス語 G	このコミュニケーションの授業では、学生達の持つフランス語の基礎知識に基づいて、フランス語の会話（日常会話）そしてフランスに関する知識（文化・芸術・社会）を学習する。	
	コミュニケーション・フランス語 H	実践的なコミュニケーション能力を重視したトレーニングを行う。フランス語の知識を応用できるようにすることと、さらなるステップアップを目指してフランス語会話に慣れ親しみ、ただ伝わるだけではなく、正しい表現ができるようにする。	
	フランス語セミナーA	実践的なコミュニケーション能力を重視したトレーニングを行う。コミュニケーション・クラスまでで培った実践的・日常的な言語運用能力をさらに発展させ、論理的思考を要求される場面でフランス語を用いた的確な意思疎通ができるようにする。	
	フランス語セミナーB	実践的なコミュニケーション能力を重視したトレーニングを行う。コミュニケーション・クラスまでで培った実践的・日常的な言語運用能力をさらに発展させ、論理的思考を要求される場面でフランス語を用いた的確な意思疎通ができるようにする。	
	ロシア語インテンシブ I A	ロシア語の基本文法、簡単な日常会話、ロシアに関する一般的な知識の習得を目指す。ロシア文化とロシア人に関する理解を深め、ロシア語そのものへの関心を高める。自主的にロシア語学習ができるようにする。	
	ロシア語インテンシブ I B	ロシア語の基本文法、簡単な日常会話、ロシアに関する一般的な知識の習得を目指す。ロシア文化とロシア人に関する理解を深め、ロシア語そのものへの関心を高める。自主的にロシア語学習ができるようにする。	
	ロシア語インテンシブ II	ロシア語の基本文法（初級に必要とされる事項を網羅する）、簡単な日常会話、ロシアに関する一般的な知識の習得を目指す。具体的には、ロシア語能力検定試験3級受験レベルに該当する。	
	ロシア語スタンダード I A	ロシア語の文字（キリル文字）を習得し、初歩的な文法事項を理解することで、ごく簡単な文章が読み書きできるようになる。さらに会話では、ごく簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目標とする。	
	ロシア語スタンダード I B	スタンダード I A で学習した文字や発音をふまえたうえで、基本的な文法（名詞の格変化や動詞の現在人称変化 II、過去時称形など）および会話（自分の住んでいる場所や働いている場所、買い物時のやりとりなど）を習得する。	
	ロシア語スタンダード II	スタンダード I B よりもさらに高度な文法（形容詞や人称代名詞の格変化、動詞の体、運動の動詞、無人称文、関係代名詞など）および会話（好き嫌い、着衣について、天気表現など）を習得する。	
	ロシア語ベーシック II	ロシア語文法の基礎と簡単な日常会話を学んで、半年でロシア語の最重要事項を習得することを狙いとする。まずはロシア語の文字になれてもらい、そのあと、ロシア語独特（英語と異なる）文法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
経済科学部総合経済学科				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
アカデミックス 外国語 科目	初級外国語	コミュニケーション・ロシア語 A	ロシア語会話における新しい文法形態、語彙、その利用について学習する。コミュニケーションと発音の技能、ロシア語会話を聞き理解する能力を向上する。日常会話に関連した短い文の読み書き能力を発展させる。 いくつかのロシアの象徴と生活習慣を学習する。	
		コミュニケーション・ロシア語 B	ロシアへ行ってみたい人のロシア語能力（読む力、聞く力、書く力）を少しでも高め、ロシアへ対する理解を増すことにある。そのために、ロシアで制作された教材として読む力、聞く力、書く力を高めることを狙いとする。	
		コミュニケーション・ロシア語 C	ロシアへ行ってみたい人のロシア語能力（読む力、聞く力、書く力）を少しでも高め、ロシアへ対する理解を増すことにある。そのために、ロシアで制作された教材として読む力、聞く力、書く力を高めることを狙いとする。	
		ロシア語セミナーA	ロシア語中級程度の能力を習得するための授業である。テキスト（日本文学の古典の原文とロシア語訳）を読みながら、文法や文の構造を理解し、さらに語彙を増やしていく。ロシア語特有の表現を学び、ロシア文化への理解を深めていく。	
		ロシア語セミナーB	ロシア語会話における新しい文法形態、語彙、その利用について学習する。コミュニケーションと発音の技能、ロシア語会話を聞き理解する能力を向上する。日常会話に関連した短い文の読み書き能力を発展させる。 いくつかのロシアの象徴と生活習慣を学習する。	
		中国語インテンシブⅠA	中国語の発音を完全に習得することと基本文法を理解することをねらいとする。 「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のうち、特に「聞く」「話す」能力の養成に重点をおく。	
		中国語インテンシブⅠB	中国語の発音を完全に習得することと基本文法を理解することをねらいとする。 「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のうち、特に「聞く」「話す」能力の養成に重点をおく。	
		中国語インテンシブⅡ	中国語の発音を完全に習得することと基本文法を理解することをねらいとする。 「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のうち、特に「聞く」「話す」能力の養成に重点をおく。	
		中国語スタンダードⅠA	中国語の教科書を用いて、中国語の話す、聞く、書く、読む力を養う。中国語の発音を習得し、日常よく使われる語彙からなる基本的な表現法を理解して、簡単な日常会話ができるようにする。教科書の本文の会話から中国の文化、習慣、風俗にも理解を深める。声調からスタートして中国語の発音、語彙、文法、会話などの基礎知識を身につけ、中国語の日常会話の各場面を設定し、ヒアリングとスピーキングの練習に重点を置いて、中国語のレベルアップを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカ デ ミ ッ ク ス キ ル 科 目	外 国 語	初修外国語	中国語スタンダードⅠB	中国語の教科書を用いて、中国語の話す、聞く、書く、読む力を養う。中国語の発音を習得し、日常よく使われる語彙からなる基本的な表現法を理解して、簡単な日常会話ができるようにする。教科書の本文の会話から中国の文化、習慣、風俗にも理解を深める。声調からスタートして中国語の発音、語彙、文法、会話などの基礎知識を身につけ、中国語の日常会話の各場面を設定し、ヒアリングとスピーキングの練習に重点を置いて、中国語のレベルアップを目標とする。	
			中国語スタンダードⅡ	中国語の教科書を用いて、中国語の話す、聞く、書く、読む力を養う。中国語の発音を習得し、日常よく使われる語彙からなる基本的な表現法を理解して、簡単な日常会話ができるようにする。教科書の本文の会話から中国の文化、習慣、風俗にも理解を深める。中国語の発音、語彙、文法、会話などの基礎知識を身につけ、第1学期に続き、中国語の日常会話の各場面を設定し、ヒアリングとスピーキングの練習に重点を置いて、中国語のレベルアップを目標とする。	
			中国語ベーシックⅡ	集中的な学習で、中国語の文字、発音、簡単な文法など、基礎を確実に習得する。それを使って簡単な会話や作文をする力を養う。また中国の社会や文化をについて紹介し、中国について理解を深める。	
			中国語ベーシックプラスA	初級中国語を基礎にしてさらに文法を学習し、語彙の範囲を広げ、「読解」能力を高めていく。短い文章から作文力を養い簡単な意思表現が中国語でできるようにする。中国語のイントネーションに慣れ、「聴く・話す」能力を身に付け、コミュニケーションがよりスムーズにできるようにする。	
			中国語ベーシックプラスB	基本文法項目と発音を確認しながら、新しい内容を習得していく。「文章形式」と「対話形式」の二つのタイプに分けることにより、聴解・読解力を向上し、学生主体で会話を完成させる。中国文化や習慣に触れながら、国際感覚を身につける。	
			コミュニケーション・中国語A	中国語の日常会話を中心に、「聴く」、「話す」に重点を置きながら初級から中級へのレベルアップにつながる会話表現能力の習得を中心にして進める。実用中国語会話の場面別・機能別を設定し、ヒアリングとスピーキングの練習に重点を置いて、中国語のレベルアップを目標とする。日本語から中国語へ、中国語から日本語への通訳者になれるように目指す。	
			コミュニケーション・中国語B	リスニングや読解、また作文の練習を通して、基本的な語彙や表現力を着実に身につけ、実用的コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・中国の文化や社会状況、教育事情などへの関心を広げることを目指す。 ・中検3級レベルまでの、副詞、接続詞や補語などの学習ポイントを復習しながら、基本語彙を確実に覚え、中国語によるコミュニケーション能力の強化を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカ デ ミ ッ ク ス キ ル 科 目	外 国 語	初 修 外 国 語	コミュニケーション・中国語C	学习汉语的基本对话，在练习中纠正发音，形成正确的语音，语调。 中国語の基本会話を学び，練習を通じて発音矯正を行う。正確な発音，声調について理解する。また作文を通じて，自然な中国語表現を身につける。 初級レベルの中国語を学び終えた学生を対象として，中級レベルの中国語を教授する。	
			コミュニケーション・中国語D	中国語の日常会話を中心に，「聴く」，「話す」に重点を置きながら初級から中級へのレベルアップにつながる会話表現能力の習得を中心にして進める。実用中国語会話の場面別・機能別を設定し，ヒアリングとスピーキングの練習に重点を置いて，中国語のレベルアップを目標とする。日本語から中国語へ，中国語から日本語への通訳者になれるように目指す。	
			コミュニケーション・中国語F	リスニングや読解，また作文の練習を通して，基本的な語彙や表現力を着実に身につけ，実用的コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・中国の文化や社会状況，教育事情などへの関心を広げることを目指す。 ・中検3級レベルまでの，副詞，接続詞や補語などの学習ポイントを復習しながら，基本語彙を確実に覚え，中国語によるコミュニケーション能力の強化を目標とする。	
			コミュニケーション・中国語K	リスニングや読解，また作文の練習を通して，基本的な語彙や表現力を着実に身につけ，実用的コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・中国の文化や社会状況，教育事情などへの関心を広げることを目指す。 ・中検3級レベルまでの，副詞，接続詞や補語などの学習ポイントを復習しながら，基本語彙を確実に覚え，中国語によるコミュニケーション能力の強化を目標とする。	
			コミュニケーション・中国語J	中国語の様々な表現に親しむ。中国語で発信できる力を身につける。論理的な中国語表現について理解する。	
			上海語演習	中国語（「普通話」）の語彙表現と比較しながら，上海語の特徴を明らかにする。 会話練習を通して，上海語の基礎を学ぶ。 ビデオを見ながら，中国地方文化の代表である上海の文化や生活様式などを紹介する。 「京劇」，「越劇」，「滬劇」など，多種なる地方劇の紹介を通して，中国文化の多様性への理解を深める。	
			中国語セミナーA	授業は中国語で行い，テーマまたは場面を設定し講師と受講生1対1の会話練習や 受講生同士の会話などを通して中国語の「話す力」「聞く力」のさらなるレベルアップを図る。さまざまな分野の文章を用いて語彙を増やし，中国語を聞いて適切な表現で応答できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス 外国語 初修外国語	中国語セミナーB	正確运用汉语进行交流，理解汉语的基本文化形态，并能够正确书写基本的日常文本。 中国語を正確に運用してコミュニケーションを図り，中国語の基本的な文化形態について理解をし，基本的な日常的な文章について正確に書くトレーニングを行う。 講義はすべて中国語で行い，中級レベルの中国語をマスターした学生に，より高度な中国語を教授する。	
	中国語セミナーC	授業は中国語で行い，テーマまたは場面を設定し講師と受講生1対1の会話練習や 受講生同士の会話などを通して中国語の「話す力」「聞く力」のさらなるレベルアップを図る。さまざまな分野の文章を用いて語彙を増やし，中国語を聞いて適切な表現で応答できるようにする。	
	朝鮮語インテンシブⅠA	朝鮮語の文字と発音を正確に覚え，自己紹介（年齢・家族関係・学校生活について，等）ができ，自分や他人の言動および物事の状態について，簡単な意思疎通ができる（買い物や旅行など）ことを目的とする。	
	朝鮮語インテンシブⅠB	朝鮮語の文字と発音を正確に覚え，自己紹介（年齢・家族関係・学校生活について，等）ができ，自分や他人の言動および物事の状態について，簡単な意思疎通ができる（買い物や旅行など）ことを目的とする。	
	朝鮮語インテンシブⅡ	3名の講師が，「異文化理解」「聞く・話す・書く」「読む」のそれぞれに重点を置き，異なる教材を用いて授業する。既習の語句・文型を自在に組み合わせる反復練習により，表現の幅を広げる。前期に使用した教科書以外に，韓国社会を感じさせるレアリア（生教材）も活用しながら，言葉と文化を学ぶ。	共同
	朝鮮語スタンダードⅠA	朝鮮語(韓国語)を文字(ハングル)から習得する。文字の書き方を覚えながら，朝鮮語(韓国語)の発音も同時に練習する。日常生活で使用頻度の高い単語と文法を習得し，初級段階の表現力を身につける。習得した言語を実際のコミュニケーションに使用することを想定して授業を進める。	
	朝鮮語スタンダードⅠB	朝鮮語(韓国語)を文字(ハングル)から習得する。文字の書き方を覚えながら，朝鮮語(韓国語)の発音も同時に練習する。日常生活で使用頻度の高い単語と文法を習得し，初級段階の表現力を身につける。習得した言語を実際のコミュニケーションに使用することを想定して授業を進める。	
	朝鮮語スタンダードⅡ	朝鮮語スタンダードⅠで習得した内容を基に，朝鮮語(韓国語)の運用能力を更に高めていく。多様な場面に応じた会話ができるように，初級から中級段階の表現力を身につけていく。習得した言語を実際のコミュニケーションに使用することを想定して授業を進める。	
	朝鮮語ベーシックⅡ	文字や発音，基礎的な文法項目を学習しながら，それを使って「作文，会話」をする能力を養う。また，言語の学習を通して韓国の文化や社会などについての関心や理解を高める。	
	朝鮮語ベーシックプラスA	「朝鮮語ベーシックⅡ」に続き，さまざまな（基礎・応用）文法事項を学習しながら，中級レベルの作文練習をし，それを使って中級レベルのコミュニケーションがとれるように練習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックス スキル 科目	外国語 初修 朝鮮語ベーシックプラスB	「朝鮮語ベーシックⅡ」に続き、さまざまな（基礎・応用）文法事項を学習しながら、中級レベルの作文練習をし、それを使って中級レベルのコミュニケーションがとれるように練習する。	
	コミュニケーション・朝鮮語A	日本と韓国の社会・文化を比較しながら、韓国の事情を理解し、そこからまた新しい語彙や表現（ニュアンス）を学ぶ。そして、要約・発表・論述などのより高度な言語力の取得を目標とする。	
	コミュニケーション・朝鮮語B	日本と韓国の社会・文化を比較しながら、韓国の事情を理解し、そこからまた新しい語彙や表現（ニュアンス）を学ぶ。そして、要約・発表・論述などのより高度な言語力の取得を目標とする。	
	コミュニケーション・朝鮮語C	日本と韓国の社会・文化を比較しながら、韓国の事情を理解し、そこからまた新しい語彙や表現（ニュアンス）を学ぶ。そして、要約・発表・論述などのより高度な言語力の取得を目標とする。	
	コミュニケーション・朝鮮語D	日本と韓国の社会・文化を比較しながら、韓国の事情を理解し、そこからまた新しい語彙や表現（ニュアンス）を学ぶ。そして、要約・発表・論述などのより高度な言語力の取得を目標とする。	
	朝鮮語セミナーA	朝鮮語で訳したり、話し合ったりすることで、朝鮮語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。それらの課題を通じて日本との比較を行いながら、韓国社会や文化の理解を深める。	
	朝鮮語セミナーB	朝鮮語で訳したり、話し合ったりすることで、朝鮮語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。それらの課題を通じて日本との比較を行いながら、韓国社会や文化の理解を深める。	
	スペイン語スタンダードⅠA	スペイン語で簡単な日常会話を行えるようにする。この会話方法を習得する過程で、スペイン語の文法の基本を理解する。さらにスペイン語圏の文化に親しみ、スペイン語圏の社会に対する理解を深める。	
	スペイン語スタンダードⅠB	スペイン語で簡単な日常会話を行えるようにする。この会話方法を習得する過程で、スペイン語の文法の基本を理解する。さらにスペイン語圏の文化に親しみ、スペイン語圏の社会に対する理解を深める。	
	スペイン語スタンダードⅡ	初級日常会話を習得する過程で、直説法現在、未来形、現在完了形、命令形、など文法の基本を理解する。Gustar 動詞、気候天気表現、比較、点過去、線過去、現在進行形の表現を習得する。	
	スペイン語スタンダードⅢ	過去、未来、可能性、希望・願望、複文の表現を含めた中級程度の会話を習得する。この過程で、それらに対応する文法：再帰動詞、点過去、線過去、現在完了、過去完了、過去未来などを理解する。	
	スペイン語スタンダードⅣ	中級程度の会話を習得する中で、対応する文法：直接法、接続法現在、接続法過去、接続法現在完了、接続法過去完了、条件文などを理解する。その過程でスペイン語圏の文化に親しむ。	
	スペイン語ベーシックⅡ	スペイン語で簡単な日常会話を行えるようにする。この会話方法を習得する過程で、スペイン語の文法の基本を理解する。さらにスペイン語圏の文化に親しみ、スペイン語圏の社会に対する理解を深める。	
	コミュニケーション・スペイン語A	日常生活における具体的な状況を設定し、その場に応じた応用会話ができるようにする。さらに、スペイン語圏の文化に親しみ、スペイン語圏の社会や民族に対する理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックスキル科目	外国語 初修 外国語	コミュニケーション・スペイン語B	日常生活における具体的な状況を設定し、その場に応じた応用会話が出来るようにする。さらに、スペイン語圏の文化に親しみ、スペイン語圏の社会や民族に対する理解を深める。
	スペイン語セミナーB	聴く、話す、書く、読むの総合能力を向上させる。今まで習得したスペイン語の文法を再確認し、それらを統合して、コミュニケーション能力の向上を図る。さらに、スペイン語圏の文化に親しみ、スペイン語圏の社会や民族に対する理解を深める。	
	イタリア語スタンダード IA	イタリア語の発音、名詞・形容詞の変化、動詞の直説法現在形の全活用パターン、日常よく使う不規則変化動詞、直接目的語・間接目的語などを中心とする文法事項と、それに関連した基本的な文章及び会話表現を修得する。	
	イタリア語スタンダード IB	イタリア語の発音、名詞・形容詞の変化、動詞の直説法現在形の全活用パターン、日常よく使う不規則変化動詞、直接目的語・間接目的語などを中心とする文法事項と、それに関連した基本的な文章及び会話表現を修得する。	
	イタリア語スタンダード II	「イタリア語スタンダード IB」の内容を踏まえ、文法・読解・会話能力のレベルアップを図る。文法事項の後半部を学ぶと共に、文章の読解能力やコミュニケーション能力を高めてゆく。また、イタリア文化についての知識も充実させてゆく。	
	イタリア語スタンダード III	イタリア語会話・文法・読解能力のレベルアップを図る。イタリア人の物の考え方など、現代イタリアの文化・芸術や習慣、その歴史的伝統の魅力にも少しずつ触れながら進めてゆく。文法の規則を通して、一つの国の文化的起源にまで遡る。また、当該科目の内容を通じて、自分の好みや、未来への望み、自分の性格などをイタリア語で表現することを目指す。	
	イタリア語スタンダード IV	イタリア語会話・文法・読解能力のレベルアップを図る。イタリア人の物の考え方など、現代イタリアの文化・芸術や習慣、その歴史的伝統の魅力にも少しずつ触れながら進めてゆく。文法の規則を通して、一つの国の文化的起源にまで遡る。総合的なコミュニケーション能力を高めると共に、イタリア文学の有名な文章なども扱う。また、当該科目の内容を通じて、イタリアで生活するためのイタリア語を身に付けることを目標とする。	
	イタリア語ベーシック II	「外国語ベーシック I」の内容を踏まえ、文法・読解・会話を含む、総合的なイタリア語の運用能力を養成する。イタリアの文化やその歴史的伝統にも触れながら、語学能力の大事な基本となる「文法」を基礎に据えて進めてゆき、文章の読解やコミュニケーション能力の涵養のために必要な事項を習得する。	
	コミュニケーション・イタリア語A	現代イタリア人の物の考え方、習慣や文化にも少しずつ触れる授業。これらはすべて、欧州の母であるイタリアの歴史的伝統につながっている。イタリア人は、何を、どういうふうに考えるのか。文法の規則を通してでも、一つの国の文化的・歴史的起源にたどりつくことができる。文化や芸術の魅力を常に授業の中心に置きながら進める。当該科目の講義内容や学習を通じて、「耳をイタリア語に慣れさせる」ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要					
経済科学部総合経済学科					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカ デ ミ ッ ク ス キ ル 科 目	外 国 語	初 修 外 国 語	コミュニケーション・イタリア語 B	イタリア語会話・文法・読解能力のレベルアップを図る。イタリア人の物の考え方など、現代イタリアの文化・芸術や習慣、その歴史的伝統の魅力にも少しずつ触れながら進めてゆく。文法の規則を通して、一つの国の文化的起源にまで遡る。また、当該科目の内容を通じて、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とする。	
			イタリア語セミナーB	映画、芸術、社会をあつかったイタリア語文献を講読することで、イタリア語の修練だけでなく、イタリアの文化と社会についても学ぶ。基本的には、初級文法を学んでいることを前提し、聴講者のレベルに応じた文献を選び、文法学習から一歩進み、イタリアの文化と社会についての理解を深めていく。	
			インドネシア語ベーシック II	Belajar tata bahasa dasar dan percakapan sehari-hari dalam Bahasa Indonesia. Memahami tata bahasa Indonesia yang dasar. Bisa hafal ekspresi percakapan yang sederhana seperti memperkenalkan diri. インドネシア語の初級文法と簡単な日常会話の習得である。基本的なインドネシア語の文法を理解する。自己紹介など簡単な会話表現の基本を身につける。インドネシアの文化に親しむ。	
			古典古代ギリシア語 A	古代語は、死語となっている場合でも、様々な学問や各種専門用語に大きな影響を与えていることが多い。古代ギリシアの文化を学ぶ上で必須のものである古代ギリシア語の基礎的な文法的知識を学ぶ。	
			古典古代ギリシア語 B	古代語は、死語となっている場合でも、様々な学問や各種専門用語に大きな影響を与えていることが多い。古代ギリシアの文化を学ぶ上で必須のものである古代ギリシア語の基礎的な文法的知識を学ぶ。	
			古代ローマ帝国ラテン語 A	古代語は、死語となっている場合でも、様々な学問や各種専門用語に大きな影響を与えていることが多い。 古代ローマの文化を学ぶ上で必須のものであるラテン語の基礎的な文法的知識を学ぶ。	
			古代ローマ帝国ラテン語 B	古代語は、死語となっている場合でも、様々な学問や各種専門用語に大きな影響を与えていることが多い。 古代ローマの文化を学ぶ上で必須のものであるラテン語の基礎的な文法的知識を学ぶ。	
			古代エジプト神聖文字文 A	古代語は、死語となっている場合でも、様々な学問や各種専門用語に大きな影響を与えていることが多い。古代エジプトの文化を学ぶ上で必須のものである古代エジプト語の基礎的な文法的知識をヒエログリフ文字で学ぶ。	
			古代エジプト神聖文字文 B	古代語は、死語となっている場合でも、様々な学問や各種専門用語に大きな影響を与えていることが多い。古代エジプトの文化を学ぶ上で必須のものである古代エジプト語の基礎的な文法的知識をヒエログリフ文字で学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アカデミックスキルトレーニング	アカデミックライティング	4年次の卒業論文作成にむけて、論文執筆の基礎的訓練をする。論文の構成法や形式について学んだあと、各自が「論文プラン」を作成し、そのプランに基づいて教員の指導を受けながら小論文の執筆を行う。問題の立て方、資料の集め方、資料の読み方、発表の仕方、ディスカッションの仕方など、学際日本学プログラムで学ぶうえで必要な基礎的技術を身につけ、留学生との共修のなかでアカデミックな日本語の表現力を鍛錬する。	共同
	ライティングスキル	本授業は、課題解決スキルⅡに続けて受講することを想定しており、受講生が身に付けているアカデミックライティングのスキルを振り返り、その修得レベルを高めることを目的にした授業である。授業は、これまでのアカデミックライティングのスキルの修得状況を振り返り、その後、課題解決スキルⅠの受講学生が作成したレポートの添削活動を行う。	
	社会調査演習A	本授業は、社会調査の一つである質問紙調査における一連のプロセスとそれぞれのプロセスにおいて必要なスキルおよび統計手法を修得するための授業である。本授業は、4名程度のグループで質問紙調査を実施する。なお、授業では、質問紙調査を進めていく各プロセスで修得すべきスキルと統計手法を講義したうえで、その内容をふまえ、実際の調査票作成、調査のうえで、授業の最後に調査結果報告会を行う。	
	社会調査演習B	本授業は、社会調査の一つであるインタビュー調査における一連のプロセスとそれぞれのプロセスにおいて必要なスキルを修得するための授業である。本授業は、4名程度のグループで実際にインタビュー調査を実施する。なお、授業では、インタビュー調査を進めていく各プロセスで修得すべきスキルを講義したうえで、その内容をふまえ、実際のインタビュー調査を経て、授業の最後に調査結果報告会を行う。	
実践学修科目	演習Ⅰ	本科目は、知識・理解科目で学習した専門知識を定着、深化させるとともに、大学での学修全般で身に付けた知識やスキルを実践活用させることを目的にしたものである。なお、本科目は、3年次第1学期での受講を想定しており、10名程度の少人数により実施される。	
	演習Ⅱ	本科目は、知識・理解科目で学習した専門知識を定着、深化させるとともに、大学での学修全般で身に付けた知識やスキルを実践活用させることを目的にしたものである。なお、本科目は、3年次第2学期での受講を想定しており、10名程度の少人数により実施される。	
	演習Ⅲ	本科目は、知識・理解科目で学習した専門知識を定着、深化させるとともに、大学での学修全般で身に付けた知識やスキルを実践活用させることを目的にしたものである。なお、本科目は、4年次第1学期での受講を想定しており、10名程度の少人数により実施される。	
	演習Ⅳ	本科目は、知識・理解科目で学習した専門知識を定着、深化させるとともに、大学での学修全般で身に付けた知識やスキルを実践活用させることを目的にしたものである。なお、本科目は、4年次第2学期での受講を想定しており、10名程度の少人数により実施される。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践学修科目	企業分析入門	財務諸表を利用して企業を分析する初歩的な方法を学習する。 5人程度で一つのグループを作り、グループ毎に実際の財務諸表を分析し、その結果をプレゼンテーションすると共に、レポートにまとめる。 会計学概論Ⅰ・Ⅱでは、財務諸表の作成方法を学習した。財務諸表を作成するのは、作成すること自体に目的があるのではなく、様々な人に財務諸表を利用してもらい、企業に関する人々の意思決定をより良いものにするためである。この企業分析入門では、財務諸表を利用することで企業の経営戦略や財務戦略、経営成績、財政状態などを読み取る初歩的な方法を学習する。 学習を通じて、企業を理解する（分析する）には、簿記・会計の知識だけでは不十分で、経営戦略論・ファイナンス・経営税務論などの企業経営に関する知識も必要なこと、さらに、財務諸表を利用することで企業経営上の問題解決の糸口を得られることも学び、経営学プログラムで学ぶことの意義を確認する。 また、5人程度で一つのグループを形成し、グループで実際の財務諸表を利用して企業分析を行い、パワーポイントなどを使って分析結果をプレゼンテーションしてもらおうと共に、レポートの提出をしてもらおう。一連のスタディスキルズで学習したスキルズのさらなる向上を目指す。このことを通じて、演習などの学習がより実りあるものにする。	
	学修デザイン演習Ⅰ	自ら課題を発見し、その探究にふさわしいサブメジャーの学修領域を選んで学修計画を立てなければならない学際日本学プログラムに進学した2年次学生を対象とする課題探究サポートのための演習である。数度にわたって参加学生に、自分の関心にあわせた自由発表をおこなわせて議論を重ねていき、必要最低限の予備調査をさせながら、各自がいただいている課題意識を鮮明なものにし、サブメジャーの選択を適切に行わせることを目的とする。	
	学修デザイン演習Ⅱ	学際日本学基礎モジュールの学修を振り返り、そこで得た知識を定着させるとともに、学生各自の課題探究に役立てるためのサポートをおこなう。参加者をグループに分け、受講した基礎モジュール科目で学んだことを復習させるとともに、課題図書を指定して学修させることで、学んだ知識を学生各自の課題探究につなげる方途を模索させる。最後に実施される学際日本学基礎モジュール修了試験の合格をもって、この科目の合格とする。	
	学際日本学実習	日本アニメ作品の原画や絵コンテなど、製作の現場から直接入手、寄贈された貴重な資料（＝アニメ中間素材）に触れつつ、それらのアーカイビングを行う。各々の資料に関する作品の題名など情報を調べ、まとめながら、それぞれの作品が生み出されるまでのプロセスを実証的に確認することで、モノとしての資料が語る日本アニメの現場、歴史、スタイル、美学への知識を主体的に獲得する。日本のアニメ製作現場で実際に使われた各種資料に触れ、それらを整理し調査することで、履修者各自が課題を見出し、探究をすすめる。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践学修科目	学際日本学演習	学際日本学プログラムの中核科目として、留学生との共修を通じて、学生各自の課題探究をすすめることを目標とする演習である。各教員が設定する緩やかな共通テーマに関する基礎的文献を読みすすめながら、学生は各自で設定した課題にしたがって調査をおこない、その結果を授業の中で発表して、参加者全員で議論する。引用の作法をはじめとする論文の作法の修得や、論文執筆のために必要な文章力の鍛錬も重視する。3年生は課題の発見と予備的調査が、4年生は執筆中の卒業論文に関する報告と議論が中心になる。	
	共修日本学演習	学際日本学プログラムの中核科目として、留学生との共修を通じて、学生各自の課題探究をすすめることを目標とする演習である。留学生と日本人学生とでグループを作り、各教員が設定する緩やかなテーマ設定に関する基礎的文献の購読を進めながら、各グループはそれぞれが設定した課題にしたがって調査・研究を進め、授業の中で発表して、参加者全員で議論する。引用の作法をはじめとする論文の作法の修得や、論文執筆のために必要な文章力の鍛錬も重視し、相互添削の機会も設ける。4年生は執筆中の卒業論文に関する報告もおこなう。	
	課題解決スキルⅠ	本授業は、課題解決活動において必要なプロセスの理解と、それぞれのプロセスで必要な基本レベルの課題解決スキルの修得を目的とする授業である。プロセスの理解とスキルの修得を同時に行うため、授業は、担当者が現実の事象を提示し、その事象における課題発見から課題解決に至るプロセス毎に、必要なスキルの講義形式での教授とそのスキルを用いた4名程度のグループでの実習を繰り返す形式をとっている。最後に、課題解決の成果をグループ単位でレポートにする。	共同
	課題解決スキルⅡ	本授業は、課題解決活動のプロセス毎に必要な課題解決スキルを振り返り、その修得レベルを高めることを目的にした授業である。授業は、課題解決スキルⅠと同時に開講し、課題解決スキルⅠで提示された現象に対する課題解決活動を行いつつ、課題解決スキルⅠの受講生の課題解決活動をサポートする活動を行う。	
	課題演習A	本授業は、これまで獲得してきた専門的知識を活用した学習活動を通じて、受講者の獲得した専門的知識の更なるブラッシュアップと総合化を目的とする授業である。授業は、担当教員が単独で開講する演習形式をとり、担当教員が設定する学修目標の下で、4～5名程度の学生と学修を進めていく。担当教員が定める学修目標としては、経済学の専門的知識の深化、課題探究活動、政策提案活動、実習を想定している。	
	課題演習B	本授業は、これまで獲得してきた専門的知識を活用した学習活動を通じて、受講者の獲得した専門的知識の更なるブラッシュアップと総合化を目的とする授業である。授業は、担当教員が単独で開講する演習形式をとり、担当教員が設定する学修目標の下で、4～5名程度の学生と学修を進めていく。担当教員が定める学修目標としては、経済学の専門的知識の深化、課題探究活動、政策提案活動、実習を想定している。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践学修科目	課題演習C	本授業は、これまで獲得してきた専門的知識を活用した学習活動を通じて、受講者の獲得した専門的知識の更なるブラッシュアップと総合化を目的とする授業である。授業は、担当教員が単独で開講する演習形式をとり、担当教員が設定する学修目標の下で、4～5名程度の学生と学修を進めていく。担当教員が定める学修目標としては、経済学の専門的知識の深化、課題探究活動、政策提案活動、実習を想定している。	
	社会開放演習A	本授業は、問題解決力を高めつつこれまで獲得した知識を総合的に活用する学習経験をするとともに、思考方式や社会的背景が異なる社会人との共修を通じて、チームワーク、リーダーシップの養成を目的とした授業である。本授業で扱うテーマは、行政や中小企業、団体との協議を経て、かつ協力も得ながら主担当教員と協力教員が設定し、現在や将来生じる課題や、将来の社会人が身に付けておくべきスキルを想定している。なお、本授業に参加する社会人は、本授業の受講者ではなく、履修証明制度または職業実践力育成プログラムの枠組みで開講している講座の受講者である。	共同
	社会開放演習B	本授業は、問題解決力を高めつつこれまで獲得した知識を総合的に活用する学習経験をするとともに、思考方式や社会的背景が異なる社会人との共修を通じて、チームワーク、リーダーシップの養成を目的とした授業である。本授業で扱うテーマは、行政や中小企業、団体との協議を経て、かつ協力も得ながら主担当教員と協力教員が設定し、現在や将来生じる課題や、将来の社会人が身に付けておくべきスキルを想定している。なお、本授業に参加する社会人は、本授業の受講者ではなく、履修証明制度または職業実践力育成プログラムの枠組みで開講している講座の受講者である。	共同
	社会開放演習C	本授業は、問題解決力を高めつつこれまで獲得した知識を総合的に活用する学習経験をするとともに、思考方式や社会的背景が異なる社会人との共修を通じて、チームワーク、リーダーシップの養成を目的とした授業である。本授業で扱うテーマは、行政や中小企業、団体との協議を経て、かつ協力も得ながら主担当教員と協力教員が設定し、現在や将来生じる課題や、将来の社会人が身に付けておくべきスキルを想定している。なお、本授業に参加する社会人は、本授業の受講者ではなく、履修証明制度または職業実践力育成プログラムの枠組みで開講している講座の受講者である。	共同
	インターンシップ	本科目の履修学生は、新潟市およびその近郊に事業所を有する企業や官公庁の中から、受け入れが可能である企業・官公庁において短期の就業体験（インターンシップ）を行う。	
	会計税務インターンシップ	会計事務所における実務実習を通じて、会計・税務実務に関する理解を深めるとともに、その業務内容の特質や広がりを理解する。さらに実習終了後に、実務実習についてレポートを作成し提出するとともに、報告発表を行う。本講義を通じ、学生には、自身に欠けている知識や意識を認識し、将来、社会人として活躍するために、今後の学生生活をどのように過ごしていくべきかを主体的に考えてもらいたい。	

授 業 科 目 の 概 要			
経済科学部総合経済学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践学修科目	外国語文献講読Ⅰ	経済学・経営学のディシプリンを起点に、人文社会科学の様々な隣接領域へと探究を拡げていくための基礎として、英語をはじめとする外国語の専門文献を読みとく訓練をおこなう。英語の場合には、1年次に学んだ一般学術英語（EGA: English for General Academic Purposes）を基礎に、特殊学術英語（ESA: English for Specific Academic Purposes）への橋渡しを、初修外国語の場合には、1年次に学んだ初級文法の基礎を、ある程度の長さをもったテキストの読解につなげていくための基礎的訓練をすすめ、ともに、必要に応じて語学的な解説やグループ作業等を取り入れ、一クラスの定員は20名として、少人数での集中的な学修機会を保证する。	
	外国語文献講読Ⅱ	経済学・経営学のディシプリンを起点に、人文社会科学の様々な隣接領域へと探究を拡げていくための基礎として、英語をはじめとする外国語の専門文献を読みとく訓練をおこなう。「外国語文献講読Ⅰ」を受けて、専門領域の外国語文献を読みこなすための知識を高め、卒業論文執筆時に外国語文献を自在に使いこなすための基礎的な学力を身につけさせることを目標とする。必要に応じて語学的な解説やグループ作業等を取り入れ、一クラスの定員は20名として、少人数での集中的な学修機会を保证する。	
卒業論文	卒業論文	本授業は、知識・理解科目やアカデミックスキル科目、実践学修科目で身に付けてきたさまざまなスキルを活用し、受講者自身が興味を持ったテーマに関して、指導教員による定期的な指導を受けながら1年間で受講者が卒業論文を作り上げ、作り上げた卒業論文の内容を聴衆にプレゼンテーションする。	
自由選択科目	数学入門	経済学で用いる基礎的な数学についての理解・習得を目指す。高校数学と大学で学ぶ数学の基礎を併せて学習することにより、専門科目の履修をよりスムーズに行えるようにする。	
	職業指導	キャリア教育ないしはその理念に沿ったキャリア・ガイダンス（進路指導）の意図するところは、一人ひとりの青年に対し、いかにして自己概念（Self-Concept）を確立させるかにある。つまり、かけがえのない自分の人生をいかに生きぬくかという発想の下で、自己を見つめ、将来の職業との関わり合いにおいて、現実の自己と理想の自己とをいかに調和的にとらえられるように導いていくかということである。進路の選択は、学校や職業の選択であるとともに、人生の生き方を選択し設計することである。“生き方の設計”は、個々に現実の各要因が取り入れられる“現実的自己概念”を正確に把握し、さらに将来どんな生き方をするのが自分にとって、もっとも望ましいかという“志向的自己概念”を明確にして、“自己を理解する”ことにより実践されるものである。本講義は、キャリア教育の発想とその実践成果を学んでもらうとともに、体験学習、ロールプレイング、ディスカッションを通して他者の価値観に接する機会を設け、翻って自己の生き方への関心を高め、生きがいを追求する場として、自己理解、職業観の育成を図ることを目的とするとともに、進路指導（職業指導）の技法を習得することを目的とする。	